



~~326.0981776~~ (2)

大審院藏版

第十一卷
昭和九年

大審院刑事判例集

法曹會發行

C2
2711
8



282363



○放火被告事件 (昭和九年(レ)第四八三號
同年六月十四日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 松井雅留 辯護人 (高橋武夫)
【原 審】 廣島地方裁判所

○判 示 事 項

陪審手續ニ於ケル裁判長ノ説示ト意見表示ノ有無

○判 決 要 旨

裁判長カ客觀的ノ事實竝證據ヲ有リノ儘ニ説示シタル結果陪審員
カ有罪ノ判斷ヲ爲シ得ルニ至ルモ説示ニ意見ノ表示アリタルモノ
ト爲スヲ得サルモノトス

【参照】 陪審法第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ
陪審手續ニ於ケル裁判長ノ説示ト意見表示ノ有無

法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

○事實

原審ハ陪審ノ答申ヲ採擇シ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十二年ニ處ス但シ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ金川秀人ノ所有ニシテ吳市ノ殆ト中央ニ當リ人家稠密ノ場所ナル神田町十丁目十番地ノ十二位置スル木造瓦葺二階建ノ家屋ヲ月二十三圓ノ家賃ニテ借受ケ昭和七年一月ヨリ太陽館ト稱スル屋號ニテ寫眞業ヲ營ミ居リタルモノナルトコロ同年八月中旬頃二階暗室内ノ電燈ニ印畫紙包裝用ノ赤色セラビン紙數枚ヲ重ネテ作りタル袋ヲ被セ點燈シタル儘之ヲ消スコトヲ忘レタル爲其ノ電熱ニヨリ右紙袋カ燒ケ落チ床上ニ散在セル數枚包裝紙ニ燃移リテ小火ト爲リ小許ノ動產ヲ燒失シタルコトアリシモ當時宅内動產ニ付日本動產火災保險株式會社及東邦火災保險株式會社ト右火災保險契約ヲ締結シ居リシ爲右兩保險會社ヨリ損害ニ相當スル保險金合計百三十五圓ノ支拂ヲ受ケタルカ同年春頃以來ヘロイン中毒ニ罹リ之カ爲多額ノ費用ヲ要シ生計次第ニ困難トナリタル爲營業用寫眞機ノレンズヲ始メトシ衣類等ヲ入質シ辛フシテ營業ヲ繼續シ居タルニ昭和八年九月三十日ニ及ヒ當日支拂ヲ要スル延滞家賃

等數十圓ニ上ルニ拘ラス所持金僅カニ十餘圓ニ過キサリシ所ヨリ一入財政ノ逼迫ヲ痛感シテ煩悶ヲ重ヌル中前記昭和七年八月ニ於ケル小火ニ因リ火災保險金ヲ受領シタルコト並現ニ宅内動產(價格約一千七百圓位)ニ付日本動產火災保險株式會社ト保險金額二千二百二十五圓東邦火災保險株式會社ト保險金額一千圓ノ各火災保險契約ヲ締結シ其ノ有効期間中ニ在ルコトヲ想起スルニ及ヒ茲ニ自宅ノ二階暗室内ニ前記出火ノ場合ト同様ノ裝置ヲ爲シテ放火シ恰モ過失ニ因リ發火シタルモノノ如ク裝ヒテ右火災保險金合計三千二百二十五圓ヲ取得シ以テ苦境ヲ脱センコトヲ企テ同日正午頃家人ノ外出シタル隙ニ乘シ其ノ自宅ニシテ妻子及雇人ノ住居ニ使用スル前記吳市神田町十丁目十番地ノ十木造瓦葺二階建ノ家屋ヲ燒燬スル意思ヲ以テ右住宅ノ二階暗室内ニ發火裝置ヲ爲シテ放火ノ行爲ヲ敢行シ同日午後二時頃右住宅ヲ燒燬シ尙隣家及附近電柱電線等ニ延燒セシメ横野行男外十二名方ノ十二棟(十三戸)ノ各住宅ヲ全燒江草亮二外七名方ノ八棟(八戸)ノ各住宅ヲ半燒セシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十二年ニ處シ同法第二十一條ニ從ヒ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用(陪審費用ヲ含マス)ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

裁判長カ本件ニ付陪審員ニ對シ與ヘタル說示ノ内容程度及順序ノ概略ハ次ノ如シ

陪審手續ニ於ケル裁判長ノ說示ト意見表示ノ有無

先ツ冒頭ニ於テ事件ノ真相ハ只一アルノミト爲シ辯護人ノ辯論中ノ疑ハシキハ罰セストノ格言ヲ誤解セサルコトヲ注意シ次テ

豫審終結決定書ノ公訴事實(原審認定事實ト同様)ヲ讀聞ケ出火裝置ヲ爲スハ燐寸ヲ以テ放火スルト法律上同様ナルコトヲ説明シ次テ

刑法第八條ノ人ノ住居及燒燬ノ意味竝科刑其ノ減輕ノコトヲ解説シ

本件出火ノ原因カ公訴事實ノ如ク被告人ノ故意ノ出火裝置ニ因ルカ被告人主張ノ如ク被告人ノ過失ニ基クカカ問題トナルヘキ事實ニシテ出火カ其ノ他ノ原因ニ基クモノナリヤ否ハ第二段ノ問題ナルコトヲ説明シ次ニ證據ノ說示ニ入り

被告人カ警察、檢事及豫審第三回ノ取調ニ至ル間本件犯罪ヲ自白シナカラ其ノ後ニ至リテ之ヲ讞シ犯罪事實ヲ否認スルニ至リタル理由トシテ被告人ノ辯解スル所ヲ説明シ陪審員ハ孰レニ信ヲ措クヘキカヲ判斷スヘキモノニシテ自白ハ後日之ヲ取消スモ證據トシテ其ノ效力ヲ失フモノニアラサルコトヲ指示シ

右ノ自白ニ付辯護人ハ被告人カ當時ヘロイン中毒患者ナルニ勾留ニ依リ之カ施用ヲ斷タレタル爲所謂禁斷性精神病者トナリ虚偽ノ自白ヲ爲セルモノナリト主張シ檢事ハ被告人カヘロイン中毒患者ナルコトハ認ムルモ重症ノモノニアラス警察、檢事及豫審ニ於テ無理不當ナル取調カ行ハレタル模様ナキヲ

以テ右自白ハ虚偽ノモノニアラスト主張スルヲ以テ此ノ兩者ノ主張ノ何レヲ正當トスルカヲ陪審員ニ於テ圓滿ナル常識ト深慮ヲ以テ公平ニ判斷スルモノナルコトヲ告ケ此ノ點ニ關シ被告人カ禁斷性精神病者ナルヤ否ノ證據ハ本件ニ存在セサルコトノ注意ヲ與ヘ次テ

本件ノ檢舉ニ當リタル三警察官ノ證言ノ信憑力薄弱ナルコトヲ辯護人ニ於テ主張スルモ同證人等ハ國家ノ役人トシテ職務上取調ヲ爲シタルモノニシテ又宣誓ノ上證言セルモノナルコトニ注意シテ判斷スヘキコトヲ告ケ更ニ進テ

檢事カ有罪ノ證據トシテ舉示シタルモノ辯護人カ被告人ノ利益ニ引用シタル各證據ニ付一々説明ヲ加ヘ各證據ハ別々ニ獨立シテ判斷スルコトナク之ヲ綜合シ大局ヨリ事件ノ真相ヲ判斷スヘク陪審員ハ國法ノ與フル神聖ナル職務ナレハ正義ノ前ニハ何物ヲモ恐レサル勇氣ヲ以テ所信ヲ披瀝スヘキコトヲ希望シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人高橋武夫 三浦強一 上告趣意書第四點原審公判ニ於ケル裁判長ノ說示ハ其ノ敘述ト用語ニ於テ固ヨリ有罪ヲ論定シタルモノナク陪審員カ有罪ノ評決ヲ爲スヘキヲ慫慂シタル何等ノ事蹟ヲ存セサル

陪審手續ニ於ケル裁判長ノ說示ト意見表示ノ有無

ハ勿論ナリト雖其ノ説示論述ノ結構當事者主張事實ノ排列及證據方法展開ノ跡ヲ考察シ夫レカ陪審員ノ腦裡ニ訴フル影響力ニ想到スルトキ右説示ハ其ノ客觀的性能ニ於テ畢竟陪審員ニ對スル有罪判斷ノ教書ニ外ナラサルモノト認メサルヲ得ス而シテ裁判長カ有意的ニ斯ノ如キ判斷論述ヲ爲ササルハ論ヲ俟タサルモ若シ其ノ表ハレタル説示外觀ニシテ一度無罪或ハ有罪ノ一方ニ傾斜セン乎説示者ノ主觀意思狀態ニ拘ラス其ノ説示ハ玆ニ説示タルノ適法性ヲ喪失スルモノトス是レ陪審法第七十七條カ説示ハ專ラ事實竝ニ證據ノ有レ儘ナル存在ノミヲ以テ構成スヘシト爲シ其ノ間判斷ノ混入ヲ許サストスル當然ノ結果ニ外ナラス今本件説示ヲ見ルニ裁判長ハ所在ニ檢事ノ主張ト辯護人ノ主張トヲ舉示對照シ其ノ雙方ノ主張ノ何レカ正鵠ナルヤハ偏ニ陪審員ノ判定ニ俟ツヘキヲ懇示スルト同時ニ概ネ辯護人ノ主張ニ難點アルトキハ之ヲ難點トシテ指摘スルトコロナク陪審員ノ慎重ナル判斷ヲ要スヘキ所以ヲ特ニ附言強調シ檢事ノ有罪證據ニ付テハ其ノ援用ノ正當ナルモノニ付裁判長ハ更ニ之ヲ鮮明ナラシメ辯護人ノ無罪證據モ亦裁判長ハ固ヨリ之カ存在ヲ是認スルト共ニ檢事ノ反論ヲ明確ナラシメ若ハ辯護人ノ主張ニ對スル不利ノ證據材料ヲ適法ニ索出シテ陪審員ノ考慮ヲ求ムルコト極メテ切ナリ又辯護人及被告人ノ辯論辯解ニ適合スル證言ニ付其ノ陳述ノ不信ヲ疑惑スヘキ狀況ヲ展示シテ能ク陪審員ノ注意ヲ喚起シ又檢事ト辯護人ノ事實ニ對スル意見ノ對立ニ對シ或ハ辯護人ニ不利ナル判斷ヲ招來スヘキ他ノ事實ヲ拉シ來リテ陪審員ノ留意ヲ要望スル等裁判長ノ措置ノ公平適正ニモ拘ラス其ノ組立テラレタ

ル説示ヲ通覽概觀スルトキハ素ヨリ夫レハ偶然ナルヘキモ結局辯護人ノ主張排斥ノ外觀ヲ備ヘタルモノナルコトヲ感覺セサルヲ得ス若シ夫レ説示敘述ノ順序結構ニ至リテハ自白問題「ヘロイン」中毒問題等輪廓ノ大ナルモノヨリ確メ超過保險契約ノ締結被告人當時ノ言動ニ漸及シ出火當時ノ被告人ノ舉措ニ至リテ巧ニ事實事相ニ急潮ヲ帶ハシメ之ニ加フルニ被告人ノ財政逼迫入質家賃滯納等ノ事實ヲ展開シ日常ノ米鹽薪炭ノ資代不拂ニ至リテ惻々陪審員ノ心證ニ肉迫セントスルモノアリ其ノ順序仕組ノ自ラ精緻ニシテ結構ノ巧妙妥當ナル必ス人ヲシテ有罪ヲ承服セシメサレハ措カサルモノアリ是レ固ヨリ裁判長ノ意圖セサルトコロナルヤ言フ俟タサレトモ而モ其ノ事實及證據ノ取扱ニ關スル練熟ナル技能ト事案ニ對スル透徹ナル省察トハ不識不知其ノ説示ノ上ニ審判者ヲ躍動セシムルニ至レルモノニ外ナラス即チ本件説示ノ公平ハ一々之ヲ檢シテ毫末モ間然スルトコロナシ只之ヲ纏メテ一團ト爲シ全貌的ニ之ヲ感覺スルトキ説示ノ上ニ裁判長ノ主觀ト離レタル別個ノ客觀性ヲ看取スヘク其ノ客觀的存在ハ遂ニ陪審員ニ對シ著シク有罪認定ヲ示唆スル説示トシテ表現セルカ故ニ其ノ用語辭句ノ如何ニ拘ラス玆ニ其ノ正當性ヲ喪失シタルモノト謂ハサル可カラス説示ノ説示タルハ陪審員ヲシテ主張事實及其ノ證據ノ外ニ絲毫ノ判斷ヲ視知推測セシメサルニ在リ其ノ説示事項ノ順序敘述ノ構成ハ固ヨリ整美ナルヲ要セサルヘク又ソノ構成敘述語法カ判斷ヲ推測セシムル虞アルモノハ故ラ之ヲ秘隱スヘキ形態ニ據ルノ努力ヲ必要トス陪審裁判制度ノ發達ヲ害スル素因カ職トシテ説示ニ在リトセララルニ鑑ミ説

示カ評決ニ先行スル第一ノ判斷タルカ如キ弊ハ鋭ク之ヲ排セサルヘカラサルモノニ係ハレリ原審ノ説示ハ即チ敍上ノ所説ニ照シ有罪の傾向ヲ帶有スルモノトシテ説示ノ適性ヲ失ヒタルモノト謂フヘク從テ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

裁判長カ説示ヲ爲スニ當リテハ個々ノ事實及證據ニ付テハ勿論又總括的ニモ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ付意見ヲ明示又ハ暗示スヘキモノニ非サルコト勿論ナリト雖客觀的ノ事實及證據カ有リノ儘ニ説示セラレタル結果トシテ陪審員カ容易ニ有罪無罪ノ判斷ヲ爲シ得ルニ至ルコトアルモ之カ爲ニ説示其ノモノニ意見ノ表示アリト認ムヘキニ非ス原審ニ於ケル説示ノ内容ヲ審案スルニ裁判長カ其ノ意見ヲ表示シタルモノト認ムルニ足ラサルカ故ニ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○收賄詐欺文書偽造行使被告事件 (昭和九年(九)第五二六號 同年七月二日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 池田 查 辯護人 林村 上 深 澤 明
外三名
【第一審】 熊本區裁判所 【第二審】 熊本地方裁判所
林村 原 吉 春

○判示事項

文書ノ偽造行使ニ因ル詐欺罪ト正當ニ請求シ得ヘキ代金

○判決要旨

町村ニ物品ヲ納入シタル者ノ署名ヲ冒用シテ同人名義ノ納入品代金請求書及領收書ヲ偽造行使シ收入役ヲ欺キ金員ヲ交付セシメタルトキハ縱令其ノ内ニ正當ナル納入品代金ニ相當スル金額ヲ包含スルトキト雖尙其ノ交付ヲ受ケタル全金額ニ付詐欺罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百四十六條第一項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ文書ノ偽造行使ニ因ル詐欺罪ト正當ニ請求シ得ヘキ代金

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人池田查ヲ懲役五月ニ被告人松尾倫ヲ懲役四月ニ被告人藤岡義勝ヲ懲役三月ニ被告人田中正藏ヲ懲役一月ニ處ス但被告人藤岡義勝 田中正藏ニ對シ各二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス池田查 松尾倫ヨリ各金六十六圓十九錢五厘被告人藤岡義勝 田中正藏ヨリ各金五十圓ヲ追徴ス押收ニ係ル證第十六號中ノ偽造部分ハ之ヲ沒收ス訴訟費用中證人川口ツタエニ支給シタル分ハ被告人池田查ノ負擔トシ證人杉嶋三郎ニ支給シタル分ハ被告人松尾倫ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

第一 熊本縣玉名郡荒尾町ニ於テハ昭和七年十一月十三日同町町會ノ議決ニ基キ時局匡救事業トシテ同町直營ノ下ニ同町大島川改修工事並海岸砂防工事ヲ施行スルコトトナリタルカ被告人池田查ハ荒尾町町長トシテ右工事ニ付其ノ材料ヲ買入レ且同工事ヲ遂行スルノ職務(中略)被告人藤岡義勝ハ同町收入役トシテ町長池田查監督ノ下ニ右工事ニ關スル材料買入代金支拂等ノ職務被告人松尾倫ハ同町土木技手トシテ町長池田查ノ命令ニ依リ右工事ヲ監督シ同工事ニ使用スル材料ヲ檢査シテ其ノ納入ノ許否ヲ決シ且右材料買入ニ付町長池田查ノ諮問ニ應スルノ職務被告人田中正藏ハ同町町會議員ニシテ豫テ同町町會ニ於テ臨時委員ニ選定セラレ同委員トシテ町長池田查ヨリ右工事ニ使用スル

石材購入ニ關スル事務ノ指定ヲ受ケ該購入ニ付町長池田查ヲ補佐シテ之ヲ處辨スルノ職務ヲ夫々有シ居リタルモノナルトコロ右被告人等ハ昭和七年十一月下旬頃石材商上野友彦ヨリ該工事ニ使用スル割石二萬個以上ヲ購入スヘク内約スルニ際リ孰レモ上野友彦ヨリ右内約ノ報酬及右取引ニ付將來便宜ノ取扱ヲ得タキ趣旨ノ下ニ供與セラレタルモノナル情ヲ知リナカラ

(イ) 被告人池田查 松尾倫ハ同月二十三、四日熊本市二本木町貸座敷日本亭ニ於テ各一人分金十圓七十八錢ニ相當スル飲食遊興ノ饗應ヲ受ケ次テ同月二十四日同市出水町料亭江津花壇ニ於テ各一人分金五圓四十一錢五厘ニ相當スル飲食遊興ノ饗應ヲ受ケ

(ロ) 其ノ頃被告人藤岡義勝ハ前記江津花壇ニ於テ被告人池田查ハ大牟田市料亭イロハニ於テ孰レモ被告人松尾倫ノ手ヲ經テ各金五十圓宛ノ交付ヲ受ケ被告人田中正藏ハ荒尾町町役場附近ニ於テ順次松尾倫 右田平太郎ノ手ヲ經テ被告人松尾倫ハ同役場ニ於テ各金五十圓宛ノ交付ヲ受ケ以テ前段説示ノ職務ニ關シ夫々賄賂ヲ收受シ

第二 被告人松尾倫ハ昭和七年十二月二十七日頃行使ノ目的ヲ以テ荒尾町大字大島五百七十一番地松野龜ノ署名ヲ冒用シ同人名義代金額九十八圓ノ荒尾町町長宛釘見積並代金請求書及同金額ノ領收書各一通ヲ偽造シ其ノ頃同町役場ニ於テ之ヲ同町收入役ニ一括シテ提出行使シ以テ同町收入役ヲ欺罔シ釘代金名義ノ下ニ同町收入役ヨリ金九十八圓ヲ騙取シ

タルモノナリ

而シテ被告人池田直 松尾倫ノ各收賄ノ所爲及被告人松尾倫ノ各私文書偽造ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人池田直 藤岡義勝 田中正藏ノ判示收賄ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段ニ各該當スルトコロ被告人池田直ノ所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シテ一罪トシ夫々其ノ所定期刑範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ被告人松尾倫ノ判示第一ノ收賄ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ判示第二ノ所爲中私文書偽造ノ點ハ同法第五十九條第一項第五十五條ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スルトコロ判示偽造私文書ノ一括行使ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ犯情重キ偽造領收書行使罪ノ刑ニ從ヒ以上私文書偽造其ノ行使及詐欺ノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從フヘク之ト前示收賄罪トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ依リ重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第四十七條但書ノ制限ニ從ヒタル刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ被告人藤岡義勝 田中正藏ニ對シテハ何レモ所犯情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認ムルニヨリ同法第二十五條ニ則リ各二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收ニ係ル證第十六

號中ノ偽造部分ハ被告人松尾倫ノ判示偽造私文書行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ被告人池田直 松尾倫 藤岡義勝 田中正藏ノ收受シタル判示賄賂ハ何レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ從ヒ主文掲記ノ如ク右各被告人ヨリ夫々其ノ價額ヲ追徴シ訴訟費用中主文記載ノ各證人ニ支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ主文掲記ノ如ク各被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人倫辯護人林原吉春上告趣意書第三點原判決ハ其ノ判旨第二ノ事實トシテ上告人カ松野龜ノ署名ヲ冒用シ同人名義ノ代金額九十八圓ノ荒尾町長宛釘見積竝ニ代金請求書及同金額ノ領收證各一通ヲ偽造シ之ヲ同町收入役ニ提出行使シ同町收入役ヲ欺罔シ釘代金名義ノ下ニ同町收入役ヨリ金九十八圓ヲ騙取シタルモノナリト認定シタルモノナリ然シテ之カ證據トシテ第一審第一回公判調書中上告人ノ供述ヲ唯一ノ證據ニ供シタルモノナリ然ルニ原審カ證據トシテ採用セル第一審公判調書中同人ノ供述トシテハ上告人カ藤岡收入役ヲ欺罔シテ九十八圓ノ金額ヲ騙取シタル供述記載モ有之コトナシ即チ松野龜名義ノ領收書等ニ記入行使シタル金額ハ九十八圓ナレトモ其ノ内五十圓ハ松野ニ對スル釘代金トシテ

文書ノ偽造行使ニ因ル詐欺罪ト正當ニ請求シ得ヘキ代金

支拂了シ居ルモノニシテ騙取シ居ル金額ハ其ノ殘額四十八圓ニ過キサリナリ即チ其ノ點ハ同調書中「問實際ノ釘ノ代金ハ何程テアツタカ」答實際ハ五十圓テアリマシタ私ハ其ノ前ニ本件工事ノ測量ニ關スル人夫賃七十圓ヲ立替ヘテ居リマシタカ此ノ支拂カ町カラドウシテモ出ナイノテコウイフコトテモシナケレハ其ノ七十圓ハ取ルコトカ出來マセンテシタノテ已ムナク此ノ様ナコトヲ致シマシタ」ナル供述記載竝ニ原審第一回公判調書中上告人ニ關スル供述記載ノ中「ソシテ松野カラ五十圓位工費用ノ釘ヲ買ヒマシタカラ其ノ方ヲ利用シテ釘代金名目テ費用ヲ支出シテ貰ハウト思ヒ中略同名義ノ釘見積竝ニ代金請求書及領收證ニ松野ノ住所氏名等ヲ記入シテ貰ヒ十二月二十七日頃私ノ方テ釘代金トシテ九十八圓ヲ收入役カラ請求致シマシタソシテ其ノ金ノ内五十圓ハ松野ニ渡シ残りヲ私カ前述立替ヘタ人夫賃ニ充當シタノテアマス」ナル旨ノ記載竝ニ原審ニ於ケル證人杉島三郎ニ對スル聽取書及藤岡義勝ニ對スル檢事ノ聽取書ニヨルモ九十八圓中五十圓ハ正當ニ松野龜ニ釘代金トシテ支拂了シ居ルモノニシテ騙取シタル金額カ其ノ殘額四十八圓ナルコトハ極メテ明瞭ナリ然ルニモ不拘原判決カ上告人ハ九十八圓ヲ騙取シタルモノナリト認定シ居ルハ即チ判決ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ事實ニツキ證據ナクシテ事實ヲ認定セルノ違法アリ然ラストスルモ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト謂ハサルヘカラス即チ破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在レトモ原判決擧示ノ證據ニ依レハ被告人倫ハ私文書ヲ偽造行使シ收入役ヲ錯誤ニ陥レ釘代金名義ノ下ニ金

【要旨】

九十八圓ヲ交付セシメ之ヲ騙取シタル事實ヲ認ムルニ足ル右金員中五十圓ニ付テハ釘代金トシテ受領スヘキ正當ノ權利アルモノトスルモ收入役ニシテ代金請求書及領收書ノ偽造ナルコトヲ知リタランニハ九十八圓ハ勿論五十圓ヲモ交付セサルヘカリシモノナルニ被告人ハ右請求書及領收書ヲ偽造シ之ヲ行使スルコトニ因リテ收入役ヲ欺罔シ一括シテ九十八圓ヲ交付セシメタルモノナレハ原判決カ右九十圓全額ニ付詐欺罪ノ構成ヲ認定シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シ又ハ重大ナル事實ヲ誤認シタルモノト爲シ難ク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○常習賭博賭博場開張被告事件

(昭和九年(九)第五七三號
 同年七月四日第三刑事部判決)

棄却)

【上被告人】 被告人 山本馬之助 辯護人 稻本龍助
【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○ 判示事項

刑事訴訟法第五百五十六條ノ未決勾留日數ノ通算ト其ノ算入ノ宣告

○ 判決要旨

檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アル場合上訴申立後ノ未決勾留日數ヲ本刑ニ通算スルコトハ判決ニ於テ之ヲ宣告スヘキモノニ非ス

【参照】 刑事訴訟法第五百五十六條 上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之

ヲ本刑ニ通算ス

- 一 檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
 - 二 檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部
- 前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス
- 上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

刑法第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

○ 事實

第一審ニ於テハ被告人馬之助ノ常習賭博罪及賭博場開張罪ヲ認定シ同被告人ヲ懲役一年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シ被告人馬之助ハ之ニ對シ昭和九年二月十二日控訴ノ申立ヲ爲シ第二審ニ於テハ同年四月五日第一審ト同一犯罪ヲ認定シ被告人馬之助ヲ懲役一年ニ處ストノ判決ヲ爲シタリ而シテ同被告人ハ昭和九年一月二十日以來勾留セラレ同年三月三十一日ニ至リ保釋ノ許可ヲ得タルモノトス

○ 主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○ 理 由

被告人山本馬之助辯護人稻本龍助上告趣意書第四點上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部ヲ本刑ニ通算スヘキニ拘ラス(刑事訴訟法第五百五十六條)控訴理由アリタル原判決ニ於テ該通算ノ言渡ヲナササルハ違法ナリ原判決ハ此ノ點ニ於テモ亦破毀セラレヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ

被告人ノ上訴理由アル場合ニ於ケル上訴申立後ノ未決勾留日數ノ通算ニ付テハ刑事訴訟法第五百五十六條ノ規定ニ依リ判決確定後其ノ執行ニ當リ之ヲ爲スヘキモノニシテ刑法第二十一條ノ規定ヲ適用ス

【要旨】

刑事訴訟法第五百五十六條ノ未決勾留日數ノ通算ト其ノ算入ノ宣告

ヘキモノニ非ス然レハ原審カ判決ニ於テ所論未決勾留日數ノ算入ヲ宣告セサリシハ當然ナリ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事 樫田忠美關與

○恐喝名譽毀損横領被告事件 (昭和九年(レ)第六〇五號 棄却)
(同年七月六日第四刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 野上 繁 辯護人 溝口久太

〔第一審〕 函館地方裁判所 〔第二審〕 札幌控訴院

○判示事項

恐喝罪ノ公訴ト横領罪ノ認定

○判決要旨

人ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメタリトノ公訴事實ト同人等ヨリ委

託セラレタル該金員ヲ横領シタリトノ事實トハ同一ノ公訴範圍ニ
屬スルモノトス

〔參照〕 刑法第二百四十九條第一項 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以
ノ懲役ニ處ス

同法第二百五十二條第一項 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ
懲役ニ處ス

刑事訴訟法第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ
示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テス
ヘシ

○事實

第二審ハ被告人福澤清一及同伊豫部隆二ニ對シ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人福澤
清一ヲ懲役十月被告人伊豫部隆二ヲ懲役八月ニ各處ス被告人等ニ對シ第一審未決勾留日數中六十日ヲ
夫々右懲役刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人福澤清一ハ昭和二年頃函館市ニ於テ旬刊函館みやこ新聞ヲ創刊シ爾來同新聞社ノ社長トシテ之
カ經營ニ當リ來リタル者

被告人伊豫部隆二ハ昭和五年六、七月頃ヨリ同市ニ於ケル旬刊新聞函館時報ノ記者ト爲リ兼テ發行人

恐喝罪ノ公訴ト横領罪ノ認定

印刷人タリシカ同年八月頃退社シ當時同市ニ於テ旬刊新聞函館タイムスヲ創刊シ爾來同新聞社ノ社長トシテ之カ經營ニ當リ居リタル者ナル處

(第一乃至第三省略)

第四 被告人伊豫部隆二ハ

(一) 昭和五年十二月下旬前函館タイムス昭和六年新年號ヲ編輯印刷シタルカ同紙上ニ同市龜田村醫師渡邊鐵太郎カ某女ノ劇藥自殺ヲ爲シタルニ對シ病死ノ診斷書ヲ作成シタル旨並次號紙上ニ該誤診問題ノ詳細ヲ報導スヘキ旨ヲ豫告セル記事ヲ掲載シタルトコロ偶々同新聞社ニ來訪シタル菅野清行(原審相被告人)ニ於テ右新年號紙上ニ前敍記事ノ掲載セラレ在ルヲ知ルヤ豫テ菅野一家カ右渡邊醫師ヨリ恩顧ヲ蒙リ居リタル關係上痛ク右記事掲載ヲ遺憾ト爲シ渡邊醫師ノ爲何等カノ處置ヲ構スヘク考慮シ居リタル折柄同日所用ノ爲同市大町ナル關藤右衛門方ニ赴キタル際圖ラヌモ同人カ渡邊醫師ト親戚關係ニ在ルコトヲ聞知シタルヨリ關ニ對シ函館タイムス新年號紙上ニ渡邊醫師ノ誤診問題ニ關スル記事カ登載セラレ今ヤ頒布ヲ俟ツバカリノ狀態ニ在ルコトヲ告ケタルニ關モ亦渡邊醫師カ自己ノ妹婚ニ該ル關係上若シ該新聞紙ニシテ購讀者等ニ頒布セラルルニ於テハ渡邊ノ地位名譽ハ毀損セラレ醫師トシテノ將來ノ發展ハ阻害セラルルニ立チ至ルヘキコトヲ深ク憂慮シ菅野清行ニ對シ該新聞ノ頒布差止方ヲ斡旋セラレ度キ旨依頼セシヨリ同人ハ之ヲ承諾

シ即日被告人隆二ノ肩書居宅ニ至リ同人ニ對シ右新聞紙ニシテ頒布セラルルニ於テハ渡邊醫師ノ困惑甚シキニ付之カ頒布ヲ見合サレ度キ旨懇願スルヤ同被告人ハ右關及菅野等カ前記ノ如ク困惑セルニ乘シ同人等ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同人等ニ對シ若シ相當金員ヲ提供セサルニ於テハ前記新聞紙ヲ頒布スルコトアルヘキ旨ヲ暗示シ以テ同人等ヲシテ若シ金員ヲ供與スルニ非サレハ渡邊醫師ニ關スル記事ノ連載セラルルコトアルヘシトノ危惧ノ念ヲ抱カシメ因テ關ヲシテ其ノ頃被告人隆二ノ居宅ニ於テ前記新年號買收名義ノ下ニ金一百圓ヲ菅野ノ手ヲ介シ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ

(二) 昭和五年七月中旬函館時報ノ經營者船場正一郎カ同新聞紙上ニ「龜田ノ色魔云々」ノ題下ニ同市谷地頭町田卷庄次郎カ女中ヲ妊娠セシメタルコト並右田卷ノ孫ハ庄次郎ト其ノ忤トノ混血兒ナルコト等ヲ内容トセル記事ヲ連續掲載シタル爲田卷庄次郎ニ於テ大ニ困惑シ岡田平助等ヲ介シテ該記事ノ掲載差止ニ奔走シタル結果船場正一郎ニ於テ右記事ノ掲載ヲ中止スルコトト爲リタルカ其ノ際右田卷及岡田ハ被告人隆二ニ對シ右記事差止ノ謝禮トシテ船場正一郎ニ供與セラレ度キ旨ノ委託ノ下ニ數回ニ合計金一百圓ヲ交付シ被告人隆二ニ於テ之ヲ受領シ船場ノ爲ニ保管中其ノ頃函館市内其ノ他ニ於テ數回ニ互リ之ヲ擅ニ自己ノ生活費等ニ費消横領シ

(第五、六省略)

恐喝罪ノ公訴ト横領罪ノ認定

第七 被告人福澤清一ハ

九四八 (6)

(一) 昭和四年十一月頃判示第六(一)項記載ノ如ク大賀幾太カ水島勝雄ヲ介シテ賭博事件ノ記事差止ニ奔走セル事實ヲ聞知シ之ヲ利用シテ大賀幾太ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同市惠比須町衛生事務所ニ於テ水島勝雄ニ對シ大賀ノ賭博事件ノ記事差止ニ奔走セル由ナルモ不埒ナルニ付右事實ヲ自己發行ノ函館みやこ新聞紙上ニ掲載スヘキ旨ヲ申向ケ暗ニ相當金員ヲ供與セハ之カ掲載ヲ見合セ遣ルヘキモ若シ金員ヲ供與セサルニ於テハ之ヲ登載スヘキニ付其ノ旨ヲ大賀幾太ニ傳言スヘキ様仄カシ以テ之ヲ大賀ニ告ケシメ同人ヲ恐喝シ因テ其ノ頃同人ヲシテ同市惠比須町龍屋喫茶店ニ於テ右記事掲載見合セ料名義ノ下ニ金十五圓ヲ水島勝雄ノ手ヲ介シ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ

(二) 昭和六年三月中原審相被告人丸山義臣カ函館みやこ新聞記者トシテ同市大森町橋本ヨシ方ニ赴キ同人ニ對シ其ノ娘カヨニ於テ他ノ男ト駈落ヲ爲ス等素行不良ノ事カ北海新聞紙上ニ掲載セラレタル件ニ付事實ノ有無ヲ訊ネタルヨリ橋本ヨシハ該事實ニ關スル記事カ更ニ函館みやこ新聞紙上等ニ掲載セラレヘキモノト思惟シ危惧ノ餘リ大沼一美ニ對シ右記事掲載ノ差止方斡旋ヲ依頼シタルヨリ大沼ハ其ノ頃同新聞社長タル被告人清一ヲ其ノ居宅ニ訪ネ同人ト之カ折衝ヲ爲スヤ同被告人ハ大沼カ橋本ヨシノ前示依頼ニ基キテ記事掲載ノ差止方交渉ノ爲ニ來リタルコトヲ知り其ノ

機ニ乘シ同人等ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ大沼一美ニ對シ相當金員ヲ提供スルニ於テハ橋本カヨノ素行ニ關スル記事ヲ函館みやこ新聞紙上ニ掲載セサルハ勿論爾餘ノ小新聞ニモ掲載セラレサル様斡旋スヘキ旨申向クルト共ニ若シ相當金員ヲ提供セサルニ於テハ該記事掲載ヲ見ルニ至ル虞アル旨ヲ暗示シ以テ右カヨ等ヲ恐喝シ因テ其ノ頃被告人清一方ニ於テ大沼ヲ介シ橋本カヨヲシテ右記事掲載差止料名義ノ下ニ金十五圓ヲ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ

(三) 昭和六年四月頃函館みやこ新聞紙上ニ同市若松町電機具商角田奇勝方ニ於テ小切手ノ偽造事件起リタリ等同店ノ攻撃記事ヲ掲載シタルカ相被告人清田勝重ニ於テ同店ノ迷惑ヲ慮リ右奇勝ノ弟角田奇平ニ對シ被告人清一ハ更ニ同店ノ攻撃記事ヲ連載スルノ虞アルニ依リ相當金員ヲ同被告人ニ供與シテ記事差止ヲ爲スニ如カサル旨ヲ告ケタルトコロ角田奇平モ畏怖困惑シ右記事掲載差止方ノ斡旋ヲ清田勝重ニ依頼シ同人ハ之ニ基キ被告人清一方ニ於テ同人ニ對シ爾今角田電機具商店ノ攻撃記事ヲ掲載セサル様請託スルヤ被告人清一ハ此ノ機ニ乘シ角田奇平等ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ同人等ニ對シ暗ニ相當金員ヲ供與セサルニ於テハ右攻撃記事ヲ續載スヘキ旨ヲ仄カシ以テ角田奇平等ヲ恐喝シ因テ該記事掲載見合セ料名義ノ下ニ其ノ頃函館市大洋軒ニ於テ清田勝重ノ手ヲ介シテ角田奇平ヨリ金二十圓ヲ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ

第八 被告人福澤清一及同清田勝重ハ共謀ノ上

恐喝罪ノ公訴ト横領罪ノ認定

九四九 (7)

(一) 函館市地蔵町書籍商小島誠二ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ昭和五年四月頃被告人勝重ニ於テ右小島誠二方ニ立越シ同人ニ對シ其ノ店員小島新三カ春畫ヲ印刷發賣セル實證舉リタルカ之ヲ放置セハ新聞紙ニ掲載セラレルニ至ルヘク左スレハ同店ノ信用ニモ關スルコトト爲ルカ故ニ之ヲ揉消スニ如カサル旨ヲ申向ケ暗ニ相當金員ヲ提供セサルニ於テハ右事實ニ關スル記事ノ掲載セラレルノ虞アルコトヲ仄カシ以テ同人ヲ恐喝シ因テ其ノ頃同人ヲシテ揉消料名義ノ下ニ被告人清一方ニ於テ二回ニ合計金一百圓ヲ自己ニ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ

(二) 同年八月中當時函館市ニ於テ發行セル新聞紙函館時報紙上ニ前敍第四ノ(二)項記載ノ如ク同市谷地頭町田卷庄次郎ノ素行ヲ攻撃セル記事ヲ掲載セラレ且同市商工新聞ノ社長タル原審相被告人沼倉勝敏ヨリ同人モ亦右田卷庄次郎ノ醜行記事ヲ商工新聞紙上ニ掲載スルノ意向ヲ有スルコトヲ聞知シタルヲ好機ト爲シ右田卷庄次郎ヨリ金員ヲ喝取セムコトヲ企テ被告人勝重ニ於テ前示田卷庄次郎方ニ立越シ同人ニ對シ函館みやこ新聞ノ社長タル福澤清一ノ命ニ依リテ參リタルカ商工新聞ノ沼倉勝敏カ函館時報同様ニ田卷ノ醜行記事ヲ掲載セムコトヲ企テ居レルカ此ノ際相當ノ金員ヲ提供スルニ於テハ自己等ニ於テ其ノ掲載方ヲ差止メ遣ルヘク之ヲ放置セムカ再度新聞紙ニ依リテ醜名ヲ流布セラレルニ至ルヘキ旨ヲ仄カシ以テ右田卷庄次郎ヲ恐喝シ因テ即時同所ニ於テ金六十圓ヲ記事掲載差止料名義ノ下ニ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ

(第九省略)

而シテ被告人福澤清一ノ判示各恐喝ノ所爲被告人伊豫部隆二ノ各横領ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

尙被告人伊豫部隆二ハ昭和三年七月十三日札幌控訴院ニ於テ恐喝罪ニ因リ懲役十月ニ處セラレ(同年十月五日確定)同年勅令第三百七十號ヲ以テ懲役七月十五日ニ減刑セラレ昭和四年八月十一日其ノ刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人伊豫部隆二ノ所爲中判示第四ノ(一)項ノ恐喝ノ點ハ刑法第二百四十九條第一項ニ判示第四ノ(二)項ノ横領ノ點ハ同法第二百五十二條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ判示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ各罪ニ付夫々再犯ノ加重ヲ爲シ右二者ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ恐喝罪ノ刑ニ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ法定ノ併加重ヲ施シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク被告人福澤清一ノ所爲中判示第七ノ(一)乃至(三)項ノ恐喝ノ點ハ同法第二百四十九條第一項第五十五條ニ判示第八ノ恐喝ノ點ハ同法第二百四十九條第一項第六十條ニ各該當スルトコロ右二者ハ連續ノ意思ニ出テタル所爲ナルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ恐喝ノ一罪ト爲シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役十月ニ處スヘク同法第二十一條ニ則リ以上各被告人ニ對シ原審未決勾留日數中六十日ヲ夫々右懲役

刑ニ算入スヘキモノトス

記録ヲ查スルニ被告人隆ニ對スル公訴事實及豫審終結決定事實ハ同被告人上告趣意書ニ對スル判決理由所掲ノ如クニシテ第二審ハ右公訴事實ニ對シ前示第四(二)ノ横領事實ヲ認定シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人清一辯護人溝口久太上告趣意書第一點原判決ハ被告ノ大賀幾太ニ對スル恐喝事件ニ付(一)昭和四年十一月頃判示第六(一)項記載ノ如ク大賀幾太カ水島勝雄ヲ介シテ賭博事件ノ記事差止ニ奔走セル事實ヲ聞知シ之ヲ利用シテ大賀幾太ヨリ金員ヲ喝取センコトヲ企テ同市惠比須町衛生事務所ニ於テ水島勝雄ニ對シ大賀ノ賭博事件ノ記事差止ニ奔走セル由ナルモ不埒ナルニ付右事實ヲ自己發行ノ函館みやこ新聞紙上ニ掲載スヘキ旨申向ケ暗ニ相當金員ヲ供與セハ之カ掲載ヲ見合セ遣ルヘキモ若シ金員ヲ供與セサルニ於テハ之ヲ登載スヘキニ付其ノ旨ヲ大賀幾太ニ傳言スヘキ様仄カシ以テ之ヲ大賀ニ告ケシメテ同人ヲ恐喝シ因テ其ノ頃同人ヲシテ同市惠比須町龍屋喫茶店ニ於テ右記事掲載見合セ料名義ノ下ニ金十五圓ヲ水島勝雄ノ手ヲ介シ交付セシメテ喝取ノ目的ヲ遂ケ」云々ト判示シ之カ認定ノ基礎タル證據トシテ第一被告清一ノ豫審第二回ノ訊問調書中「昭和四年十二月中豫テ預知ノ水島勝雄ヨ

リ電話アリ同人ト惠比須町ノ衛生事務所前テ面會シタル際水島ハ「自分ノ懇意ニシテ居ル日本工船ノ會計係カ賭博ヲヤツテ他ノ新聞ニ對シテモ其ノ記事掲載ヲ差止メタカラ頼ミマス」ト申シ其ノ翌日同人カラ十五圓ヲ受取リタルカ右金員ハ日本工船ノ會計係カ出金シタモノトノコトニテソレハ右會計係カ賭博ヲ爲シタコトヲ新聞ニ書イテ吳レルナト水島カラ頼ミヲ受ケタコトニ對スル禮トシテ吳レタモノナル旨」第二原審第三回公判調書被告清一ノ供述中「大賀ノ件ニ付私カ水島勝雄ヨリ十五圓ヲ受取リシハ函館市惠比須町龍屋喫茶店ナリシ旨」第三證人大賀幾太ノ豫審訊問調書中「私ハ昭和四年十一月中賭博罪ニテ處罰ヲ受ケタルカ其ノ當時知人水島勝雄カラ高田太八ヲ頼ミ警察出入ノ新聞記者ニ私ノ記事ハ書カヌ様爲シ貰ヒタルコトアリ其ノ後右事件ニ付島田忠司ニモ函館ノ豆新聞ニ掲載セヌ様頼ミ安心シ居リタルニ間モナク水島ヨリ電話ニテ「みやこ新聞ノ福澤ハ自分ノ知合ノモノタカ同人ニ會ツタトコロ福澤曰ク君ハ大賀ノ爲ニ種々賭博事件ノ記事差止メノ爲ニ奔走シテ居ルソウタカ大賀ノ野郎ハ不都合タ俺ノ新聞ニ叩イテ遣ル積タト云ツテ居タカラ抛ツテ置クト大變タ何ントカセネハナルマイ」ト云ヒタル故私ハ打棄テ置イテハ福澤ニ書カレルト思ヒ水島ト相談ノ上同人ヨリ福澤ニ私ノ記事ヲ書カヌ様ニ頼ミ金ヲ遣リタリ尤モ水島ニ私ヨリ二十圓ヲ渡シタルカ同人カ福澤ニ何程遣ツタカハ聞知セサル旨」ノ各供述ヲ引用セリ(一)然レトモ右引用ノ被告清一ノ供述ハ夫レ自體明ナル如ク何等犯罪ヲ構成スヘキモノニアラサルヤ明ナリ即右ノ供述ニヨレハ本件金十五圓ハ證人大賀幾太カ賭博記事

差止ノ爲メ自ら進ンテ水島勝雄ヲ經テ被告ニ之ヲ提供セルモノニシテ所謂筆生ニ對スル一種ノ收賄ニシテ道德上多少ノ非難ノ餘地ナキニアラスト雖原審認定ノ如キ恐喝ノ犯意ヲ有セシモノニアラサルヤ明ナリ(二)最モ右同人ノ供述中水島勝雄ヨリ電話ニテ「云々福澤曰ク君ハ大賀ノ爲ニ種々賭博事件ノ記事差止ノ奔走シテ居ルソウタカ大賀ノ野郎ハ不都合タ俺ノ新聞ニ叩イテ遣ル積リタト云ツテ居タカラ抛ツテ置クト大變タ何ントカセハナルマイ」ト言ヒシ旨ノ供述ヲ引用スレトモ被告清一カ果シテ右様ノ事ヲ水島ニ言ヒシヤ否ヤニ關シ何等ノ證據ヲ舉示セサルモノニシテ即罪トナルヘキ事實ニ付證據ニヨラスシテ之ヲ認定セル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト信ス(三)殊ニ前顯引用ノ被告清一ノ供述ニヨレハ本件ハ被告カ水島勝雄ノ電話ニヨリ之ニ會見セル結果ニ出テシモノナルコトハ證人大賀幾太ノ證言竝原審證人水島ミツノ證言ニヨルモ當時大賀ハ賭博事件ニ對スル新聞掲載ヲ強ク恐怖シ居リシ爲同人自ら進ンテ各所ニ狂奔シテ之カ記事差止運動ニ腐心シ居リシコト明瞭ニシテ本件被告ノ交付ヲ受ケシ金員又同種ノモノナリシコトハ各證人證言ニ照シテ極メテ明瞭ニシテ當然無罪ノ判決ヲ受ケヘキモノナリシニ不拘此ノ重要ナル事實關係係無視シテ極ク有罪ノ判決ヲ言渡シタル原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

證人カ他人ヨリ傳聞シタル事實ヲ供述シタル場合ニ於テ其ノ證言ニ依リ右事實ヲ肯定スルコトハ判事

ノ自由裁量ニ屬スルヲ以テ原審カ證人大賀幾太ノ豫審訊問調書中所論(二)ノ供述記載ニ依リ被告人清一カ所論判示恐喝的言辭ヲ弄シタル事實ヲ認定シタルハ正當ニシテ右供述記載其ノ他ノ原判決採用ノ證據ヲ綜合スレハ所論判示事實ヲ認ムルコトヲ得ヘク記錄ヲ調査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認メ難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ

被告人隆二上告趣意書右恐喝被告事件ニ付昭和九年二月八日札幌控訴院ニ於テ懲役八月ノ判決言渡ヲ受ケタル處該判決ハ適法ノ判決ト認メ難キヲ以テ御審理ノ上無罪ノ御判決相仰度此段及上告候也札幌控訴院ニ於テ爲シタル判決文ニ依レハ第一ノ理由トシテ被告人伊豫部隆二ハ昭和五年十二月下旬醫師渡邊鐵太郎ノ誤診問題ニ付主宰スル函館タイムス新聞紙ニ記載シ渡邊鐵太郎ノ關係者タル關藤右衛門及菅野清行等ノ困惑セルニ乘シ同人等ヨリ金員ヲ喝取セムト企テ同人等ニ對シテ若シ相當金員ヲ提供セサルニ於テハ前記新聞紙ヲ頒布スルコトアルヘキ旨ヲ暗示シ以テ同人等ヲシテ該新聞ヲ買收名義ノ下ニ金百圓也ヲ支出セシメ菅野ノ手ヲ介シ交付ヲ受ケテ喝取目的ヲ遂ケタリト云フモ被告ハ該新聞ノ發行頒布ヲ以テ業トナシ居ルモノナルコト明ナルヲ以テ渡邊醫師ノ記事ヲ掲ケタル新聞モ又從來ノ如ク其ノ發行日ニ於テ頒布スヘキハ當然ノコトニシテ判決文ノ云フカ如ク若シ相當ノ金員ヲ提供セサルニ於テハ前記新聞紙ヲ頒布スルコトアルヘキ旨ヲ暗示シタリト云フハ關及菅野等ノ豫審及第一審並第二審ノ公判ニ於テ申立テタル事實ニ徵スルモ何等其ノ根拠ヲ認ムルコト能ハサルハ勿論被告人カ計畫

的ニ喝取セルモノニ非サル事明ナリト認ムヘキ點充分ナリ尙又假ニ之カ犯罪ヲ構成スルモノトシテモ金員ヲ提供シタル關ハ渡邊トハ何等ノ關係ヲ有セサル第三者ニシテ金員交付ニ際シ渡邊ニ相談セル事實存セス兩者カ相談ヲナサンカ金員ヲ支出セサリシ事明ナリシ事情記録ニ於テ渡邊カ歴然ト申立居ルニ見ルモ這ハ犯罪ノ中斷シ居ルヤ否定シ能ハサル處ナリ故ニ本件ハ當然無罪ノ判決ヲ爲スヘキモノト思料ス而シテ第二ノ田卷庄次郎ヨリ船場正一郎ニ對シ交付スヘキ金員金百圓也ヲ被告人カ横領シタリト云フ點ニ對シテハ被告ニ於テ之ヲ是認シ居ルト雖檢察官ハ恐喝罪ヲ以テ起訴シ居ルヲ以テ是レカ處斷ヲナスニ當リ横領罪ヲ以テ爲スハ不當ナリト信ス故ニ此ノ點モ又無罪トナスヘキヲ至當ナリト思料スルモノナリト云フニ在レトモ

(一) 被告人隆ニカ判示新聞社ノ經營者ナルコトハ原判文上明ナルヲ以テ同人カ判示新聞ヲ發行頒布スルハ業務上正當ノ行爲ナルコト論ヲ竣タサルモ原判示ニ依レハ同被告人ハ判示記事ヲ前示新聞紙ニ掲載頒布セラルルコトニ付頗ル困惑セル判示ノ人々ヲ恐喝スルノ意思ヲ以テ同人等ニ對シ相當ノ金員ヲ提供セサルニ於テハ前示新聞紙ニ該記事ヲ連載頒布スルコトアルヘキ旨ヲ暗示シ同人等ヲシテ畏怖セシメ因テ金圓ヲ交付セシメタルモノナレハ其ノ行爲ハ名ヲ業務ノ執行ニ藉リ他人ヲ恐喝シ因テ金員ヲ交付セシメタルモノニ該リ恐喝罪ヲ構成スルモノトス縱令該記事カ被恐喝者以外ノ第三者ノ一身上ニ關シ之ヲ判示新聞紙ニ掲載頒布セラルルニ於テハ同人ノ名譽ヲ毀損スヘク被恐喝者ハ之ニ因リ直接

ニ損害ヲ被ムルコトナキハ所論ノ如クナリトスルモ同人等ハ右第三者ト姻族若ハ特別ノ縁故關係アリテ該記事カ判示新聞紙ニ掲載頒布セラルルコトニ付困惑ヲ感シ居ルコトハ原判文上明ナレハ同人等ニ對スル判示恐喝行爲ハ恐喝罪ヲ構成スルコト疑ヲ容レス而シテ被恐喝者カ被告人ニ判示ノ金員ヲ交付スルニ際シ前記ノ第三者ニ相談シタル如キ所論ノ事實ノ有無ハ同罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスモノニアラス(二) 公判請求書及豫審終結決定書ニ依レハ被告人隆ニハ函館時報編輯印刷人タリシ當時昭和五年七月田卷庄次郎ニ對シ同人ノ素行ニ關シ質問シ同新聞紙ニ之ヲ掲載スヘキコトヲ暗示シ後同新聞紙上ニ「龜田ノ色魔云々」ト題シ同人ノ素行ニ關スル記事ヲ掲載シテ同人ヲ恐喝シ因テ金百圓ヲ二回ニ交付セシメタリト云フニ在リテ原判決ハ之ニ對シ函館時報ノ經營者船場正一郎カ岡田平助等ノ懇請ヲ容レ田卷庄次郎ニ關スル判示龜田ノ色魔云々ト題スル記事ノ掲載ヲ中止シタルヨリ田卷及岡田ハ同時報ノ記者タル被告人隆ニ對シ記事差止ノ謝禮トシテ船場ニ供與アリタキ旨ノ委託ノ下ニ金百圓ヲ交付シ被告人ハ之ヲ保管中擅ニ自己生活費等ニ費消シタル事實ヲ認定シタルモノニシテ之ヲ對照スルニ被告人カ右金百圓ヲ不正ニ領得シタル公訴ノ基本事實關係ニ付テハ二者同一ニシテ其ノ行爲ノ體様ヲ異ニセルニ過キササルヲ以テ原判決ハ起訴事實ニ對シ審判ヲ爲シタルモノニシテ所論ノ如キ不法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○公務執行妨害被告事件(昭和九年(九)第五八七號 棄却)

(昭和九年七月七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 内田新一郎 辯護人 秦野武記

【第一審】 大分區裁判所 【第二審】 大分地方裁判所

○判示事項

町會ノ閉會宣言ニ異議アル場合ニ於ケル公務執行妨害罪ノ成立

○判決要旨

町會ノ議長力會議ヲ閉ツル旨宣言シタルトキ議員中異議アル場合ニ於テ議長ニ對シ暴行ヲ加フルトキハ公務執行妨害罪ヲ構成ス

【參照】 町村制第五十三條

議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此

ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十五條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議

ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

同法第五十五條第二項 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ

之ヲ閉ツルコトヲ得

刑法第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタ

ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其ノ職ヲ辭セシム

ル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

○事實

第二審ニ於テハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處シ訴訟費用ヲ被告人ニ負擔セシムル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大分縣北海部郡坂ノ市町會議員ニ在任中昭和八年五月二十七日同町役場階上ニ開カレタル町會ニ出席シタルカ當日ノ議題タル町長選舉ノ件ヲ審議スルニ當リ議事ノ進行ニ關シ議員間ニ異論ヲ

町會ノ閉會宣言ニ異議アル場合ニ於ケル公務執行妨害罪ノ成立

生シ論議容易ニ纏ラサル爲議長野坂壽二ハ同日午後四時過頃審議ヲ他日ニ續行スヘク閉會ヲ宣シタルニ被告人外數名ノ議員ヨリ右宣告ニ對シ直ニ異議ヲ述ヘタルヲ以テ同議長ハ引續キ之カ議決ヲ採ラントシタル際偶々長岡歸一外數名ノ傍聽者カ議場ニ闖入シ異議ヲ述ヘタル議員ヲ難詰シ喧噪ニ涉リタルヨリ同議長ハ議場整理ノ爲メ之ヲ制止シ居リタルトコロ被告人ハ議席ノ席札ヲ右闖入者見蒐ケテ投ケ付ケ且ツ議席ヲ離レ同方向ニ向ハントシタル爲同議長ハ被告人ヲ制止シ著席ヲ促シタルニ被告人ハ之ヲ肯ンセス却テ同議長ノ胸ヲ掴ミ右手拳ヲ以テ同議長ノ左顔面ヲ毆打シ以テ同議長ノ前記職務執行ヲ妨害シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第九十五條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘク當審ニ於ケル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人秦野武記上告趣意書第四點町村制第五十三條第一項第三項ヲ看ルニ町會ノ閉會ハ議長ノ權限ニ屬スルモノナルモ議長ノ閉會ニ對シ議員中異議アルトキハ議決ニ依ルニ非レハ閉會スルヲ得サルノ例

外ヲ認メタルモノナリ本件ニ付テ稽ルニ原審判決摘示ノ如ク昭和八年五月二十七日坂ノ市町役場階上ニ於テ開カレタル同町町會ハ議事ノ進行ニ付議員間ニ異論ヲ生シタル爲議長野坂壽二ハ同日午後四時過頃一先閉會ヲ宣シタルニ被告人等ハ右宣言ニ異議ヲ述ヘタルモノナリ仍テ議長ハ右異議ニ付議決ヲ採リ右閉會ノ宣言ヲ取消スヤ否ヤヲ決定セサルヘカラス然ルニ議長カ右異議ニ付議決ヲ採ルニ先チ傍聽者數名議場ニ亂入シ議場混亂ニ陥リタル際本件ノ事實ヲ惹起シタルモノナリ而シテ議場ノ鎮靜ニ歸シタル後ニ於テモ右閉會宣言ニ對スル異議ハ附議セラレス審議未了ノ儘放置セラレ居ルモノナリ仍而町村制第五十三條第三項ニ基キ議長ノ閉會宣言ニ對シ議員ノ異議ヲ述ヘラレタル場合閉會ノ宣言ハ當然消滅スルモノナリヤ否ヤヲ按スルニ該閉會ノ宣言ハ異議ノ議決ニヨリ取消サルルマテハ現實ニ存在スルモノニシテ取消サルル事アル可キ瑕疵ヲ有スルモノ一面完全有效ニ確定シ得ヘキ希望ヲモ有スル不確定狀態ニ於テ有效ニ存在スルモノト斷セサルヘカラス故ニ閉會ノ宣言ハ異議ノ議決ニヨリ取消サルル迄ハ有效ニ存續スルモノナリ然ルニ本件原審判決摘示ノ事實ニ依レハ本件犯行ハ議長カ閉會ヲ宣シ之ニ對シテ被告人等カ異議ヲ述ヘ異議ニ對スル審議ヲ爲ス以前ニ行ハレタルモノニシテ當時ニ於テハ閉會宣言ハ異議議決ニヨリ取消サルル迄ハ有效ニ存在シタルモノナリ故ニ本件犯行ハ閉會後ニ行ハレタルモノナリト言ハサルヘカラス閉會後ニ行ハレタル本件犯行ハ議長ノ職務執行ヲ妨害スルニ由ナキモノトス如斯異議ニ付何等ノ審議ヲ爲ササル事ハ閉會宣言カ有效ニ成立シ閉會後ニ於ケル犯行ハ職

務執行妨害罪ヲ成立ス可キ謂ナキモノナルカ故ニ本件ヲ審理スルニ當リテハ閉會宣言ノ效力竝ニ閉會ノ時間ヲ明ニスルニ非レハ職務執行妨害罪ヲ構成スルヤ否ヤ判斷スルニ由ナキモノトス然ルニ原審ニ於テ此ノ重要ナル點ニ付審理ヲ爲サス漫然議長ノ職務執行ヲ妨害シタリト判示シタルハ審理不盡理由不備ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ

町會ノ議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ議場ノ秩序ヲ保持スルノ職務アリ而シテ其ノ日ノ會議ヲ開閉スルコト亦其ノ權限ニ屬スト雖町村制第五十五條第二項ニ該ラサル場合ニ在リテハ議員中異議アルトキハ會議ノ決議ニ依ルニ非サレハ會議ヲ閉テ若ハ中止スルヲ得サルハ同法第五十三條第三項ノ規定スルトコロナリ然レハ議長カ一旦會議ヲ閉ツル旨宣シタル場合ト雖議員中之ニ異議アルトキハ該宣言ハ其ノ效ヲ生スルコトナク會議ハ依然開會中ニ在リテ議長ノ前示職務ニ消長ヲ來スモノニ非ス從テ斯ル場合議長ノ職務執行ニ對シ暴行ヲ用ヒ之ヲ妨害スルニ於テハ刑法第九十五條第一項ノ犯罪ヲ構成スルモノナリ原判決ノ認定事實ハ判示町會ニ於テ町長選舉ノ件ヲ審理スルニ當リ議事ノ進行ニ關シ議員間ニ異論ヲ生シ論議容易ニ纏マラサル爲議長野坂壽二ハ他日續行スヘク閉會ヲ宣シタルニ被告人外數名ノ議員ヨリ之ニ對シ直ニ異議ヲ述ヘタルヲ以テ同議長ハ引續キ之カ議決ヲ採ラントシタル際數名ノ傍聽者議場ニ闖入シ喧噪ニ涉リタルヨリ同議長ハ議場整理ノ爲之ヲ制止シ居タルトコロ被告人ハ席札ヲ右闖入者目蒐ケテ投付ケ且議席ヲ離レ同方向ニ向ハントシタル爲同議長ハ被告人ヲ制止シ著席

ヲ促シタルニ被告人ハ之ヲ肯セス却テ同議長ノ胸ヲ掴ミ右手拳ヲ以テ同議長ノ左顔部ヲ毆打シ以テ同議長ノ職務執行ヲ妨害シタリト云フニ在ルヲ以テ原審ハ前記ト同一解釋ニ依リ被告人ノ犯罪ヲ認定シタルコト明白ナレハ所論閉會時ヲ審理スルカ如キハ何等其ノ必要ナク原審ノ審理判決ニ所論ノ如ク不盡又ハ不備ノ點アリト謂フヘキニ非サルナリ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件(昭和九年(レ)第七七七號
 同年七月九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 見米吉五郎 辯護人 日下謙吾

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

衆議院議員選舉法第十二條第四號ノ犯罪ノ適條

○ 判示事項

衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ノ犯罪ノ適條

○ 判決要旨

市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ノ犯罪ニ付同法第一百十二條第一號ヲ併セテ引用スルモ違法ニ非ス

【參照】市制第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ヨリ金百圓ヲ追徴ス

トノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年三月十六日施行セラレタル東京市會議員選舉ニ際シ同市足立區ノ選舉人ニシテ同區ヨリ議員候補者トシテ立候補シタル吉田四郎平ノ法定ノ選舉委員タリシ者ナル處

小宮豐之輔カ右吉田四郎平ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ニ對シ同人ノ爲投票シ且投票ヲ取纏ムヘキ其ノ費用及報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ同年三月十日頃同市足立區本木町九百六十九番地ノ自宅ニ於テ右小宮豐之輔ヨリ金百圓ノ供與ヲ受ケテ之ヲ收受シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第四號第一號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人カ收受シタル金百圓ノ金錢ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十四條ニ則リ被告人ヨリ同額ノ金員ヲ追徴スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人日下謙吾上告趣意書第一點原判決ハ理由齟齬ノ違法アリ抑判決ニ記載スヘキ理由トハ事實摘示

證據竝ニ法律ノ適用ヲ含ムモノナルコトハ言フ俟タサル處ナリ從テ法律ノ適用ノ段ニ於テ二個ノ法條ニ觸ルルモノトシテ法ノ適用ヲ示シ居ルモ事實摘示中ニハ其ノ一ツニ該當スル事實ノ記載ノミナル場合ニ於テハ事實ノ摘示擬律ノ點ニ齟齬ヲ來シ結局刑事訴訟法第四百十條第十九號ニ所謂「理由ニ齟齬アルトキ」ニ該當スルモノト言ハサルヘカラス齟齬テ原判決ヲ見ルニ其ノ事實摘示中ニ於テハ「被告人カ小宮豐之輔ヨリ吉田四郎平ヘ投票セシムル様投票取纏方ノ費用竝ニ報酬トシテ金百圓ノ供與ヲ受ケタル事實即チ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ニ該當セル事實ノミヲ摘示セルニ拘ラス擬律ノ點ニ於テ而モ被告人カ尙他ニ投票取纏ノ報酬トシテ他ニ金員ヲ供與シタル犯罪事實ヲモ摘示認定セルカ如ク市制同條衆議院議員選舉法同條第一號ヲモ適用シタルハ事實ノ摘示ト擬律ノ點ニ不一致ヲ來タシ所謂「理由ニ齟齬アルトキ」ニ該當スヘキモノト確信ス然ラハ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ハ被告人ハ市會議員選舉ニ關シ候補者吉田四郎平ノ爲ニスル投票取纏ノ費用及報酬トシテ金百圓ノ供與ヲ受ケタル事實ヲ認定シタルモノナレハ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ヲ適用シタルハ洵ニ正當ナリ而シテ右認定ノ如キ事實ニ對シテハ敍上法條ヲ適用スレハ足り必シモ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ヲ引用スルコトヲ要セサルモノナルモ被告人ノ收受シタル百圓カ同條第四號ニ所謂第一號ノ供與ニ該當スルコトヲ示スカ爲同條第一號ヲモ引用スルコトハ之ヲ違法ナリト

【要旨】

爲スヘカラサルヲ以テ原判決カ同號ヲモ引用シタルカ爲ニ所論ノ如ク理由齟齬ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松阪廣政關與

○傷害暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件

(昭和九年(九)第六三四號 棄却)
同年七月十四日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 瀧本重一郎 辯護人 (河上丈太郎 三輪壽太郎 敦澤八郎)
【第一審】 新潟地方裁判所高田支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

罪ト爲ルヘキ事實ニ對スル法律見解ノ陳述ト刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主

罪ト爲ルヘキ事實ニ對スル法律見解ノ陳述ト刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張

○判決要旨

罪ト爲ルヘキ事實ニ對スル法律上ノ見解ノ陳述ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由又ハ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上ノ主張ニ該當セサルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條第二項 法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由又ハ刑ノ加重減免ノ理由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク第一事實トシテ傷害罪第二事實トシテ暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反ノ罪ヲ認定シ刑法第二百四條暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項等ヲ適用シ被告人ヲ懲役一年ニ處シ未決勾留日數中八十日ヲ右本刑ニ算入ストノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人重一郎ハ原審相被告人渡邊一治同植木梅春等ト共ニ全國農民組合新潟縣聯合會中頸城郡和田村支部所屬ノ青年部員ニシテ同支部ニ於テハ昭和六年暮頃以來同村ノ地主トノ間ニ小作ニ關スル抗爭ヲ繼續シ來リタルカ近時漸ク同村大字島田ノ地主トノ間ニ和解成立ノ機運ヲ見ルニ至リタル

ニ拘ラス同村大字下箱井ノ地主ハ孰レモ強硬ニシテ和解成立ノ見込ナキノミナラス島田地主ヲ牽制シテ和解ヲ阻止セムトスルカ如キ態度ニ出テ就中秋山清一ハ最モ強硬ナリシ爲被告人等所屬ノ組合ニ於テハ之ヲ目標地主トシテ極度ニ憎惡シ居タル折柄昭和八年三月二十四日午後八時過右原審相被告人及勝沼悌二等ト共ニ同村大字島田下新田ナル被告人重一郎方ニ集合シ右小作爭議ニ付互ニ談シタル際右勝沼悌二ヨリ他ノ一同ニ對シ組合員カ從來地主ニ對シ執リ來リタルカ如キ方法ヲ以テシテハ到底解決ノ見込ナキノヨリ下箱井ノ強硬ナル地主ニ對シテハ非常手段ニ訴ヘ極力之ニ暴力ヲ加ヘテ徹底的ニ懲懲スル要アル旨力説スルトコロアルヤ被告人重一郎ハ植木梅春ト共ニ之ニ贊同シ後事ハ自分等ニ於テ責任ヲ以テ引受クルニ依リ遺憾ナク遂行スヘシト唱ヘ右渡邊一治モ勝沼悌二ト共ニ其ノ實行行爲ニ加擔スル旨ヲ誓ヒ以テ被告人等四名ハ謀議ヲ遂ケタル上翌二十五日午前八時半頃前記秋山清一カ同村收入役トシテ役場ニ出勤ノ爲同村下箱井ヨリ岡原ニ通スル村道ニ差蒐リタル際勝沼悌二ハ長サ二尺位ノ折損シタル鋤ノ柄様ノ木棒渡邊一治ハ長サ約三尺ノ角棒ニテ右秋山ノ頭部其ノ他ヲ強打シ同人カ倒レ頸部ヨリ出血スルヲ認メテ引上ケントシタルモ秋山カ立上ルヤ更ニ之ヲ亂打シ斯クスルコト前後數回ニ及ヒ因テ同人ニ治療約六週間ヲ要スル左側腓骨骨折其ノ他身體數箇所ニ打撲裂傷ヲ負ハシメ

第二 被告人重一郎ハ前記和田村小作爭議ニ付小作人側ニ有利ナル解決ヲ爲サシムルニハ多衆ノ威力

罪ト爲ルヘキ事實ニ對スル法律見解ノ陳述ト刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張

ヲ示シテ交渉スルニ如カスト爲シ犯意ヲ繼續ノ上

(イ) 昭和八年三月四日午後六時頃瀧本亭治外數名ト共ニ右和田村大字島田鈴木太吉方ニ赴キ同人ニ對シ「オ前ハ爭議カ和解ニナラウトシテルノニ地主ノ處ニ出入シテ煽動シ我々小作人等ニ不利益ナ行動ヲ執ルトハ如何ナル譯カオ前達カ斯様ナ事ヲスルナラ今後地主同様ニ取扱フカラ左様心得ロ」ト申聞ケ暴行ヲ加フヘキコトヲ暗示シ以テ多衆ノ威力ヲ示シテ脅迫シ

(ロ) 同月六日午前十一時頃瀧本襲作外數名ト共ニ民事訴訟事件ニ付證人トシテ喚問ヲ受ケ居タル同村大字島田西片昌盟方ニ赴キ同人ニ對シ先ツ右襲作カ「オ前ハ地主ヲ煽動シテ我々ヲ不利益ニ陥入レルサウタカ何故カ」ト詰問シ西片昌盟カ之ニ辯解スルヤ被告人ハ「此野郎嘘ヲ吐クナ」ト怒號シテ同人ニ暴行ヲ加ヘントシ以テ多衆ノ威力ヲ示シテ脅迫シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示被告人ノ所爲中第一ノ傷害ノ點ハ刑法第二百四條第六十條ニ第二ノ脅迫ノ點ハ大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項刑法第二百二十二條第一項第五十五條ニ各該當スルヲ以テ各罪ニ付所定ノ懲役刑ヲ選擇スヘク以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルニヨリ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ヲ右第四十七條但書ノ制限内ニ於テ法定加重シタル刑期範圍内ニ於テ被告人重一郎ヲ懲役一年ニ處シ同法第二十一條ヲ適用シテ原審ノ未決勾留日數中八十

日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

尙ホ原審公判調書ニ三輪辯護人ハ(中略)第二ノ暴力行爲等處罰ニ關スル事實ニ付テハ斯ノ如キ事實ヲ以テ處罰ヲ受クヘキモノニアラスト考フルモ此ノ點ニ付責任ヲ問ハレシハ止ムヲ得サルヲ以テ寛大ナル判決相成度旨辯論シタリトノ記載アリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人河上丈太郎三輪壽壯敦澤八郎上告趣意書第四點原判決ハ被告人ヲ第二事實ニ付暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反罪ニ問擬處斷シタリ然ルニ原院公判調書ヲ閱スルニ辯護人ハ判示第二ノ事實ヲ以テシテハ未タ同法律ニ依リ處斷ヲ受クヘキモノニアラスト主張シタル旨記載アリ仍テ原判決ニ於テハ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナルニ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササルハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ違背シ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

所論辯護人ノ主張ハ單ニ事實ニ對スル法律上ノ見解ヲ述ヘタルモノニシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ事實上ノ主張ニ該ラサルカ故ニ之ニ付特ニ判決ニ於テ判斷ヲ示スノ要ナク論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○瀆職被告事件(昭和九年(乙)第六一〇號 棄却)

昭和九年(乙)第六一〇號
同年七月十六日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 山本與治兵衛 辯護人

外一名

山内 隆三
團野 甚十郎
藤本 國之輔
大前 龍三

【第一審】 直方區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

共同收賄ト追徴トノ關係——賄賂分配ノ判示

○判決要旨

一 數人共同シテ賄賂ヲ收受シタル場合ニ其ノ費消シタル賄賂ヲ追徴スルニハ各自ノ分配額ニ應シ之ヲ行フヘキモノトス【要旨第一】

二 共同收賄ノ事件ニ付テハ分配ノ有無並分配額ヲ判示シテ追徴額ノ基本ヲ明ニスルヲ適當トス【要旨第二】

【參照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人山本與治兵衛ヲ懲役四月ニ處ス被告人水摩徹太郎ヲ懲役五月ニ處ス被告人水摩徹太郎ヨリ金六十六圓五錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 昭和八年七月十六日ヲ以テ被告人等居村福岡縣鞍手郡西川村村長船津省一ノ任期滿了シタルヨリ同村村會議員被告人山本與治兵衛等ハ相被告人西野勝ヲ同シク村會議員水摩徹太郎等ハ相被告人川波馬五郎ヲ各其ノ承諾ヲ得テ次期村村長候補ニ擁立シ兩派互ニ對抗シタルモ村會議員十八名ノ分野略々相半シ其ノ勝敗ノ數逆賄シ難カリシ處結局同年八月五日同村村會議員吉田才藏ノ仲裁斡旋ニ依リ兩派ノ妥協成立シ其ノ結果ニ基キ相被告人西野勝及被告人山本與治兵衛ハ共謀ノ上水摩徹太郎等川波派村會議員九名ヲシテ右川波候補ヲ引退セシメ以テ西野派ト團結シ相被告人西野勝ヲ次期村村長

共同收賄ト追徴トノ關係 賄賂分配ノ判示

九七三 (108)

ニ選舉セシムル代價トシテ同人等ニ斷念料名義ノ下ニ金五百八十圓ヲ交付スルコトヲ承諾シ被告
 人水摩徹太郎ハ川波派村會議員相被告人坂田藤七同シク村會議員神谷惣次郎 同田中五七 同麻生次
 六 同麻生順造 同福本住吉 同明見一郎 同石松茂ト諮リ以上九名ノ者共謀ノ上右ノ如ク相被告人西
 野勝及被告人山本與治兵衛ヨリ金五百八十圓ヲ受取ルト共ニ其ノ代價トシテ相被告人川波馬五郎ヲ
 シテ次期村長候補ヲ斷念セシメ相被告人西野勝ヲ次期村長ニ選舉スルコトヲ承諾シ相被告人川波馬
 五郎亦被告人水摩徹太郎等ヨリ其ノ成行ヲ聽キ右事實ヲ諒承ノ上候補ヲ斷念シ自派議員等ノ行動ニ
 同スルコトヲ承諾スルニ至リシカハ同年八月七日村長選舉當日滿場一致ヲ以テ相被告人西野勝ヲ村
 長ニ選舉シタル後居村大字新北旅館玉屋ニ於テ前示金額ハ相被告人吉田才藏ノ手ヲ經テ被告人山本
 與治兵衛ヨリ川波派ノ代表的立場ニ在リタル被告人水摩徹太郎ニ交付セラレ以テ右選舉ニ付相被告
 人西野勝及被告人山本與治兵衛ハ被告人水摩徹太郎等ノ村會議員タル職務ニ關シ贈賄シ被告人水摩
 徹太郎及相被告人坂田藤七ハ前掲外七名ノ自派村會議員ト共ニ其ノ職務ニ關シ收賄シ相被告人川波
 馬五郎ハ右被告人等ノ收賄行爲ニ共同加功シ相被告人吉田才藏ハ兩者ノ間ヲ斡旋シ右贈賄收賄ノ各
 行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

(第二事實省略)

第三 被告人山本與治兵衛ハ

- (一) 同年七月十四日候補者相被告人西野勝ヲ村長ニ選舉セシムル目的ヲ以テ直方市二字町貸座敷
 松月樓ニ小野武 郡司島託惠 森新三郎等三名ノ村會議員ヲ案内シ一人前金七圓六十錢位相當ノ遊
 興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (二) 同年七月二十一日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ小野武 郡司島託惠等二名ノ村會議員ヲ案内
 シ一人前金十圓十錢位相當ノ遊興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (三) 同年七月二十八日前同旨ノ目的ヲ以テ前示旅館荒竹屋ニ於テ森新三郎外四名ノ村會議員ニ對
 シ一人前金九十五錢相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (四) 同年七月三十一日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ森新三郎外四名ノ村會議員ニ對シ一人前
 金六十八錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (五) 同年八月五日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ櫻井才次郎外六名ノ村會議員ニ對シ一人前金
 一圓五十三錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (六) 同年八月七日相被告人西野勝カ村會議員滿場一致ヲ以テ村長ニ選舉セラレタル謝禮トシテ被
 告人水摩徹太郎外十四名ノ村會議員ヲ夫々直方市二字町貸座敷松月樓、大正樓、敷島樓、曙樓等
 ニ案内シ一人前金八圓五錢位相當ノ遊興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ

第四 被告人水摩徹太郎ハ

共同收賄ト追徴トノ關係 賄賂分圖ノ判示

- (一) 同年七月十四日相被告人川波馬五郎ヲ村長ニ選舉セシムル目的ヲ以テ相被告人坂田藤七ヲ教唆シテ村會議員福本住吉ニ贈賄スル爲同人ヲ前示貸座敷敷島樓ニ案内セシメ一人前金六圓九十錢位相當ノ遊興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (二) 同年七月二十一日前同旨ノ目的ヲ以テ前示旅館玉屋ニ於テ麻生次六 福本住吉等二名ノ村會議員ニ對シ一人前金一圓三十八錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (三) 同年七月二十二日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ前同人等ニ對シ各一人前金一圓三十三錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (四) 同年七月二十三日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ麻生次六 麻生禎造 福本住吉 明見一郎 石松茂等五名ノ村會議員ニ對シ各一人前金一圓二十六錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (五) 同年七月二十五日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ麻生次六 福本住吉 明見一郎 石松茂等四名ノ村會議員ニ對シ各一人前金一圓四十六錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (六) 同年七月二十八日前同旨ノ目的ヲ以テ前示飲食店安高屋ニ於テ麻生次六 麻生禎造 福本住吉 明見一郎 石松茂等五名ノ村會議員ニ對シ各一人前金一圓五十五錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ

- (七) 前同日前同一ノ目的ヲ以テ相被告人坂田藤七 神谷惣次郎 田中五七 麻生次六 麻生禎造 福本住吉等六名ノ村會議員ヲ前示貸座敷松月樓及大正樓ニ案内シ各一人前金六圓三十錢位相當ノ遊興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (八) 同年七月二十九日前同旨ノ目的ヲ以テ直方市朝日町料理屋鯛屋ニ於テ相被告人坂田藤七 森新三郎外一名ノ村會議員等ニ對シ各一人前金五圓二十錢位相當ノ飲食遊興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (九) 前同日前同旨ノ目的ヲ以テ前示貸座敷曙樓ニ於テ相被告人坂田藤七 森新三郎等二名ノ村會議員ニ對シ各一人前金五圓六十錢相當ノ遊興ヲ爲サシメ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (十) 同年七月三十一日前同旨ノ目的ヲ以テ前示旅館玉屋ニ於テ麻生次六 麻生禎造 福本住吉 明見一郎 石松茂等五名ノ村會議員ニ對シ各一人前金一圓四十錢相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (十一) 同年八月二日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ前同人等ニ對シ各一人前金一圓三十錢相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ
- (十二) 同年八月五日前同旨ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ麻生次六 麻生禎造 福本住吉 石松茂等四名ノ村會議員ニ對シ各一人前金二圓四十四錢位相當ノ酒肴ヲ饗應シ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シ

共同收賄ト追徴トノ關係 賄賂分配ノ判示

(第五事實省略)

第六 前示被告人水摩徹太郎ハ西川村村會議員ナルトコロ小野武外十數名ノ村會議員ト共ニ同年八月七日相被告人西野勝ヲ村長ニ選舉シタル謝禮トシテ被告人山本與治兵衛ヨリ夫々前示貸座敷松月樓大正樓、敷島樓、曙樓等ニ於テ各一人前金八圓五錢位相當ノ遊興ヲ受ケ以テ其ノ職務ニ關シ贈賄シタルモノナリ

而シテ被告人等ノ各所爲ハ孰レモ夫々犯意繼續ノ下ニ爲サレタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人山本與治兵衛ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第九十八條第一項第六十條ニ其ノ他ノ判示各所爲ハ何レモ同法第九十八條第一項ニ該當スル處何レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ第一及第三(六)ノ點ニ付重キ被告人水摩徹太郎ニ對スル第三(一)(二)ノ點ニ付重キ小野武ニ對スル第三(三)(四)ノ點ニ付重キ森新三郎ニ對スル第三(五)ノ點ニ付重キ櫻井才次郎ニ對スル各贈賄罪ノ刑ニ從フヘク而シテ判示各所爲ハ何レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ一罪トシテ處斷スヘク懲役刑ヲ選擇シ被告人水摩徹太郎ノ判示第四ノ各所爲中(一)ノ點ハ同法第九十八條第一項第六十一條第一項第六十條ニ其ノ他ノ各所爲ハ何レモ同法第九十八條第一項ニ該當スル處(一)ノ點ヲ除キ何レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段ニ則リ(二)乃至(七)(十)

乃至(十二)ノ點ニ付重キ福本住吉ニ對スル(八)(九)ノ點ニ付重キ被告人坂田藤七ニ對スル各贈賄罪ノ刑ニ從フヘク判示第一ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段第六十條ニ判示第六ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段ニ該當スル處判示各所爲ハ何レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ收賄罪ノ一罪トシテ處斷シ何レモ該所定期刑範圍内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定スヘク又判示第一ノ收受金五百八十圓中被告人水摩徹太郎ノ負擔スヘキ同金額ノ十分ノ一金五十八圓判示第六ノ同被告人ノ收賄利益金八圓五錢以上合計金六十六圓五錢ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項ニ則リ其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人山内健三郎 團野甚十上告趣意書第七點ハ原判決ハ判示第一ノ收受金五百八十圓中被告人水摩徹太郎ノ負擔スヘキ同金額ノ十分ノ一……ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項ニ則リ其ノ價格ヲ追徵スヘキモノトスト爲シ本件五百八十圓ノ收受金ハ收受者十名ニ於テ當然ニ平等分割シテ沒收セラルヘキモノトセリ然レトモ刑法第九十七條第二項ノ規定ハ授受セラレタル賄賂ノ目的物又ハ價格ハ當ニ之ヲ國庫ニ歸屬セシメ收賄者又ハ贈賄者ヲシテ犯罪ニ關スル利益

共同收賄ト追徵トノ關係 賄賂分配ノ判示

ヲ保持シ又ハ回復セシメサルヲ目的トスルモノナルカ故ニ賄賂ノ目的物ニシテ收賄者ノ手ニ在ルトキハ收賄者ヨリ之ヲ沒收シ若シ贈賄者ニ返還セラレタル時ハ贈賄者ヨリ之ヲ沒收スヘク從テ沒收ヲ科セラルヘキ者ヨリ之ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ者ヨリ其ノ價格ヲ追徴スヘキ趣旨ナルコトハ大正十年(レ)第一六二四號御院刑事聯合部判決以來數次ニ互リテ判示セラレタルカ如シ而シテ共犯者數名アル場合ニ於テ沒收ノ言渡ハ共犯者全員ニ對シ爲サルヘキモノナリトスルモ其ノ沒收スル旨ノ判決ニ付現實ニ執行ヲ受クヘキモノハ現ニ賄賂ナル特定物ヲ所持スルモノナラサルヘカラス追徴トハ沒收ナル附加刑ノ執行ニ代ルヘキ處分ナルカ故ニ追徴ハ沒收刑ノ執行ヲ受クヘキ者ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナルコト理ノ當然ナリト言フヘク從テ共犯者數名アル場合ニ於テハ各自カ現實ニ收受シタル目的物又ハ價格ヲ追徴スヘキモノニシテ現實ニ賄賂ヲ收受シタルコトナキ者ニ追徴スルコト能ハサルハ現ニ所持セサル者ヨリ沒收ノ執行ヲ爲ス能ハサルト擇フトコロ無カルヘキナリ從テ右ノ理論ヨリスルトキハ當然共犯者數名アル場合ニ於テ現實ニ收受シタル目的物又ハ價格ヲ追徴スヘキモノニシテ共犯者ニ平等ニ分割シテ追徴スルコトハ時ニ其ノ全部又ハ大部分ヲ現實ニ收受シタル者ヲシテ不正ノ利益ヲ完フセシメ或ハ現實ニ何等ノ分配ニ與ラサル者ニ對シ苛酷ノ結果ヲ來シ同條カ規定セル「收賄者又贈賄者ヲシテ犯罪ニ關スル利益ヲ保持シ又ハ回復セシメサル」目的ヲ全然沒却スルノ結果ヲ來スヘキナリ曾テ御院カ屢次説示セラレタル二人以上共同シテ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テハ共犯人各自ノ分

配額如何ニ拘ハラス常ニ平等ニ分割シテ之ヲ負擔セシムヘキモノトセル判例ハ共犯者各自ニ於テ如何ナル割合ヲ以テ分配セラレタリヤ積極的證據ニヨリ判明シ難キ場合ニ非サル限り上述ノ論旨ニ因リ之ヲ變更セサルニ於テハ曩ニ引用セル大正十年(レ)第一六二四號刑事聯合部判決ニ抵觸スル違法ヲ來スヘキナリ上告人水摩徹太郎カ外九名ト共ニ收受シタリト稱スル五百八十圓ハ第一審判決ノ認定ニ因ルトキハ(記錄一五二六丁以下)一、金二十圓麻生次六 麻生禎造二 金三十圓福本住吉 明見一郎 石松茂三、金二十三圓水摩徹太郎 坂田藤七 田中五七 神谷惣太郎四、金四十圓同上五、金六圓二十錢同上六、金二十五圓川波勇次郎七、金四百三十五圓八十八錢川波馬五郎ニ各分配シタルモノニシテ右ニヨルトキハ上告人水摩徹太郎カ現實ニ收受シタルハ金十七圓二十三錢ニ過キサルニ拘ハラズ總額ノ十分ノ一ノ追徴ヲ命シタル沒收又ハ追徴セラルヘキ不法ノ利益ヲ保持セサル者ニ對シテ苛酷ノ制裁ヲ與ヘ他方四百三十五圓八十八錢ヲ收受シタル川波馬五郎ヲシテ不法ノ利益ヲ完フセシムルノ不合理ナル結果ヲ來シ結局原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルモノトスト謂フニ在リ

【要旨第一】

仍テ案スルニ數人共同シテ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テ其ノ費消シタル賄賂ヲ追徴スルニハ共犯人間ノ分配額ノ如何ニ拘ラス之ヲ平等ニ分割シテ追徴スヘキモノナルコト曾テ本院判例ノ存セルトコロナリト雖其ノ見解ニ依ルトキハ多額ノ分配ヲ受ケタル者ヲシテ不正ノ利益ヲ保持セシメ少額ノ分配ヲ受ケタル者ヲシテ過度ノ負擔ヲ爲サシムルカ如キ不公平ナル結果ヲ生スルカ故ニ追徴ハ共犯者各自ノ分

配額ニ從テ之ヲ行フヲ適當ナリトス而シテ此ノ趣旨ハ既ニ所論引用ノ本院大正十年(れ)第一六二四號刑事聯合部判決並同十一年(れ)第一九三八號判決ニ於テ承認スルトコロナルヲ以テ從前ノ判例ハ爾來此ノ意味ニ於テ變更セラレタルモノト認メサルヘカラス從テ共同收賄ノ事件ニ付テハ分配ノ有無並ニ分配額ヲ判示シテ追徵額ノ基本ヲ明ニスルヲ以テ適當ナリトス然レトモ共同收受ニ係ル目的物ハ特ニ反對事實ノ徵スヘキモノアラサル限リ共犯者ノ共有ニ屬シ各自ノ分配額ハ平等ナリト認ムヘキコト社會通念上當然ノ判斷ニ屬スルカ故ニ賄賂カ平等ニ分配セラレタル場合ニ於テ特ニ之ヲ明示スルコトナキモ分配額不明ナリト爲スヲ得ス加之分配ノ有無並ニ分配額ノ多寡ハ罪ト爲ルヘキ事實ニ屬セサルカ故ニ判文上之ヲ明示セサルモ違法ナリト爲スニ足ラス原判決カ所論判示第一事實ニ付被告人徹太郎ヨリ金五十八圓ヲ追徵スヘキモノト爲セルハ第一審ト認定ヲ異ニシ敍上説明ノ趣旨ニ依リテ收受額平等分配ノ事實ヲ認メ其ノ沒收不能ナル爲同額ノ追徵ヲ命シタルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ原判決ニ所論ノ如キ違法アリト爲スヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○公文書虛偽作成行使公正證書原本不實記載行使業務上橫領被告事件

(昭和九年(れ)第五四八號
同年七月十九日第一刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 渡邊 忠行 辯護人

外一名

菊地 幸夫 輔
鈴木 重光
山本 貞二
佐藤 鐵治

【第一審】 秋田地方裁判所大館支部 【第二審】 宮城訴訟院

○判示事項

背任罪ト業務上橫領罪

○判決要旨

村長カ第三者ノ利益ヲ圖リ其ノ職務上保管セル村ノ基本財産ヲ村ノ計算ニ於テ貸與センコトヲ決意シ村會ノ決議ヲ經スシテ擅ニ之ヲ第三者ニ交付シ因テ村ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ背任罪ヲ構成シ業務上橫領罪ヲ構成スルモノニ非ス

背任罪ト業務上橫領罪

【參照】 刑法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人忠行 茂家ヲ各懲役一年六月ニ處ス訴訟費用ハ被告人忠行 茂家ニ於テ相被告人近藤萬太ト連帶シテ負擔スヘキ旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人忠行ハ大正八年五月以來引續キ秋田縣北秋田郡長木村村長ノ職ニ在リタルモノナル處豫テ親交アル被告人茂家ヨリ被告人忠行カ右村長トシテ業務上保管セル長木村基本財産ヲ茂家ノ社長トシテ經營ニ係ル秋田無盡株式會社ノ爲貸與セラレ度キ旨懇願セラレテ之ヲ承諾シ右基本財産中昭和三年十月三日金五千四百圓ヲ同年十一月十八日金四百二十四圓三十四錢ヲ執レモ村會ノ決議ヲ經ス擅ニ右會社ニ費消セシムル爲大館町ニ於テ預金名義ヲ以テ右會社ノ社長タル被告人茂家ニ交付シ以テ右被告人兩名共謀シテ之ヲ横領シ

第二 被告人茂家ハ豫テ右長木村所在ノ自己所有土地百八十三筆此ノ段別合計二十一町七段四畝十歩ニ根抵當權ヲ設定シテ株式會社第五十九銀行ヨリ合計金三萬二千八百四十八圓ヲ借受ケ居リタルカ

昭和七年七月當時右債務未拂ノ爲同銀行ニ於テ右抵當權ヲ實行セントスルノ狀勢アリタルヲ以テ之カ對策ニ苦慮シ居リタル折柄同月十四日前示債務中金二千圓ニ付右銀行ヨリ其ノ所有動産ノ假差押執行ヲ受ケタルヨリ必スヤ更ニ前示抵當權ノ實行セラレヘキヲ豫想シ豫テ昵懇ナル長木村村長ノ職ニ在ル被告人忠行ニ右事情ヲ告ケテ之カ對策ヲ謀リタル結果茲ニ右兩名ハ長木村助役兼收入役ノ職ニ在ル相被告人萬太ト共謀ノ上當時被告人茂家カ右土地ニ對スル同村村税金五百六圓八十五錢及水利組合費金二百十九圓十九錢以上合計金七百二十六圓四錢ヲ滯納シ居リタルヲ奇貨トシ同村ノ村稅滯納處分ニヨリ前示土地ヲ公賣シタル旨ノ形式ヲ整ヘ以テ不正ニ右根抵當權設定登記ヲ抹消シテ第五十九銀行ノ右抵當權ノ實行ヲ妨害センコトヲ企圖シ相被告人萬太ニ於テ昭和七年七月十五日頃ヨリ同月二十九日頃迄ノ間ニ長木村役場内ニテ同村役場書記中村卯之松同役場雇橋本貞治ノ兩名ニ命シテ右滯納ニ係ル村稅ニ對シテハ同村大茂内字諏訪下百八番田九畝十五步外七十三筆同水利組合費ニ對シテハ同村茂内字膳棚下十四番田八畝十一步外五十筆合計十二町七段八畝十六步時價二萬一千七百五十九圓五十錢ヲ夫々同月十三日附ニテ滯納處分ニ因ル差押ヲ爲シ段當リ三十圓ノ豫定額ヲ以テ之ヲ公賣ニ付シ豫テ被告人忠行 茂家等ノ依頼ニヨリ落札名義人タルコトヲ承諾シ居リタル原審相被告人中村福松カ前示七十四筆ノ土地ヲ金二千九百二十八圓十一錢五十一筆ノ土地ヲ金千四百七十八圓六十錢ニテ夫々落札シ即日右代金ノ支拂ヲ了シタル旨ノ關係書類ヲ作成セシメ其ノ頃相被告人

萬太自ラ同村役場備付ニ係ル末尾添附目錄帳簿名欄記載ノ各徵收簿(目錄ハ之ヲ省略ス)ニ同目錄金額欄記載ノ各金額ヲ夫々同月二十八日之ヲ受入レタル旨ノ各虚偽ノ記載ヲ爲シ之ニ萬太ノ認印ヲ各押捺シテ以テ同人ノ收入役タル職務ニ關シ公務員ノ印章アル虚偽ノ文書ヲ順次ニ作成シ即時一括シテ同役場ニ之ヲ備付ケテ次テ同月二十九日頃同日附ノ大館區裁判所宛長木村村長名義ヲ以テ前示各土地ニ對スル公賣ニ因ル所有權移轉登記囑託書各一通ヲ作成シ之ニ村長ノ職印ヲ押捺シテ以テ被告入忠行ノ村長タル職務ニ關シ公務員ノ印章署名アル虚偽ノ文書各一通ヲ順次ニ作成シ被告人茂家ニ於テ之カ登記費用ヲ支出シ同年八月三日之ヲ判示橋本貞治ヲシテ大館區裁判所ニ一括シテ提出セシメテ行使シ情ヲ知ラサル係員ヲシテ同裁判所備付ノ登記簿ニ右公賣處分ニ因ル所有權移轉登記及右各土地中百十八筆合計十三町七段一畝二十二歩ニ對スル第五十九銀行ノ前示抵當權設定登記ノ抹消登記ヲ爲サシメ以テ登記簿ノ原本ニ其ノ旨各不實ノ記載ヲ爲サシメ夫々即時同所ニ之ヲ備付ケシメテ行使シ

タルモノニシテ敍上被告人忠行 茂家ノ判示横領竝ニ判示虚偽ノ公文書作成、其ノ行使、公正證書原本不實記載、其ノ行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人忠行ノ判示横領ノ點ハ刑法第二百五十三條第六十條第五十五條ニ被告人茂家ノ右横領ニ加工シタル點ハ同法第二百五十三條第六十條第六十五條第一、二項第二百五十二條第一項第五

十五條ニ判示第二ノ所爲中被告人忠行カ内容虚偽ノ所有權移轉登記囑託書ヲ作成シタル點ハ各同法第五百五十六條第五百五十五條第一項第六十條ニ被告人茂家カ右囑託書作成ニ加工シタル點ハ同法第五百五十六條第五百五十五條第一項第六十條第六十五條第一項ニ被告人忠行 茂家カ其ノ他ノ判示虚偽文書ノ作成ニ加工シタル點ハ夫々同法第五百五十六條第五百五十五條第一項第六十條第六十五條第一項ニ以上ノ各虚偽文書ヲ行使シタル點ハ各同法第五百五十八條第一項第五百五十六條第五百五十五條第一項第六十條ニ又被告人等カ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル點ハ各同法第五百五十七條第一項第六十條ニ其ノ行使ノ點ハ各同法第五百五十八條第一項第五百五十七條第六十條ニ夫々該當シ右虚偽文書ノ作成ト公正證書原本不實記載トハ連續犯ニシテ又其ノ各行使ハ一括行使ニ係リ且連續犯ノ關係アルヲ以テ前者ニ付同法第五十五條第十條後者ニ付同法第五十五條第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ夫々重キ虚偽文書作成ノ罪及其ノ行使罪ニ付定メタル刑ニ從フヘク右虚偽文書ノ作成ト其ノ行使トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ虚偽文書行使罪ノ刑ニ從ヒ被告人忠行 茂家ノ判示横領ト右虚偽文書ノ行使トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ依リ重キ後者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人等ト相被告入萬太三名ヲシテ全部之ヲ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人忠行 茂家ニ關スル部分ヲ破毀ス
被告人忠行 茂家ヲ各懲役一年六月ニ處ス

訴訟費用ハ被告人忠行 茂家ニ於テ相被告人近藤萬太ト連帶シテ負擔スヘシ

○理 由

被告人泉茂家辯護人菊池儉輔上告趣意書第二點ハ又假リニ右原判決第一前段認定ノ事實カ若シ刑辟ニ觸ルルモノアリトセハ刑法第二百四十七條ノ背任罪ヲ構成スルハ格別決シテ同法第二百五十三條ノ所謂業務橫領トナル可キモノニ非サルヲ信ス蓋シ橫領罪ハ自己ノ占有ニ係ル他人ノ財物ヲ不正ニ領得スルノ所爲ニシテ則チ橫領罪ノ成立ニハ不正領得ノ犯意アルコトヲ要スルカ故ニ原判決擧示ノ證左ソノ本件記録ヲ通シテ相被告人忠行ニ斯ル犯意ノ認ムヘキモノナキ本件ノ場合ニ於テ橫領罪ノ成立スヘキ謂ハレナケレハナリ去レハ原判決ハ斯點ヨリ見レハ其ノ擬律ヲ誤リタル頗ル失當ノ裁判ナリト謂ハサルヲ得スト云フニ在リ

【要旨】

仍テ案スルニ他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スルニ當リ自己ノ占有スル本人ノ物ヲ自ラ不正ニ領得スルニ非スシテ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ背任罪ヲ構成スヘク之ヲ橫領罪ニ問擬スヘキモノニ非サルコトハ本院ノ判例(昭和八年(れ)第

九號同年三月十六日判決)トスル所ナリ原判決ノ認定シタル判示第一事實ハ措辭妥當ヲ缺クノ嫌ナキニ非サレトモ判文ノ全體ヲ通讀スルニ被告人忠行ハ判示長木村村長在職中豫テ親交アル被告人茂家ノ懇請ニ因リ同人ノ社長トシテ經營セル秋田無盡株式會社ノ利益ヲ圖リ自己ノ村長トシテ職務上保管セル同村基本財産ヲ同村ノ計算ニ於テ同會社ニ貸與センコトヲ決意シ同村會ノ決議ヲ經スシテ昭和三年十月三日同基本財産中金五千四百圓ヲ同年十一月十八日同金四百二十四圓三十四錢ヲ被告人茂家ニ交付シテ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ仍テ右長木村ニ財産上ノ損害ヲ加ヘ被告人茂家ハ右行爲ニ加功シタル趣旨ニ解スルヲ相當トス從テ原判示第一事實ハ背任罪ノ事實關係ヲ判示シタルモノナリト謂フヲ得ヘシ尤モ原判示中ニ橫領ナル文字アレトモ开ハ原審カ法律上ノ見解ヲ表示シタルモノト解スヘク斯ル文字アルノ故ヲ以テ右原判決ニ表示シタル具體的事實關係タル背任行爲ヲ橫領行爲ナリト論スルヲ得サルコト勿論ナリ然レハ則チ原判決カ背任行爲タル判示第一事實ニ對シ業務上橫領罪ノ法條タル刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ論旨理由アリ原判決中被告人茂家ニ關スル部分ハ破毀ヲ免レサルモノトス

各被告人辯護人赤井幸夫上告趣意書第四點ハ原判決ハ其ノ事實理由第一ニ於テ「被告人忠行ハ大正八年五月以來引續キ秋田縣北秋田郡長木村村長ノ職ニ在リタルモノナル處豫テ親交アル被告人茂家ヨリ被告人忠行カ右村長トシテ業務上保管セル長木村基本財産ヲ茂家ノ社長トシテ經營ニ係ル秋田無盡株

式會社ノ爲貸與セラレ度キ旨懇願セラレテ之ヲ承諾シ右基本財産中昭和三年十月三日金五千四百圓ヲ同年十一月十八日金四百二十四圓三十四錢ヲ孰レモ村會ノ決議ヲ經ス擅ニ右會社ニ費消セシムル爲大館町ニ於テ預金名義ヲ以テ右會社ノ社長タル被告人茂家ニ交付シ以テ右被告人兩名共謀シテ之ヲ橫領シト判示シ刑法第二百五十三條ヲ適用處斷シタリ然レトモ右金員ハ長木村長ニ於テ判示無盡會社ニ預入レタルモノナリトハ上告人等カ公判ニ於テ辯解スル處ニシテ右上告人等ノ供述ト(一)當時判示金員ヲ預入レ置キタル各銀行ハ何レモ他ノ地方銀行ト同シク頗ル危マレ居リタル事實殊ニ第五十九銀行ハ其ノ後間モナク破綻シタル事實(二)判示無盡會社ハ當時相當信用アリシ事實(三)判示無盡會社ハ判示各銀行ヨリ高利子ニテ預リタル事實(四)本件發覺前ニ於テモ其ノ一部ノ返金アリタル事實(五)渡邊忠行カ右返済ヲ受ケタル金員ヲ他ニ流用シタルコトニ付村會ノ事後承認アリシ事實(六)監督官廳タル縣ニ於テ右預入レハ成規ノ方法ニアラサルヲ以テ之ヲ是正スヘキ旨注意ヲナシタルニ止マル事實等ニ照ストキハ判示無盡會社ニ預金スルニ付キ村會ノ決議ヲ經サリシト云フ一ノ手續上ノ缺點アリシニ止マリ上告人等ハ決シテ判示ノ如ク不正領得ノ意思ヲ以テ右所爲ニ及ヒタルモノニアラサルコトヲ知ルニ充分ナリト信ス然ルニ原判決カ右上告人等ノ所爲ヲ以テ業務上ノ橫領罪ヲ構成スルモノナリト斷シタルハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリト云フニ在リ

原判示第一事實ハ冒頭辯護人菊池儉輔上告趣意書第二點ニ對シテ説明シタルカ如キ被告人忠行ノ背任

被告人茂家ノ之ニ加功シタル犯罪事實ヲ判示シタルモノト解スルカ故ニ原判決カ右事實ニ對シ橫領罪ニ關スル刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ失當ニシテ此ノ點ニ關スル論旨理由アリテ原判決中被告人忠行 茂家ニ關スル部分ハ破毀ヲ免レサルモノトス然レトモ前述ノ如ク原判決第一事實ハ背任ノ事實關係ヲ判示シタルモノニシテ自己ニ不正領得ノ意思アリタルコトハ原判決ノ認定セサルコトコナナルカ故ニ斯ノ如キ認定アリタルコトヲ前提トシテ原判決ノ事實誤認ヲ攻撃スルハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ニ依リ被告人茂家 忠行ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ原判決中同被告人等ニ關スル部分ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ則リ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人忠行ノ判示第一ノ背任ノ點ハ刑法第二百四十七條第六十條第五十五條ニ被告人茂家ノ右背任ニ加功シタル點ハ同各法條並同第六十五條第一項ニ各該當スルヲ以テ孰レモ懲役刑ヲ選擇シ判示第二ノ所爲中被告人忠行ノ虛偽ノ所有權移轉登記囑託書ヲ作成シタル點ハ同法第五十六條第五十五條第一項第六十條ニ被告人茂家ノ右囑託書作成ニ加功シタル點ハ同各法條並同第六十五條第一項ニ被告人忠行 茂家カ其ノ他ノ判示虛偽文書作成ニ加功シタル點ハ同法第五十六條第五十五條第一項第六十條第一項ニ各右虛偽文書ヲ行使シタル點ハ同法第五十八條第一項第五十六條第五十五條第一項第六十條ニ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲

サシメタル點ハ各同法第五百七條第一項第六十條ニ其ノ行使ノ點ハ各同法第五百八條第一項第五百七條第一項第六十條ニ夫々該當シ右各虛偽文書ノ作成公正證書原本不實記載其ノ行使ハ孰レモ連續犯ノ關係ニアリ又虛偽文書行使ハ一括行使ニ係リ且連續犯ノ關係アリ又虛偽文書ノ作成其ノ行使公正證書原本不實記載其ノ行使ハ順次手段結果ノ關係ニアルヲ以テ刑法第五十四條第一項第五十五條第十條ヲ適用シ最モ重キ虛偽ノ村税ノ滯納處分ニ依ル公賣ノ所有權移轉登記囑託書行使罪ノ刑ニ從ヒ判示第一第二ノ犯罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルニ付同法第四十七條第十條ニ則リ重キ第二ノ罪ニ付定メタル刑ノ長期ニ法定ノ加重ヲ爲シ該刑罰範圍内ニ於テ被告人忠行 茂家ヲ各懲役一年六月ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人忠行 茂家ニ於テ相被告人近藤萬太ト連帶シテ負擔スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○常習賭博被告事件(昭和九年(九)第六七五號 棄却)
同年七月十九日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 松井又市 辯護人 山本二郎

【第一審】 飯塚區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

賭博ノ繼續的行爲ト賭博ノ常習

○判決要旨

賭博ノ常習アリトスルニハ必シモ連日連夜繼續シテ賭博行爲ヲ爲シタルコトヲ要スルモノニアラス

【參照】 刑法第八十六條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據ノ舉示及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二月ニ處スル旨ノ判決ヲ

賭博ノ繼續的行爲ト賭博ノ常習

爲シタリ

被告人ハ昭和四年八月三十一日飯塚區裁判所ニ於テ賭博罪ニ依リ罰金二十圓ニ更ニ昭和八年三月二日同區裁判所ニ於テ同罪ニ依リ罰金二十圓ニ各處セラレタルモノナルトコロ昭和八年八月中旬頃ヨリ同年十二月二十六日頃迄ノ間約八回ニ互リ被告人安次郎肩書居宅外數箇所ニ於テ被告人安次郎外數名ト共ニ前同様金錢ヲ賭シ花札ヲ使用シ俗ニ「前出」ト稱スル賭博ヲ常習トシテ爲シタルモノナリ

右事實中常習ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ事實ハ第一審公判調書中被告人ノ供述トシテ判示同旨ノ記載アルノミナラス被告人ニ對スル檢事ノ聽取書中ニ判示ト同趣旨ノ供述記載アルニ依リ之ヲ認メ常習ノ點ハ被告人ハ判示ノ如ク賭博ノ前科ヲ有スルニ拘ラス更ニ各判示期間内ニ多數ノ者ト共ニ數回或ハ十數回反覆シテ本件賭博ヲ爲シタル事跡ニ徴シ且被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ別ニ賭博カ好キト云フ譯ニテハナキモ雨降り等ニハチヨイチヨイヤリ居ル旨ノ供述ヲモ參酌シテ之ヲ認定ス仍テ判示犯罪事實ハ全部其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山本二郎上告趣意書第一點常習賭博ト爲ルニハ賭博ノ習癖アルコトヲ要ス即花札ヲ見レハ常ニ必ス賭博ヲ爲サスシテハ居ラレヌ程度ノモノナラサルヘカラス而シテ被告人ハ一定ノ職業ヲ有シ連日連夜花札ヲ用ヒ或ハ其ノ他ノ方法ニ於テ賭事ヲ爲シ居ラサルコトハ一件記録上明確ナリ司法警察官ノ取調ニ對スル被告人ノ供述ニ依ルモ少クトモ一回ト一回ノ間ニ數日ヲ置キ且一回ノ時間ハ一、二時間長キモノニテ數時間ニ過キス而モ一目二錢乃至四錢ノモノナリ尙控訴公判ニ於ケル供述ニ依レハ僅カ二、三回ノ賭博ヲ爲シタルノミニテ夫レモ雨降り又ハ御祭等ニテ休日ノ日ナリ場所ノ如キ殆ント異リ居ル事實ヲ推セハ被告人ハ花札ヲ見レハ賭博ヲ爲サスニハ居レヌト謂フ程度ノ者ニ非サルコトヲ推知スルニ充分ナリ然ラハ被告人ヲ賭博ノ常習者ナリトスルヲ得サルナリト謂フニアレトモ

【要旨】 賭博ノ常習トハ反覆シテ賭博行爲ヲ爲ス習癖ヲ謂フモノニシテ右習癖アリトスルニハ必スシモ連日連夜繼續シテ賭博行爲ヲ爲シタルコトヲ要スルモノニアラス又犯人カ一定ノ職業ヲ有スルコトハ右習癖ヲ有スルコトノ妨ト爲ラサルモノトス原判決ノ認定シタルトコロハ被告人ハ昭和八年八月中旬頃ヨリ同年十二月二十六日頃迄ノ間約八回ニ互リ原審相被告人溝口安次郎居宅外數箇所ニ於テ右安次郎外數名ト共ニ花札ヲ使用シ一目ニ付一錢乃至六錢ヲ賭シ各得點ノ多寡ニ依リ金錢ノ得喪ヲ決スル俗ニ「前出」ト稱スル賭博ヲ常習トシテ爲シタリト謂フニアリテ其ノ常習ノ點ハ被告人カ昭和四年八月三十一

日飯塚區裁判所ニ於テ賭博罪ニ依リ罰金二十圓ニ處セラレ更ニ昭和八年三月二日同區裁判所ニ於テ同罪ニ依リ罰金二十圓ニ處セラレタルコトアルニ拘ラス更ニ右ノ期間内ニ多數ノ者ト共ニ約八回ニ互リ反覆シテ賭博ヲ爲シタルコト第一審公判調書中ノ被告人ノ其ノ旨ノ供述記載ニ微シ明ナルト尙被告人カ原審公廷ニ於テ自分ハ別ニ賭博カ好キト云フ譯ニテハナキモ雨降り等ニハチヨイチヨイヤリ居ル旨ノ供述トニ依リテ認定シタルモノナルカ右ノ資料ハ本件賭博行爲カ被告人ノ反覆シテ賭博ヲ爲ス習癖ノ發現ナリト認メシムルニ足ルカ故ニ原判決カ右ニ依リ被告人ノ賭博常習ノ事實ヲ認定シタルハ正當ナリト謂フヘク被告人カ連日連夜賭博行爲ニ耽リタルニ非サルコト及被告人カ一定ノ職業ヲ有スルコトハ右認定ヲ覆スニ足ラサルコト上敍スルコロニ依リテ明ナリ從テ原判決ニハ所論ノ瑕疵ナク論旨ハ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○收賄公文書偽造行使被告事件 (昭和九年(九)第五〇五號 棄却)

【上告人】 被告人 横田蛙遊水 辯護人 (山川崎齊一郎 山口貞昌)
 【第一審】 高知地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力——高知縣令ニ依ル設計見積調査書ト公文書

○判決要旨

一 想像上ノ數罪トシテ起訴セラレタル一罪ニ付有罪ヲ言渡シ他ノ罪ニ付テハ證明十分ナラスト判斷シタル判決ニ對シ檢事力控訴ヲ爲シタルトキハ其ノ不服ノ理由カ證明不十分ト判斷シタル點ニアルモ公訴事實全部ニ付移審ノ效力ヲ生ス【要旨第一】

二 明治三十九年高知縣令耕地整理及土地改良ニ關スル規程ニ基キ縣ヨリ耕地整理申請者ニ交付スル設計書ノ材料トシテ農林技手カ職務上作成スル設計見積調査書ハ公文書ナリ【要旨第二】

【參照】 刑法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力 高知縣令ニ依ル設計見積調査書ト公文書 九九七 (二七)

結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
同法第五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

同法第五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以上以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

刑事訴訟法第三百七十六條 上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得
同法第三百八十條 上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

明治三十九年十二月二十六日高知縣令耕地整理及土地改良ニ關スル規定第一條
基本調査ハ耕地整理(土地改良ヲ含ム以下皆同シ)施行ノ爲必要ナル土地ノ狀況ヲ調査考量シ最モ適當ナル基本計畫ヲ設定スルヲ以テ目的トス

同第七條 設計ハ耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行セントスル土地ニ對シ測量設計ヲ爲スヲ以テ目的トス

同第九條 設計ニ於テ調査確定スヘキ事項左ノ如シ

- 一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
 - 二 工事ノ計畫說明
 - 三 工事施行ノ方法及順序
 - 四 主要工事ノ仕様
 - 五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
 - 六 工事施行ニ依リ得ヘキ利益
 - 七 整理施行地及之ニ隣接スル土地ノ現形圖
 - 八 整理豫定圖
 - 九 工事著手及完了ノ豫定期期
 - 十 工事ニ要スル費用及夫役現品ノ豫算
- 調査完了シタルトキハ設計書ヲ作製シ申請者ニ交付ス

○事實

本件公訴事實及第一審判決ノ要領ハ論旨第六點ニ對スル説明中ニ記載セル如シ

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス但シ本判決確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人ヨリ金三十圓四十三錢ヲ追徴ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トストノ判

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力高知縣令ニ依ル設計見積調査書ト公文書

決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十四年七月頃ヨリ高知縣農林技手トシテ同縣内務部耕地課長及農林技師ノ指導ヲ受ケ實地測量工事設計豫算組合員ノ指導等ノ職務ニ從事シ昭和五年八月頃ヨリ同課長ノ命ヲ受ケ同縣香美郡在所村梅久保耕地整理組合及同村大井平耕地整理組合ノ主任技術者トナリ右兩組合ノ工事設計豫算工事ノ指揮監督等ノ職務ヲ擔當シ居リタル者ナルトコロ

第一 昭和五年八月頃右組合ノ耕地整理工事ノ測量設計ニ赴キタル際香美郡在所村飲食店黒岩勝喜及松尾豐重方等ニ於テ梅久保耕地整理組合創立委員黒岩繁馬等及大井平耕地整理組合創立委員幾井保龜等ヨリ響應ヲ受ケ人夫賃ヲ多額ニ見積リ洗砂利ヲ工事現場ニ近キ物部川支流流域ヨリ採取セスシテ遠隔ナル物部川本流域ヨリ採取スルコトト爲シ以テ香美郡在所村永野耕地整理組合ノ如ク過大ナル設計見積ヲ爲シ吳レ度キ旨ヲ懇請セラルルヤ若シ過大ナル設計見積ヲ爲サハ右兩組合員カ該過大ナル設計豫算額ニ基キ事業資金名義ノ下ニ必要額ヲ超過スル低利資金ヲ借入ルヘキ事ヲ諒知シ居リ乍ラ右請託ヲ容レ同年十一月、二月頃同縣應耕地課内ニ於テ梅久保耕地整理組合ノ工事費ハ金六千圓以下ニテ足ル見込ナルニ之ヲ金八千三百圓又大井平耕地整理組合ノ工事費ハ金五千圓以下ニテ足ル見込ナルニ之ヲ金六千七百圓トシ不正ニ過大ナル設計見積ヲ爲シ以テ夫々職務ニ關シ虚偽ナル右兩組合ノ設計見積調査書(通稱設計書ノ原稿又ハ草稿)各一通ヲ順次作成偽造シ執レモ永井農林技

師ノ手ヲ經テ之ヲ田中耕地課長ニ提出シテ行使シ

第二 昭和五年八月頃右兩組合ノ耕地整理工事ノ測量設計ニ赴キタル際香美郡在所村飲食店黒岩勝喜及松尾豐重方等ニ於テ梅久保耕地整理組合創立委員黒岩繁馬等及大井平耕地整理組合創立委員幾井保龜等ヨリ第一掲記ノ如キ請託ヲ受ケ之ヲ承諾シ其ノ謝禮ノ趣旨ヲ了知シテ同年八月九日頃ヨリ昭和七年三月頃迄ノ間十數回ニ互リ總計金三十圓四十三錢相當ノ酒食ノ響應ヲ受ケ以テ職務ニ關シ賂賂ヲ收受シ因テ第一ノ如キ不正ノ行爲ヲ爲シ

タルモノニシテ右公文書偽造及公文書ノ行使竝加重收賄ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲中公文書偽造ノ點ハ刑法第五百五十六條第三項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十六條第五百五十五條第三項ニ判示第二ノ所爲ハ同法第九十七條第一項後段ニ該當スルトコロ公文書偽造及偽造公文書行使竝加重收賄ハ夫々意犯繼續ニ係リ且前二者ハ其ノ間手段結果ノ關係アリ該兩行爲トハ夫々一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十五條第五十四條後段前段第十條ニ依リ結局最モ重キ加重收賄罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク尙犯情刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ依リ本判決確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ被告人ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ則リ被告人ヨリ主文第三項掲記ノ價額ヲ追徴スヘ

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力 高知縣令ニ依ル設計見積調査書ト公文書

ク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人川崎齊一郎 山口貞昌上告趣意書第二點原判決ハ「被告人カ昭和五年八月九日頃乃至同七年三月頃迄ノ間十數回ニ互リ梅久保耕地整理組合創立委員黒岩繁馬及大井平耕地整理組合創立委員幾井保龜等ヨリ黒岩竝松尾兩飲食店ニ於テ總額金三十圓四十三錢ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ受ケタリ」トノ事實ヲ認定シ右ハ被告人第一回乃至第三回豫審調書ヲ通シ判示同趣旨ノ供述記載アルニ徴シ之ヲ證明スルニ足ル旨説示セリ仍テ該調書ヲ精査スルニ原判決ハ被告第三回豫審調書ノ附表ヲ基礎トシテ饗應ノ場所回數及出席者ヲ按シ其ノ酒食ノ金額ハ出席頭數ニ因リ之ヲ等分算出シタルコト疑ナシ然ルニ被告ハ第二回豫審調書ニ於テ前記附表中第九項昭和五年十二月十一日黒岩飲食店出席七名總額金八圓五十錢分第十項同年同月十二日同飲食店出席四名總額金六圓八十錢分ノ饗應ヲ否認シ（第五問答ノ十二）且附表第六項昭和五年八月十三日梅の家飲食店出席五名總額金三十二圓分第七項同日丸壽亭飲食店出席同上總額金十四圓分ニ付テハ自己ノ分擔額トシテ金十數圓ヲ出金交付シタル旨辯解シ（第五問答ノ十）其ノ第三回豫審調書ニ至リテモ唯附表第九項ノ饗應ヲ認メタルニ止リ此他從前ノ主張ハ依然之ヲ

維持セルモノナレハ右ノ如キ原院ノ證據説示ハ當ニ被告ノ供述趣旨ヲ誤解引用シタル違法アルノミナラス第六項及第七項ノ饗應金額ハ合計金九圓二十錢ニ過キスシテ既ニ被告ヨリ其ノ分擔額トシテ金十數圓ヲ出金セルニ拘ラス仍ホ之ヲ被告ノ受ケタル饗應ナリト認メ該金額ヲ追徵セムトスル原判決ハ事實ヲ誤認シ且相當額以上ノ追徵處分ヲ爲ス不法アルモノト思料トス謂フニアレトモ

原判決カ其ノ證據説明ニ於テ被告人ニ對スル豫審第一回乃至第三回訊問調書ヲ通シ所論原判示事實ト同趣旨ノ供述記載アリトシ之ヲ證據トシテ引用スル所以ハ右各訊問調書ノ夫々ニ右原判示事實ト同趣旨ノ供述記載アリト謂フニハアラス右第一回ヨリ第三回ニ至ル訊問應答ノ徑路ニハ其ノ間迂餘曲折アリト雖結局歸スルトコロハ右原判示事實ト同趣旨ナルコトヲ認メ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノナレハ其ノ各調書ヲ比照スレハ其ノ間ニ矛盾相違ノ點アリトスルモ其ノ歸著スルトコロニ於テ右ノ趣旨ナルニ於テハ何等採證ノ法則ニ反スルモノト謂フヘカラス從テ被告人カ豫審第二回訊問ニ於テハ饗應ヲ受ケタル一部ノ事實ヲ否認ストスルモ豫審第三回訊問ニ於テ結局其ノ事實ヲモ認ムルニ於テハ右前後ノ陳述ヲ採ツテ全部ノ事實ニ付テノ證據ト爲シ前顯ノ文辭ヲ用ヒテ説明ヲ爲スニ妨ナキモノトス而シテ被告人ハ豫審第三回ノ訊問ニ於テ右訊問調書ノ附表ヲ示サレ其ノ第十項ノ分ヲ除キ爾餘ノ饗應ヲ受ケタルコトニ付其ノ饗應ヲ爲シタル者饗應ノ年月日場所等附表ノ通り相違ナキ旨ヲ陳述シタルモノニシテ即此ノ點ニ於テ被告人ハ豫審第一回及第二回ノ訊問ニ於ケル陳述ヲ變更シタルモノナルカ故ニ結

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢察控訴ノ效力 高知縣令ニ依ル設計見和調查書ト公文書

局被告人ニ對スル豫審第一回乃至第三回訊問調書ヲ通シテ認定シ得ラルヘキ饗應ハ前記附表中第十項ノ分ヲ除キタル十回分ニシテ右十回分ニ於ケル被告人ノ負擔分ヲ積算スレハ金三十圓四十三錢トナリ即原判決ノ認定シタル被告人ノ受ケタル饗應額ニ符合スルカ故ニ原判決カ右被告人ニ對スル豫審第一回乃至第三回訊問調書ヲ通シテ右認定事實ト同趣旨ノ供述記載アリト做シ之ヲ證據ニ供シタルハ正當ニシテ何等探證上ノ違法ナク而シテ右豫審第二回訊問調書中被告人カ右負擔部分ノ一部ヲ支拂ヒタリトノ供述記載ハ原判決ノ採用シタル部分ニアラサルコト原判示事實ニ徴シ明ナレハ右記載アルノ故ヲ以テ該認定ヲ不當ト爲スヲ得ス然レハ即原判決カ被告人ヨリ右金三十圓四十三錢ヲ追徴スル旨言渡シタルニ何等失當アルコトナク論旨ハ理由ナキモノトス

第六點被告人ハ最初公文書偽造行使詐欺及收賄ノ犯行アリトシテ起訴セラレタル處第一審裁判所ハ公文書偽造行使及詐欺ノ點ヲ無罪トナシ單純ナル收賄ニ因リテ被告ヲ懲役四月ニ處シ賄賂額金二十七圓五十八錢ヲ追徴スル旨判決シタリ仍テ是ニ對シ被告ハ其ノ有罪タル收賄ノ點ニ付又第一審檢事ハ公文書偽造行使詐欺ヲ無罪ト認メタル點ニ付各第一審判決ヲ不當ナリトシテ控訴ヲ提起シタルコト記録上明白ナリ(各控訴狀及原審第一回公判調書中檢事控訴趣旨陳述ノ項參照)然ルニ原院ハ此兩控訴ヲ審理シ公文書偽造行使及收賄ノ犯行アリト認メ刑法第九十七條第一項後段ヲ適用シ加重收賄罪ノ刑ニ因リ被告ヲ懲役一年ニ處シ且賄賂額金三十圓四十三錢ヲ追徴スル旨判決シタリ原判決カ右ノ如ク檢事ノ

控訴ニ基キ公文書偽造行使ノ所爲ヲ肯定シタルコトハ訴訟ノ形式手續上合理的ナリトスルモ(其ノ實質的當否ハ別ニ之ヲ論ス)元來檢事ヨリハ控訴申立ナク唯被告人ノミカ其ノ利益ノ爲控訴ヲ爲シタル收賄罪ニ付第一審裁判所ヨリモ(イ)重キ主刑ヲ言渡シ(ロ)多額ノ追徴ヲ命シタルコトハ是刑事訴訟法第四百三條ニ違反スル不法ノ裁判ニシテ當然破毀セラルヘキモノナリト信ス(附記第一審檢事ノ控訴狀ニハ控訴範圍ノ明記ナキモ第二審公判ノ劈頭ニ於テ同審檢事カ第一審檢事ノ控訴趣旨ハ公文書偽造行使詐欺ノ無罪判決ヲ失當トスルニ在ル旨釋明セル以上檢事一體ノ原則ニ因リ第一審檢事ノ控訴ハ最初ヨリ此部分ニ限ルモノト解スルカ又ハ該陳述ニ因リ新ニ制限ヲ付シタリト解ササルヘカラス)ト謂フニアレトモ

被告人ニ對スル本件控訴ノ内容ハ被告人ハ高知縣農林技手ト同縣內務部耕地課長及農林技師ノ指揮ヲ受ケ實地測量工事設計豫算組合員ノ指導等ノ職務ヲ管掌スルモノナルトコロ同課長ノ命ヲ受ケ同縣香美郡在所村梅久保耕地整理組合及同村大井平耕地整理組合ノ主任技術者トナリ右兩組合ノ工事設計豫算工事ノ指揮監督等ノ職務ヲ擔當中不正ニ過大ナル設計見積書ヲ作成センコトノ請託ヲ受ケ其ノ報酬其ノ他職務上便宜ナル取計ヲ受クルコトノ謝禮トシテ數回ニ右兩組合關係者ヨリ酒食ノ饗應ヲ受ケタル結果右設計見積書ノ金額ヲ不當ニ高價ニ計上シテ右ヲ偽造シタル上上司ニ提出行使シ右兩組合ヲシテ必要以上ノ金額ヲ詐取セシメタリト謂フニ在リテ且右公文書偽造ト收賄罪トハ想像上ノ數罪トシテ

【要旨第一】

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力ハ高知縣令ニ依ル設計見積調查書ト公文書

起訴セラレタルモノトス然ルニ第一審判決ハ右公文書偽造行使及詐欺ノ點ノ證明十分ナラストシ賄賂收受ノ事實ノミヲ認定シテ有罪ノ言渡ヲ爲シ右公文書偽造行使及詐欺ニ付テハ右收賄罪ト想像上ノ數罪トシテ起訴セラレタル關係上特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サストノ判決ヲ爲シタルカ右判決ニ對シテハ被告人及檢事ヨリ控訴ノ申立アリタル結果原審ハ公訴事實全部ニ付覆審ヲ爲スニ至リタルモノトス論旨ハ檢事カ原審公判ニ於テ第一審判決ハ公文書偽造行使及詐欺ノ事實ニ付犯罪ノ證明十分ナラスト判斷シタル失當アルヲ以テ控訴ヲ申立テタリトノ陳述ヲ爲シタルヲ捉ヘテ檢事ノ控訴ハ收賄罪ノ部分ニ及ハスト論スレトモ判決ニ對シ一部上訴ヲ爲シ得ヘキ場合ハ主タル主文カ二個以上アル場合ニ限リ一罪ニ付一ノ主タル主文ヲ掲クルニ止マル場合ハ一部上訴ヲ爲シ得サルヲ原則トスルカ故ニ本件ノ如ク第一審判決ニ於テ想像上ノ數罪トシテ起訴セラレタル一罪ニ付有罪ヲ言渡シ他ノ罪ニ付テハ證明十分ナラスト做シタル場合ニ於テ該判決ニ對シ檢事ノ爲ス控訴ハ假令其ノ不服ノ主タル理由カ右證明十分ナラスト爲シタル點ニアリトスルモ公訴事實全部ニ付移審ノ效力ヲ生スルモノトス從テ原審ハ右公訴事實ノ全部ニ付審理判決ヲ爲スヘク其ノ判決ヲ爲スニ當リテハ本件カ刑事訴訟法第四百三條ニ所謂被告人控訴ヲ爲シタル事件又ハ被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニアラサル關係上第一審判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スヲ妨ケサルモノニシテ其ノ重キヲ致シタル所以カ所論ノ如ク前收賄罪ニ付テノミ生シタル場合ナリシトスルモ毫モ不法ト做スヘカラサルナリ從テ原判決ニハ所論ノ如キ違法存スルコトナク

論旨ハ理由ナキモノトス

第七點原判決カ被告ノ作成セル所謂設計見積調査書ヲ以テ公文書ノ偽造行使ナリト判示處斷シタルハ當ニ法律解釋ヲ誤ルノミナラス著シク事實ヲ誤認セル違法アリト思料ス(一)地方官官制第五條第十二條第十八條及第二十一條ニ依レハ府縣ノ行政事務ハ知事之ヲ總攬シ其ノ配下タル官房主任部長及課長等ニ於テ各其ノ一部分ヲ分掌スルモノニシテ課長以下ノ各職員ハ課長ノ補助者トシテ其ノ手足タルニ止リ決シテ自家獨立ノ職務權限ヲ有スルコトナシ從ツテ被告蛙遊水カ高知縣內務部耕地課ニ勤務シ同課長ノ指揮命令ヲ承ケ耕地整理工事ノ設計豫算案ヲ作成シ之ヲ課長ニ提出シタリトスルモ元來該課長ノ作ルヘキ書類ヲ其ノ補助者トシテ代作セル關係ニ外ナラサルニ付之ヲ以テ被告ノ職務ニ關シ作成スル文書ナリト謂フヲ得サルヘシ(二)地方官官制第三十條及地方產業職員制ニ依レハ農林技手ノ職責ハ單ニ上官ノ指揮ヲ承ケテ技術ニ從事スルニ止ルモノトス故ニ被告ハ耕地整理工事ニ付測量ヲ爲シ又ハ施行ヲ監督スル職權ハ之ヲ有スルモ工事經費ノ豫算ヲ編成スルカ如キ所謂庶務的ノ事務ハ本來被告ノ職務權限内ニ屬セサル行爲ナリトス(同官制第二十七條參照)然ラハ本件ノ設計見積調査書ハ被告カ公務員タル職務上當然作成シ得ヘキ文書ニアラスト謂フヘシ(三)高知縣令耕地整理及土地改良ニ關スル規定ニ照シ所謂設計見積調査書ノ性質ヲ按スルニ同縣カ耕地整理組合創立委員ノ委嘱ヲ受ケ組合ノ爲作成交付スルモノニ外ナラス其ノ行爲ハ國家權力ノ公機關タル行政官廳本然ノ事務範圍ニ屬セ

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力 高知縣令ニ依ル設計見積調査書ト公文書

サルヲ以テ該調査書ハ之ヲ公文書ト謂フヲ得サルヘシ(四)所謂設計見積調査書ハ人夫賃及洗砂利採取場所ニ關シ虚偽ノ内容事項ヲ包含スト謂フニ在レトモ右ハ被告人カ耕地課長ノ命ヲ受ケ其ノ參考ニ供スル爲自己ノ意見見積ヲ記載シタルニ過キスシテ一定ノ事實ニ付虚偽ノ報告ヲ爲シタルモノニ非ス而シテ該設計見積ハ課長ノ審査並決濟ヲ經タル後初メテ課長作成ノ文書トシテ確定シ且公表セラルルモノナレハ其ノ未定且未發表ナル設計ノ草案又ハ原稿ニ設令虚偽アリトスルモ之ヲ公文書ノ内容偽造ナリト謂フハ當ラス(五)無形偽造ニ係ル公文書ノ行使ハ其ノ偽造者カ他ノ對立スル人格ニ對シ之ヲ提示スルニ因リ成立ス然ルニ本件見積書ハ事實上被告ノ作成セシモノナルモ之ヲ法律的ニ解スレハ耕地課長ノ作成スヘキ文書ヲ被告カ課長ノ手足トナリテ代作セルニ外ナラス此ノ兩者ノ間ハ決シテ對立的關係ニ非サルヲ以テ被告ヨリ課長ニ對シ見積書ヲ提出セシ行爲ヲ目シ偽造文書ノ行使ナリト謂フハ不當ナリ(六)證人永井及雨森ノ證言ニ依レハ所謂設計見積書ハ擔任技手ニ於テ其ノ草稿ヲ作り課長及上級技師ノ審査訂正ヲ經テ最後ニ課長ノ決裁ヲ受ケタル上之ヲ淨書シ其ノ淨書シタルモノヲ縣作成ノ文書トシテ耕地整理組合創立委員ニ交付シ曩ノ草稿ハ反古トシテ之ヲ破棄スト謂フニ在リ上記地方官官制其ノ他ノ法規トモ適合スル措置ニシテ畢竟高知縣ニ於テハ從來本件設計見積書ノ如キモノヲ農林技手ノ作成スル公文書トシテ取扱ヒ來ラサリシ慣例歷々看取シ得ヘキニ拘ラス原院カ輒ク之ヲ公文書ナリト解シタルハ事實誤認ノ著シキモノト思料スト謂フニ在レトモ

【要旨第二】

明治三十九年十二月二十七日高知縣令耕地整理及土地改良ニ關スル規程第七條第九條ニ依レハ耕地整理ヲ施行セントスル土地アル場合縣ハ豫メ整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的工事ノ計畫説明工事施行ノ方法及順序主要工事ノ仕様工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別會計ノ豫定工事施行ニ依リ得ヘキ利益整理施行地及之ニ隣接スル土地ノ現形圖整理豫定圖工事著手及完了ノ豫定期間工事ニ要スル費用及夫役現品ノ豫算ヲ調査確定シタル上之ヲ設計書ニ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘキモノニシテ原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人ハ高知縣農林技手トシテ同縣內務部耕地課長及農林技師ノ指揮ヲ受ケ實地測量工事設計豫算組合員ノ指導等ノ職務ニ從事シ居リ右耕地課長ノ命ヲ受ケ同縣香美郡在所村梅久保耕地整理組合及同村大井平耕地整理組合ノ主任技術者トナリ右兩組合ノ工事設計豫算工事ノ指揮監督等ノ職務ヲ擔當シ右兩組合ノ工事ノ測量設計ニ赴キ職務上本件設計見積調査書ヲ作成シタルト謂フニアレハ即右設計見積調査書ハ前示縣令ニ依リ縣カ作成シテ耕地整理申請者ニ交付スル設計書作成ノ基礎材料トシテ被告人カ作成セル調査復命書ナリト謂フヘク而シテ此ノ如ク農林技手カ工事ノ設計ヲ爲シ經費ノ豫算ヲ編成スルコトハ所論農林技手ノ職責タル技術ニ從事スル職責中ニ包含セララルコト勿論ナレハ右設計見積調査書ハ被告人カ公務員トシテ職務上作成スヘキ文書ニ外ナラスシテ即公文書タル性質ヲ帶フルコト明瞭ナリ尤モ右調査書ニ基キ作成セラルル設計書ハ前示縣令ニ依リ耕地整理申請者ニ交付セラレ右申請者ハ耕地整理法ニ依リ右ヲ具シテ地方長官ニ耕地整理施行ノ認可ヲ

想像上數罪ニ對スル判決ノ一部ニ付不服アルコトヲ理由トスル檢事控訴ノ效力 高知縣令ニ依ル設計見積調査書ト公文書

申請スルモノナリト雖右ハ耕地整理施行ノ事タル其ノ地方ニ及ホス利害重大ニシテ其ノ施行ヲ決スルニ慎重ヲ要スルニ鑑ミ其ノ施行ニ先チ縣自ラ實地ニ付其ノ可否ヲ測定スルノ必要ヲ認メタルニ因ルモノニシテ單ニ耕地整理組合ノ便益ノミノ爲ニスルモノニアラサルカ故ニ右ノ事由アルカ爲ニ右設計書カ縣ノ作成スヘキ文書タルコトヲ妨ケサルト共ニ其ノ基礎材料タル見積調査書カ被告人ノ職務上作成スヘキ文書タルノ性質ヲモ害セサルナリ又彼上ノ如ク見積調査書ハ被告人カ上司ノ命ニ依リ職務上調査シタル事項ヲ復命セル文書ナレハ之ニ依リテ後ニ作成セラルル設計書トハ獨立別箇ノ公文書ニシテ單ナル設計書ノ草稿ト同視スヘキニアラス又兩者ヲ混同シ恰モ被告人カ自ラ又ハ上司ノ補助者若ハ手足トシテ設計書ソノモノヲ作成シタルカ如ク論スルモ誤レリ要スルニ所論ハ一面ニ於テ原判文ヲ誤解シ他面法令ノ趣旨ヲ正解セサルニ基クモノト謂フヘク論旨理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事 樫田忠美 關與

○虚偽記入有價證券行使、有價證券虚偽記入教唆、詐欺未遂、恐喝
 被告事件竝附帶私訴事件 (昭和九年(九)第六二一號 同年八月二日第一刑事部判決 棄却)

【公私訴上告人】 被告人 (民事被告) 藤井治松 辯護人 (秋山高三 横田半助 菅野勘助)
 【私訴被上告人】 (民事原告) 小松原博通
 【第一審】 名古屋地方裁判所岡崎支部 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

權利ノ濫用ト恐喝罪

○判決要旨

金錢債權ニ基キ假差押ノ爲執達吏ト共ニ債務者ノ住所ニ臨ミタル債權者カ債務者ヨリ現金ニ付執行アリタキ旨ノ申出アリタルニ拘ラス故ラニ債務者ヲ苦シメ一舉ニ懸案ノ債權關係ヲ解決セント企テ債務者ニ對シ和解ニ應セサレハ疊建具ニ付執行ヲ爲スヘク且之ヲ他ニ搬出スヘキ旨告ケタル上執達吏ヲ恣憑シ疊建具ノ執行ニ著手セシメ因テ債務者ヲシテ已ムナク和解ニ應セシメタル行爲ハ權

權利ノ濫用ト恐喝罪

利ノ濫用ニシテ恐喝罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

執達吏職務細則第五十七條第二項 債權者ノ利益ヲ損傷スル恐ナキトキハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ債務者ニ於テ最モ放チ易キ財産中殊ニ金錢有價證券及金銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ヘキ物ニ付キ差押ヲ爲ス可シ

同第九十四條第一項 假差押ノ命令ノ執行民事訴訟法第七百三十七條以下ヲ爲スニ當リ執達吏ノ施行スヘキ手續ハ(民事訴訟法第七百四十九條第七百五十條ノ規定ハ例外トス)通常ノ強制執行手續ノ規定ニ從フ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク公訴ニ付事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス但第一審未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第十三號約束手形ノ虛偽記入部分ハ之ヲ沒收スル旨判決ヲ爲シ私訴ニ付私訴被告ハ私訴原告ニ對シ金五十圓及之ニ對スル昭和六年八月二十五日以降完済ニ至ル迄年五分ノ金員ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ全部私訴被告ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ被告人ハ昭和三年初頃ヨリ豊橋市ニ於テ金融業ヲ營ミ來リタルモノナルトコロ

第一 昭和四年十二月初頃原審相被告人馬場道三郎ノ依頼ニヨリ宮崎辰二振出宮崎初五郎裏書ノ金額三千圓滿期日昭和五年二月十八日ナル約束手形一通ノ割引ヲ爲スニ當リ昭和四年十二月二十五日岐阜市彌八町十五番地馬場宅も方ニ於テ道三郎ニ對シ其ノ實母ナル宅もノ裏書ヲ得ヘキコトヲ要求シ道三郎ニ於テ到底宅もノ裏書ヲ得ル能ハサル旨ヲ告クルヤ道三郎ニ對シ擅ニ右手形ニ宅もノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ同人ノ印ヲ捺捺シ以テ虛偽ノ裏書記入ヲ爲スヘキ旨ヲ教唆シ因テ道三郎ヲシテ右教唆ニ應ジ翌二十六日同所ニ於テ行使ノ目的ノ下ニ右手形裏書欄ニ馬場宅もノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ密ニ宅もノ印ヲ捺捺シ盜捺シテ同人ノ裏書虛偽記入ヲ爲サシメ(證第十三號)タル上同月二十八日道三郎ヨリ右手形ヲ受取り其ノ後昭和五年二月十日頃松浦金十郎ニ對シ取立委任ノ目的ヲ以テ之ヲ裏書交付シ同人ヲシテ滿期日ニ呈示セシメタルモ不渡トナルヤ續イテ同人名義ヲ以テ辯護士堀端房一ニ訴訟手續ヲ委任セシメ同年三月中同辯護士ヨリ名古屋地方裁判所岡崎支部ニ對シ馬場宅もノ外三名ヲ被告トシ右虛偽記入ニ係ル約束手形ニ基ク額面金三千圓ノ請求訴訟ヲ提起セシメ右手形ヲ書證トシテ同辯護士ニ交付シ更ニ同辯護士ヨリ右裁判所ニ提出セシメテ行使シ以テ裁判所ヲ欺罔シ宅もヨリ手形名義ノ下ニ該金額ヲ騙取セントシタルモ宅もニ於テ應訴シ争ヒタル爲其ノ目的ヲ遂ケス

第二 昭和三年六月大八木三之助ノ割引方申込ニ應ジ竹節勝司 小笠原博通共同振出金額千五百圓及

五百圓ノ約束手形各一通ヲ受取リタルトコロ右約束手形二通ハ孰レモ大八木三之助カ擅ニ小笠原博通名義ヲ冒用シ同人ノ氏名ヲ僞署シテ作成シタルモノナルニ因リ小笠原博通ニ於テハ極力該手形ノ成立ヲ否認シテ被告人ノ該手形ニ基ク請求ニ應セザリシ爲被告人ハ小笠原博通カ故意ニ該請求ヲ拒否スルモノト思惟シ憤懣シ居リタル折柄同人カ所有不動産ヲ擔保トシテ他ヨリ金借ヲ爲スヘキ旨ヲ聞知シ此ノ機ニ乘シテ同人ヲ窮狀ニ陥レ以テ其ノ間同人ヲシテ該手形金ノ請求ニ應諾セシメシコトヲ企圖シ昭和四年十二月二十七日豊橋區裁判所ニ對シ小笠原博通ハ近々動産ヲ隱匿セントスルノ虞アルニ因リ動産假差押決定アリ度キ旨申請シ右千五百圓ノ約束手形金ニ付動産假差押決定ヲ受ケ同時ニ休日夜間執行ノ許可ヲ得同月三十日午後七時頃豫テ差押執行ノ立會ニハ深キ經驗ヲ有スル松浦金十郎ヲ伴ヒ豊橋區裁判所執達吏代理村田榮ト共ニ急遽豊橋市旭町小笠原博通ノ住居ニ臨ミタルトコロ博通カ請求額ニ相當スル現金ヲ差出スヘキニ依リ現金ヲ差押ヘラレタキ旨申出テタルヲ以テ家具其ノ他動産類ニ對スル執行ハ之ヲ中止シ右現金ノ提供ヲ受クヘキ筋合ナルニ拘ラス右執達吏代理村田榮カ被告人ノ意ヲ迎ヘ示談解決方ヲ勸誘シ若シ之ニ應セザレハ執行ヲ續行セントスル氣勢ヲ示セルニ乘シ之ト相呼應シテ博通ノ右申出ヲ斥ケ千五百圓及五百圓ノ各手形債務ニ付和解ニ應セサル時ハ家具其ノ他ノ動産類ヲ差押ヘタル上保管替ノ手續ニ依リ即時他ニ搬出スヘキ旨ヲ告ケテ不法ニモ右執達吏代理村田榮ヲ懲惡シ疊建具類ノ差押ニ著手セシメテ博通ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ本

示シテ以テ被告人ノ行爲ハ權利實行ノ意思ニ出テタルモノナル事ヲ明示セラルルニ至レリ既ニ斯ク事實ヲ認定セラルル以上ハ假リニ其ノ權利行使ノ方法或ハ詐欺トセラレ又ハ脅迫ト認メラルルトスルモ御院ノ判例ニ從テ罪ト爲ラストノ判定ヲ受クヘカリシモノナリト思料ス併シテ被告人カ偽造ノ事實ヲ知ラサリシ事ハ被告人カ小笠原博通ニ其ノ筆跡ヲ示ス事ヲ求メタルコト五百圓ノ手形ニ關シ訴訟上筆跡鑑定ノ結果鑑定人二人マテ該手形ノ署名カ右博通ノ署名ト同一筆跡ナリトノ鑑定ヲ爲シタル事實ニ照ラシテ之ヲ疑フノ餘地ナシトス而シテ原審判決カ「故意ニ該請求ヲ拒否スルモノト思惟シ憤懣シ」判示セルハ被告人カ手形ノ成立ノ真正ヲ確信シ自己ニ手形上ノ權利ノ存スル事ヲ確信セルニ不拘小笠原博通カ理由ナク其ノ請求ヲ拒否スルモノト思惟シテ之ヲ憤リタリト明示セラレタルモノニシテ被告人ノ行爲權利實行ノ意思ニ出テタル事即チ被告人ニハ不法ニ財産上ノ利得ヲ爲ス意思ナカリシ事ヲ認メタルモノト爲ササルヲ得ス斯ク認定シナカラ尙且其ノ權利實行ノ方法違法ナリトスルノ理由ノミヲ以テ恐喝罪成立スルト爲シタルハ全ク御院多年ノ判例ニ反スルモノニシテ失當ナリト思料ス尤モ御院判例ハ何レモ眞實ニ權利ノ存在スル場合ニ懸レリ然レトモ客觀的ニ權利ノ存在スルト否トハ素ヨリ被告人ノ意思ニ關スルコロニ非ス前示御院ノ判例ニハ「權利ヲ實行スルノ意思ニ出テタルモノナルニ於テハ恐喝罪ヲ構成セス」ト明示セラレアリ然ラハ客觀的ニ權利存在セストスルモ主觀的ニ被告人ニ於テ權利ノ存在ヲ確信シ之ヲ實行スルノ意思ニ出テタル以上ハ等シク恐喝罪ヲ構成セサルモノナリ

五百圓ノ約束手形各一通ヲ受取リタルトコロ右約束手形二通ハ執レモ大八木三之助カ擅ニ小笠原博通名義ヲ冒用シ同人ノ氏名ヲ僞署シテ作成シタルモノナルニ因リ小笠原博通ニ於テハ極力該手形ノ成立ヲ否認シテ被告人ノ該手形ニ基ク請求ニ應セザリシ爲被告人ハ小笠原博通カ故意ニ該請求ヲ拒否スルモノト思惟シ憤懣シ居リタル折柄同人カ所有不動産ヲ擔保トシテ他ヨリ金借ヲ爲スヘキ旨ヲ聞知シ此ノ機ニ乘シテ同人ヲ窮狀ニ陥レ以テ其ノ間同人ヲシテ該手形金ノ請求ニ應諾セシメンコトヲ企圖シ昭和四年十二月二十七日豊橋區裁判所ニ對シ小笠原博通ハ近々動産ヲ隱匿セントスルノ虞アルニ因リ動産假差押決定アリ度キ旨申請シ右千五百圓ノ約束手形金ニ付動産假差押決定ヲ受ケ同時ニ休日夜間執行ノ許可ヲ得同月三十日午後七時頃豫テ差押執行ノ立會ニハ深キ經驗ヲ有スル松浦金十郎ヲ伴ヒ豊橋區裁判所執達吏代理村田榮ト共ニ急遽豊橋市旭町小笠原博通ノ住居ニ臨ミタルトコロ博通カ請求額ニ相當スル現金ヲ差出スヘキニ依リ現金ヲ差押ヘラレタキ旨申出テタルヲ以テ家具其ノ他動産類ニ對スル執行ハ之ヲ中止シ右現金ノ提供ヲ受クヘキ筋合ナルニ拘ラス右執達吏代理村田榮カ被告人ノ意ヲ迎ヘ示談解決方ヲ勸誘シ若シ之ニ應セザレハ執行ヲ續行セントスル氣勢ヲ示セルニ乘シ之ト相呼應シテ博通ノ右申出ヲ斥ケ千五百圓及五百圓ノ各手形債務ニ付和解ニ應セサル時ハ家具其ノ他ノ動産類ヲ差押ヘタル上保管替ノ手續ニ依リ即時他ニ搬出スヘキ旨ヲ告ケテ不法ニモ右執達吏代理村田榮ヲ懲惡シ疊建具類ノ差押ニ著手セシメテ博通ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ本

來辨濟義務ナキ右各手形金請求ヲ應諾スルノ止ムナキニ至ラシメ和解名義ノ下ニ千五百圓ノ借用證書及額面四百五十圓ノ約束手形各一通ヲ作成交付セシメ且現金五十圓ヲ交付セシメテ恐喝シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示第一ノ所爲中有價證券虛偽記入教唆ノ點ハ刑法第六十二條第二項第六十一條第一項ニ虛偽記入有價證券行使ノ點ハ同法第六十三條第一項ニ詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ該當スルトコロ右ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ虛偽記入有價證券行使罪ノ刑ニ從ヒ判示第二ノ所爲ハ同法第二百四十九條第一項ニ該當スルトコロ右第一第二ノ犯罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ第一ノ刑ノ罪ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ原審未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル證第十三號約束手形ノ虛偽記入部分ハ判示第一ノ虛偽記入有價證券行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ヲモ禁セラレタルモノニ係ルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件公私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

權利ノ濫用ト恐喝罪

○理 由

辯護人秋山高三郎 横田隼雄 菅野勘助上告趣意書第一點原審判決ニハ罪ト爲ラサル事實ヲ以テ被告人ヲ處罰シタルノ失當アリ「恐喝ノ行爲ハ權利ヲ實行スルノ意思ニ出テタルモノナルニ於テハ恐喝罪ヲ構成セス」トハ夙ニ屢々御院ノ判例(例之大正十三年刑一八〇頁)ノ判示セラレタルトコロナリ本件認定第二ノ事實ハ其ノ檢事起訴ノ當時ニ於テハ「右約束手形二通共同人ニ於テ偽造シタル旨告知シタルヲ以テ前記約束手形ハ二通共偽造手形ナル事ヲ知り乍ラ右小笠原博通ヨリ右手形金二千圓ヲ交付セシメント決意シ」トセラレタルモノナリ而シテ豫審終結決定ニ於テモ決定書第四事實ノ二トシテ「右二通ノ約束手形ハ大八木三之助カ小笠原博通名義ヲ冒用シ同人ノ氏名ヲ偽造シタルモノニシテ小笠原博通ハ曾テ振出人タル事ヲ承諾シタル事ナク從テ手形金支拂ノ責ニ任セサルヘキ事ヲ知悉シナカラ」ト認定セラレ又第一審判決ニ於テモ「右約束手形二通ハ何レモ大八木三之助ニ於テ擅ニ小笠原博通名義ヲ冒用シ同人ノ氏名ヲ偽書シタルモノニシテ小笠原博通ニハ何等振出人トシテ責任ナキ事ヲ知りタルニ不拘」ト認定セラレタルモノナリ然ルニ原審ニ於ケル精密ナル證據調ノ結果原審判決第二事實認定ノ約束手形二通ハ假リニ大八木三之助ノ偽造ニ係ルモノナリトスルモ被告人ニ於テハ其ノ割引ヲ爲シタルトキヨリ之ニ關スル假差押ヲ委任スルニ至ルマテ終始右手形ノ偽造ニ係ル事ヲ全ク知ラサリシ事實判明シ從テ原審判決ハ「被告人ハ小笠原博通カ故意ニ該請求ヲ拒否スルモノト思惟シ憤懣シ」ト判

示シテ以テ被告人ノ行爲ハ權利實行ノ意思ニ出テタルモノナル事ヲ明示セラルルニ至レリ既ニ斯ク事實ヲ認定セラルル以上ハ假リニ其ノ權利行使ノ方法或ハ詐欺トセラレ又ハ脅迫ト認メララルトスルモ御院ノ判例ニ從テ罪ト爲ラストノ判定ヲ受クヘカリシモノナリト思料ス併シテ被告人カ偽造ノ事實ヲ知ラサリシ事ハ被告人カ小笠原博通ニ其ノ筆跡ヲ示ス事ヲ求メタルコト五百圓ノ手形ニ關シ訴訟上筆跡鑑定ノ結果鑑定人二人マテ該手形ノ署名カ右博通ノ署名ト同一筆跡ナリトノ鑑定ヲ爲シタル事實ニ照ラシテ之ヲ疑フノ餘地ナシトス而シテ原審判決カ「故意ニ該請求ヲ拒否スルモノト思惟シ憤懣シト」判示セルハ被告人カ手形ノ成立ノ眞正ヲ確信シ自己ニ手形上ノ權利ノ存スル事ヲ確信セルニ不拘小笠原博通カ理由ナク其ノ請求ヲ拒否スルモノト思惟シテ之ヲ憤リタリト明示セラレタルモノニシテ被告人ノ行爲權利實行ノ意思ニ出テタル事即チ被告人ニハ不法ニ財産上ノ利得ヲ爲ス意思ナカリシ事ヲ認メタルモノト爲ササルヲ得ス斯ク認定シナカラ尙且其ノ權利實行ノ方法違法ナリトスルノ理由ノミヲ以テ恐喝罪成立スルト爲シタルハ全ク御院多年ノ判例ニ反スルモノニシテ失當ナリト思料ス尤モ御院判例ハ何レモ眞實ニ權利ノ存在スル場合ニ懸レリ然レトモ客觀的ニ權利ノ存在スルト否トハ素ヨリ被告人ノ意思ニ關スルトコロニ非ス前示御院ノ判例ニハ「權利ヲ實行スルノ意思ニ出テタルモノナルニ於テハ恐喝罪ヲ構成セス」ト明示セラレアリ然ラハ客觀的ニ權利存在セストスルモ主觀的ニ被告人ニ於テ權利ノ存在ヲ確信シ之ヲ實行スルノ意思ニ出テタル以上ハ等シク恐喝罪ヲ構成セサルモノナリ

ト思料ス原審判決ハ全ク此ノ法理ヲ誤リ御院ノ判例ニ背反シタルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノナリト思料スト謂フニアリ

【要旨】

按スルニ權利行使ノ意圖ニ出テタル行爲ト雖其ノ權利者ノ故意又ハ過失ニ因リ法律ノ認ムル範圍ヲ逸脱スル方法ヲ以テ之ヲ行ヒタル爲他人ノ權利ヲ害シタルトキハ是レ蓋シ權利ノ濫用ニシテ權利ノ行使ト謂フヲ得ス而シテ其ノ所謂法律ノ認ムル範圍ヲ逸脱スルヤ否ハ社會觀念上被害者ニ於テ忍容スヘキモノト一般ニ認メラルル程度ヲ踰越シタリヤ否ニ依リテ決スヘキモノナリトス從テ自己ノ權利ヲ實行スル目的ヲ以テ他人ニ對シ恐喝手段ヲ施用シタル場合ト雖若シ此ノ如キ方法ニ依ル實行ニシテ社會觀念上被害者ニ於テ忍容スヘキモノト一般ニ認メラルル程度ヲ踰ユルモノナルニ於テハ其ノ行爲ハ既ニ權利ノ行使タル性質ヲ失フカ故ニ之カ爲ニ敢テ恐喝罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由ナキモノトス所論ノ點ニ付原判決ノ確定セル事實ハ要スルニ被告人ハ竹節勝司 小笠原博通共同振出ノ金額千五百圓及五百圓ノ各約束手形ノ所持人ナルトコロ博通カ右手形ノ成立ヲ否認シテ被告人ノ請求ニ應セサル爲被告人ハ博通ノ態度ヲ憤懣シ偶同人カ所有不動産ヲ擔保トシテ他ヨリ金借ヲ爲スコトヲ聞知シタルヨリ其ノ機ニ乘シテ同人ヲ窮地ニ陥レ因テ同人ヲシテ輒ク被告人ノ請求ニ應セシメントヲ企圖シ仍テ先ツ豊橋區裁判所ニ對シ右千五百圓ノ手形金請求ニ付有體動產假差押ノ申請ヲ爲シテ其ノ決定ヲ受ケ同時ニ休日及夜間執行ノ許可ヲモ得タル上昭和四年十二月三十日午後七時頃豫テ差押執行ノ立會ニ深キ經驗

ヲ有スル松浦金十郎ヲ伴ヒ同區裁判所執達吏代理村田榮ト共ニ突如豊橋市旭町ナル小笠原博通ノ住居ニ臨ミタルニ博通カ請求額ニ相當スル現金ヲ差出スヘキニヨリ其ノ現金ニ付假差押ノ執行ヲ爲サレタキ旨申出テタルヨリ執達吏トシテハ斯ル場合家具等ノ差押ハ之ヲ避ケ現金ニ付執行ヲ爲スヘキモノナルニ拘ラス村田執達吏代理カ被告人ノ意ヲ迎ヘ博通ニ對シ示談解決ヲ勸誘シ之ニ應セサレハ家具等ニ對スル執行ヲ爲スヘキ氣勢ヲ示スヤ被告人ハ同人ト呼應シテ博通ニ對シ千五百圓ノ手形金ノミナラス五百圓ノ手形金ニ付テモ此ノ際和解ニ應スヘク然セサルニ於テハ家具等ノ動産ヲ差押ヘタル上保管替ノ手段ニ依リ即時他ニ搬出スヘキ旨ヲ告ケ一面村田執達吏代理ヲ懲惡シ疊建具類ノ差押ニ著手セシメ且他ニ搬出スヘキ自動車ヲ呼フ等ノ行爲ニ出テ以テ博通ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ本來辨濟ノ義務ナキ右各手形金請求ニ應諾スルノ止ムナキニ至ラシメ和解名義ノ下ニ千五百圓ノ借用證書及額面四百五十圓ノ約束手形各一通ヲ作成交付セシメタル外現金五十圓ヲ交付セシメタルモノナリト謂フニアリテ右ニ依レハ被告人ハ前記手形ニ於ケル小笠原博通ノ署名カ偽造ニ係ルノ情ヲ知ラス博通ニ對シ眞實手形金債權ヲ有スルモノト思惟シ其ノ權利ヲ實行スル意圖ノ下ニ前顯各手段ニ出テタルモノナルコト洵ニ所論ノ如クナレハ右手段カ法律ニ認メラルル正當ナル權利行使ノ範圍ニ屬スルニ於テハ當然ニ法律ノ保護ヲ受クヘク從テ恐喝手段ノ施用アルモ恐喝罪ノ成立ヲ認ムヘキニアラサルヤ疑ヲ容レス仍テ被告人ノ行爲カ法律ニ認メラルル權利行使ノ範圍ニ屬スルヤ否ヲ考フルニ被告人カ小笠原博通ニ於テ

所有不動産上ニ抵當權ヲ設定シタルコトヲ聞知シ直ニ有體動産假差押ノ申請ヲ爲シテ其ノ決定ヲ受ケ
同時ニ休日夜間ノ執行ノ許可ヲ受ケ其ノ執行ニ出テタルコトハ假令他ニ穩當ナル手段アリテ之ニ依
ルヲ適當ナリトスルモ前記手形ノ偽造ナルコトヲ知ラサル被告人トシテハ強チ咎ムヘカラサルトコロ
ニシテ右ハ一般ニ相手方ニ於テ忍容スヘキ程度ノコトニ屬スルカ故ニ右假差押ハ被告人カ權利ノ實行
ト信シテ爲シタルモノト謂フヲ妨ケス然レトモ被告人ハ本來手形ニ基ク金錢債權ヲ有スト思惟セルモ
ノナレハ債務者ヨリ金錢ニ付假差押ヲ執行スヘキ申出アルニ於テハ右金錢ニ付執行ヲ爲スヘク故ラニ
債務者ニ苦痛ヲ科スル目的ヲ以テ疊建具等ノ有體動産ニ付假差押ヲ爲スカ如キ處置ニ出ツヘカラサル
ヤ當然ナルニ拘ラス當時村田執達吏代理カ自己ノ意ヲ迎ヘントシツツアル状態ヲ利用シ同人ヲ懲憑シ
小笠原博通ヲ更ニ一層窮地ニ陥レシメ其ノ畏怖ニ乘シ一舉ニ懸案ノ債權關係ヲ解決セント企畫シ右博
通ニ對シ假差押ノ基本債權タル千五百圓ノ手形債權ノ外尙五百圓ノ手形債權ニ付テモ和解ニ應スヘク
若シ應セサルニ於テハ疊建具等ノ家具ニ付假差押ヲ爲スヘク剩ヘ保管替ノ手續ニ依リ即時自動車ニテ
他ニ搬出スヘキ旨ヲ告クルト共ニ右手段ニ出ツヘキ旨右執達吏代理ニ懲憑シタルニヨリ村田執達吏代
理ハ疊建具類ノ假差押ニ著手シ被告人ハ自動車ヲ呼フ手配ニ出テタルヨリ玆ニ博通ハ歲末年始且嚴寒
ニ際シテ疊建具其ノ他ノ家具ヲ他ニ搬出サルコトノ苦痛ニ堪ヘス遂ニ原判示ノ如ク全然支拂ノ義務
ナキ手形ニ基ク請求ニ應シ和解ヲ爲スノ止ムナキニ至リタルモノナレハ此ノ如キ所置ハ小笠原博通ノ

如キ一日現金ニ付執行方ノ申出ヲ爲シタル債務者トシテハ到底忍容甘受シ得ヘキ程度ノモノニアラサルコト一般社會觀念ニ照シ明瞭ナリト謂フヘク此ノ如キ方法ニ訴ヘテ其ノ權利ノ内容ヲ實現セントスルハ權利行使ノ正當ナル範圍ヲ逸脱シ權利ノ濫用ニ該當スルモノトス然レハ即被告人ノ行爲ヲ權利ノ實行ナリトシ恐喝罪ノ成立ヲ否定セントスル論旨ハ此ノ點ニ於テ既ニ理由ナシト謂ハサルヘカラス

第二點原審判決ニハ其ノ恐喝ノ手段タル行爲トシテ被告人ノ行爲ニ非サルモノヲ以テ被告人ノ責ニ歸シタルノ失當アリ原審認定第二ノ事實ハ「博通ハ請求額ニ相當スル現金ヲ差出スヘキニヨリ現金ヲ差押ヘラレタキ旨申出タルヲ以テ家具其ノ他ノ動産類ニ對スル執行ハ之ヲ中止シ右現金ノ提供ヲ受クヘキ筋合ナルニ不拘右執達吏代理村田榮カ被告人ノ意ヲ迎ヘ示談解決方ヲ勸誘シ若シ之ニ應セサレハ執行ヲ續行セントスル氣勢ヲ示セルニ乗シ之ト相呼應シテ博通ノ右申出ヲ斥ケ千五百圓及五百圓ノ各手形債務ニツキ和解ニ應セサルトキハ家具其ノ他ノ動産ヲ差押ヘタル上保管替ノ手續ニヨリ即時他ニ搬出スヘキ旨ヲ告ケテ不法ニモ右執達吏代理村田榮ヲ懲惡シ疊建具類ノ差押ニ著手セシメテ博通ヲ畏怖セシメ」ト判示シ之ヲ以テ恐喝ノ手段ト爲セリ從テ右ノ行爲カ何人ノ行爲ニシテ其ノ責何人ニ歸スヘキヤヲ審ニ考察スルノ必要アリト思料ス現金ノ提出アリタル場合ニ之カ提供ヲ受クルハ此ノ場合執達吏ニ外ナラス然モ本件ノ場合ハ強制執行ニ非スシテ假差押ナルヲ以テ執達吏ニ於テ之ヲ差押フル事ヲ得ルノミニシテ強制執行ノ場合ノ如ク債務ノ履行トシテ受領シ得ヘキモノニ非サルカ故ニ他ノ動産ト

等シク之ニ對シテ假差押ノ手續ヲ執リ得ルニ過キス而シテ斯ル場合ニ於テ必ス金錢ノ差押ヲ爲スヘク
他ノ動産ノ差押ヲ許サスト爲ス法律上ノ根據ナシ加之金錢ヲ差押フヘキヤ他ノ動産ヲ差押フヘキヤハ
執達吏ノ自由裁量ニ屬スル權限ニシテ原判決ノ「現金ノ提供ヲ受クヘキ筋合ナルニ拘ラス」ト云ヘル
「其ノ受クヘキ」モノハ執達吏ニ他ナラサルヘシ「其ノ受クヘキ」執達吏カ之ヲ受ケサリシハ執達吏
ノ行爲ナリ被告人ノ關スルトコロニ非ス又「被告人ノ意ヲ迎ヘ示談解決方ヲ勸誘シ」トアルモ之亦
被告人ノ行爲ニ非ス被告人ノ意ヲ迎ヘタレハトテ素ヨリ之ヲ以テ被告人ノ行爲ト爲シ得ヘキニ非ス
「執行ヲ續行セントスル氣勢ヲ示シ」トアルモ被告人ノ行爲ニ非サル事明ナリ「氣勢ヲ示セルニ乘シ
之ト相呼應シテ博通ノ右申出ヲ斥ケ」トアルモ此ノ場合同人ノ申出ヲ採用シ又ハ之ヲ拒否スルノ權限
ハ專ラ執達吏ノ權限ニ屬シ被告人ノ關スルトコロニ非ス「動産類ヲ差押ヘタル保管ノ手續ニヨリ即時
他ニ搬出スヘキ旨ヲ告ケ」トアルモ之亦執達吏ノ職權行爲ニシテ其ノ自由裁量ニ依ツテ決セラレヘキ
事柄ニ懸リ被告人ノ意思ヲ以テ左右シ得ヘキトコロニ非ス「疊建具類ノ差押ニ著手セシメ」トアルモ
同一理由ニ依ツテ之ヲ被告人ノ責ニ歸スヘキニ非ス「村田榮ヲ懲息シ」ト認定セルモ被告人ノ懲息ニ
依リ執達吏ノ職權行爲ニ變化ヲ生スヘキ理由ナシ要スルニ原審判決カ本件恐喝ノ手段タル行爲トシテ
示セルトコロノモノハ悉ク執達吏ノ職權行爲ニ他ナラス假リニ其ノ行爲越權ニ出ツルトスルモ其ノ責
ハ之ヲ執達吏ニ歸スヘク責ヲ被告人ニ轉嫁セントスレハ之等ノ行爲ニ關シ被告人ト村田榮トカ共謀ニ

出テタル事ヲ認定セサルヘカラス其ノ事ナクシテ村田榮ノ職權行爲ヲ以テ之ヲ被告人ノ行爲ノ如ク看做シ之ヲ以テ恐喝罪被告人ニ對シテ成立スト爲スハ判示自體ニ於テ甚シキ失當アルモノナリト思料スト謂フニアリ

執行ニ際シ債務者ノ申立ニ付許否ヲ決シ執行ノ目的物ヲ決シ又ハ差押ヘタル物ニ付保管方法ヲ決スルカ如キ處分ハ執達吏カ職務上爲スヘキ行爲ナル事所論ノ如シト雖本件ニ於テ原判決ノ認メタル所ハ上告論旨第一點ニ付説明シタルカ如ク被告人ハ當時假差押執行ノ任ニ當レル執達吏代理村田榮カ被告人ノ意ヲ迎ヘントシツツアルヲ看取シ之ニ乘シテ一面同執達吏代理ヲ僥倖シ眞ニ示談ニ應セサレハ疊建具等ニ付假差押ヲ爲スヘキ態度ニ出テシムルト共ニ他面執達吏代理ノ右ノ處置ニ呼應シ同執達吏代理カ更ニ進ンテ保管替ノ手續ニ出テ右疊建具等ヲ他ニ搬出スルモノノ如ク揚言シ以テ小笠原博通ニ對シ害惡ノ告知ヲ爲シタルモノナレハ被告人ノ行爲ハ不當ニ職權ノ發動ヲ促シ更ニ其ノ發動ニ乘シテ相手方ヲ畏怖セシメ因テ財物ヲ領得シタルモノト謂フヘク右執行行爲カ執達吏ノ職務行爲タルコトハ之ヲ不正ニ利用シタル被告人ノ罪責ヲ阻却スヘキ理由ト爲ラス從テ論旨ハ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ公訴ニ付テハ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ私訴ニ付テハ上告ノ理由トナルヘキ法令ノ違反ナキヲ以テ同法第六百五條ニ依リ私訴上告費用ニ付テハ同法第五百七十二條第五號民事

訴訟法第九十五條第八十九條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
検事 榎田忠美 關與

○業務上過失致死傷被告事件

(昭和九年(九)第六四二號
同年七月十二日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 田中傳吉 辯護人 岡部實顯

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

交通信號ト通行人車馬ノ進止——交叉點進行中ニ於ケル交通信號ノ
變化ト注意義務——交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ル
ヘキ注意義務

○判決要旨

一 停止線ノ表示アリ信號燈ノ設備アル道路交叉點ヲ通行スル人車
馬ハ停止線ニ於テ「止レ」ノ信號ヲ見タルトキハ同線ニ停止シ信號

交通信號ト通行人車馬ノ進止 交叉點進行中ニ於ケル交通信號ノ變化ト注意義務
交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ルヘキ注意義務

カ「注意」トナルニ及ヒテ進行ノ準備ヲ爲シ「進メ」ノ信號ニ變シタルトキ初メテ進行ヲ始ムヘキモノトス【要旨第一】

二「進メ」ノ信號ニ依リ進行ヲ始メタル人車馬ハ假令中途ニ於テ信號カ「注意」ニ變スルモ其ノ儘普通ノ速力ヲ以テ通過スヘク特ニ加重ノ注意義務ヲ課セラレサルモノトス【要旨第二】

三「進メ」ノ信號ニ依リ交叉點ニ入りタル自動車ノ運轉手カ交叉道路ヲ信號ヲ無視シテ疾走シ來ル「オートバイ」ヲ認メ之ト衝突ノ危険アルヲ覺知シタルトキハ衝突ヲ未然ニ防止スルニ適當ナル措置ニ出ツヘキ業務上ノ注意義務ヲ負フモノトス【要旨第三】

【參照】 刑法第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

自動車取締令第五十二條 運轉者ハ前條ノ規定ニ依ル最高速度ノ制限内ニ於テ道路及交通ノ狀況ニ應シ公衆ニ危害ヲ及ホスノ虞ナキ速度並ニ方法ヲ以テ運轉スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據ノ説明及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二十五日間勞務場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和七年二月十二日大阪府ヨリ甲種自動車運轉手ノ免許ヲ受ケ自動車運轉手トシテ其ノ業務ニ従事シ居タルモノナルトコロ昭和八年八月二十五日早朝客用自動車ヲ運轉シ大阪市東區上本町六丁目ニ於テ五人ノ客ヲ乗車セシメ同所ヨリ同市此花區下福島三丁目中央市場ニ向ケ折柄ノ豪雨中ヲ同日午前五時五十分頃同市東區本町二丁目附近大阪市營電車西行軌道上ヲ東ヨリ西ニ向ヒ時速約十五哩ニテ進行シ同所市電交叉點ニ差掛リタルカ自動車運轉手タル被告人ハ斯ル場合斯ル場所ヲ自動車ヲ操縦シテ通過スルニ當リテハ前方及左右ヲ注視シ若シ自己ノ運轉スル自動車ノ進路ト交叉スヘキ進路ヲ採リテ進行シ來ル人又ハ車馬ヲ認メタルトキハ其ノ動靜ヲ間斷ナク看視シ何時ニテモ停車シ得ル様最大ノ除行ヲ爲スカ若ハ一時停車シテ其ノ通過ヲ待ツ等事故ノ發生ヲ未然ニ防止スル爲周到ナル注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルニ拘ラス其ノ際同交叉點設備ノ交通信號カ進メノ信號ヲ示シ居リタルヲ見タル爲致上ノ注意義務ヲ懈リタル儘進行シ自己ノ運轉スル自動車カ同交叉點ノ市電南行軌道上迄進行シタル時交通信號カ注意ノ信號ヲ示スヲ見テ始メテ南方ヲ注視シタル處市電西行軌道ヨリ南七、八間市電北行軌道ヨリ西約一間ノ地點ヲ高見清三郎ノ操縦スルリヤカーカ南ヨリ北ニ向ヒ時速二十五哩乃至三十哩ノ速力ニテ疾走シ來ルヲ認メ自動車ノ進路ト右リヤカーノ進路トカ交叉スヘキコトヲ知りタル被告人ハ尙不注意ニモ自己ノ運轉スル自動車カ右リヤカーノ前方ヲ通過シ得ヘシト輕信シ依然除行停車等ノ處置ヲ採ルコトナク其ノ儘進行ヲ繼續シ北行軌道ヲ通過シタル後彼我ノ間隔僅カ一間位ニ迫ル

交通信號ト通行人車馬ノ進止 交叉點進行中ニ於ケル交通信號ノ變化ト注意義務
交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ルヘキ注意義務

ニ及ヒ右リヤカーヲ避讓スル爲把手ヲ右ニ切りタルモ及ハス自己ノ自動車ノ左横ト右リヤカーノ前方トヲ衝突セシメ因テ右清三郎ニ對シ頭蓋骨骨折並頭部及右側頸部ノ挫創ヲ負ハシメ同月二十七日午後零時二十五分同市東區北久太郎町一丁目五十一番地住田病院ニ於テ死亡スルニ至ラシメ尙自己ノ運轉スル自動車ノ乗客ナル三輪喜代治ニ對シ右無名指ニ同國田正雄ニ對シ左前膊及右上腿ニ各療養日數約十日間ヲ要スル傷害ヲ負ハシメタルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實中

冒頭ヨリ被告人カ客用自動車ヲ操縱シテ判示交叉點ニ差掛リタル點迄ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ

被告人カ判示ノ如キ注意義務ヲ懈リタル儘進行シ被告人ノ運轉スル自動車カ右交叉點ノ市電南行軌道ニ差掛リタル際被告人ハ同交叉點設備ノ交通信號カ進メヨリ注意ニ變スルヲ見テ始メテ南方ヲ注視シタル處市電西行軌道ヨリ南方七、八間市電北行軌道ヨリ西約一間ノ地點ヲ高見清三郎ノ操縱スルリヤカーカ判示地點ヲ南ヨリ北ニ向ヒ判示ノ如キ速力ニテ疾走シ來リ兩者ノ進路交叉スヘキコトヲ認メタルモ尙リヤカーノ前方ヲ通過シ得ヘシト輕信シ從前ノ速力ヲ以テ其ノ儘直進シ北行軌道ヲ通過シタル後彼我ノ間隔僅カ一間位ニ切迫スルニ及ヒテ初メテ之ヲ避讓スル爲把手ヲ右ニ切りタルモ及ハス兩者判示ノ如ク衝突シテ右清三郎及自己ノ乗客三輪喜代治並同國田正雄ニ對シ傷害ヲ負ハシメ清三郎ヲシ

テ遂ニ死亡スルニ至ラシメタル事實ハ

一、被告人ニ對スル檢事ノ聽取書中本町二丁目ハ夜中ニテモ機械ニ依リ自動的ニ交通信號カ現レテ居リ自分カ交叉點ノ南行軌道ニ差掛リタル時迄ハ信號ハ進メノ青ナリシ處南行軌道ニ差掛リタル時青カ注意信號ニ變リタル故自分ハソレ迄ハ南北方面ヲ見居ラサリシカ初メテ南ノ方ヲ見タルニ北行軌道ヨリ一間位西寄リノ所ヲ二十五哩カ三十哩位ト思ハレル速力ニテリヤカーカ眞直ク南ヨリ北ニ進ミ來リ而モリヤカーニ乗レル人ハ頭巾ヲ深ク冠リ居リ少シモ自分ノ方ヲ見ス其ノ儘リヤカーカ進メハ自分カ最初リヤカーヲ發見シタル位置ヨリ四、五間西方ヲ通過スルコトニナリ居リタルカ自分ハ自分ノ方カリヤカーヨリ先ニ通過出來ルモノト思ヒ從前ノ速力ニテ其ノ儘進行シタル處交叉點ヲ通り越サウトシタル時リヤカーハ既ニ一間位ノ目前ニ迫リ衝突ノ外ナカリシ故逃レル爲把手ヲ右ニ切りタルモ自動車ノ向カ變ツタカ變ラヌ位ノ時リヤカーハ自動車ノ左横ニ來リテ衝突シタリ早朝ニテ交通ノ閑ナリシ時ナリシ爲油斷シ土砂降りニテ暗クナリ一層注意ヲ必要トスルニモ拘ラス南北行軌道ニ差掛ル迄左右ヲ注意セサリシコト竝ニ法外ナル速力ニテ進行シ來ルリヤカーヲ認メナカラ一間位ノ間隔ニ近ツク迄此方ハ速力モ出サス先ニ通過出來ルモノト信シテ油斷シテ運轉シ居リタルコトハ自分ノ注意ノ足ラサリシモノナリ尙自分ハリヤカーヨリ先ニ通過シ得ルモノニシテモ餘リ餘裕ナクスレレ位ニ通レルカ通レナイ位ノ様ニ思ヒタル旨ノ供述記載

交通信號ト行人車馬ノ進止 交叉點進行中ニ於ケル交通信號ノ變化ト注意義務 交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ルヘキ注意義務

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル自分カ初メテ判示清三郎ノリヤカーヲ認メタルトキリヤカーハ西行軌道ヨリ南七、八間ノ所ヲ進行シ居リタル旨及右衝突ノ爲判示清三郎同喜代治及同正雄ニ對シ傷害ヲ負ハシメ清三郎ハ遂ニ死亡スルニ至リタル旨ノ供述ヲ綜合シテ之ヲ認メ得ヘシ

此ノ如ク自動車運轉手ナルモノカ客用自動車ヲ操縦シテ交叉點ノ如キ交通ノ頻繁ナル場所ヲ通過スルニ當リテハ運轉手タルモノハ一般人命ヲ尊重シ交通ノ危險ヲ避クル爲周到ナル注意ヲ用フヘキ業務上ノ義務アルコト當然ノ事理ニ屬スルモノナル處被告人カ自動車ヲ運轉シテ前記交叉點南行軌道上ニ差掛ルニ及ヒテ始メテ南方ヲ注視シ高見清三郎ノ操縦スルリヤカーノ北行シ來ルヲ認メナカラ尙不注意ニモ之ヨリ先ニ通過シ得ヘシト輕信シ依然從前ノ速力ヲ以テ直進シタルコトハ自動車運轉手トシテ必要ナル敍上注意義務ヲ懈怠シタルモノト認ムヘキヲ以テ此ノ點ニ付被告人ニ判示業務上過失ノ責アルモノト謂ハサルヘカラス

而シテ右清三郎ノ傷害ノ部位種類及同人カ右傷害ノ結果判示日時場所ニ於テ死亡スルニ至リタル事實ハ昭和八年八月二十七日附醫師瀨尾貫二作成ノ高見清三郎ニ對スル死亡診斷書中判示ニ照應スル記載アルニ據リ之ヲ認メ

又判示喜代治及同正雄ノ各傷害ノ部位程度カ判示ノ如クナルコトハ同人等ニ對スル昭和八年八月二十

五日附醫師瀨尾貫二作成ノ各診斷書中夫々其ノ旨ノ記載アルニ依リ之ヲ認ム
仍テ判示犯罪事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ高見清三郎ニ對スル業務上過失傷害致死ノ所爲竝三輪喜代治及國田正雄ニ對スル各業務上過失傷害ノ所爲ハ孰レモ刑法第二百一十一條ニ該當スル處右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルニ依リ同法第五十四條第一項前段同第十條ニ依リ最モ重キ高見清三郎ニ對スル業務上過失傷害致死罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ被告人ヲ二十五日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人岡部實顯上告趣意書原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存在ス即チ左ニ之ヲ列記セム(一)事故發生現場ハ南北交叉道路ノ西端ヲ走ル線ヨリ更ニ十尺(29)尺(19)尺(10)尺)西方ナルコト換言セハ本件事故ハ上告人ノ自動車カ南北交叉道路ヲ既ニ完全ニ通過シ更ニ前方十尺ノ地點ニ達シタル利那清三郎ノリヤカー附オートバイク疾走シ來リ上告人ノ自動車ニ追突

交通信號ト通行人車馬ノ進止 交又點進行中ニ於ケル交通信號ノ變化ト注意義務
交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ルヘキ注意義務

シタルモノナルコト(一件記録中實地檢證ノ圖面參照)從テ上告人ハ本件事故ニ付其ノ過失ニ基クモノナリトシテ責任ヲ負フヘキ理由ナシ(二)接觸ノ場所ハ自動車ノ左側中央ノ車體ニシテ然モ清三郎ハ自ラノ頭ヲ以テ之ニ追突シ來レルモノナルコト記録上明瞭ナルヲ以テ上告人ハ清三郎ニ衝突シテ傷害ヲ負ハシメタリトセル原審認定ハ誤ナリ又假令上告人カ檢事又ハ公判廷ニ於テシカク供述シタレハトテ之カ爲事實ニ消長ヲ生スルモノニ非ス(三)本件事故發生地點タル本町二丁目ノ交叉道路ハ大阪市內屈指ノ交通量ヲ有スル處ナルヲ以テ東西南北ノ四方路面ニ各停止線ノ表示ヲ存シ且四辻ノ各角ノ上方約十尺許リノ處ニ夫レ夫レ青、橙、赤ノ三個宛ノ信號燈ヲ有スル標柱四本在リテ晝夜間斷ナク一定時毎ニ自動的ニ明滅スル設備ヲ有ス夫レ故ニ斯ル場所ヲ通過セムトスル諸車馬ハ必ス先ツ(一)當該交通信號ニ注意シ(二)之ニ關スル法規ヲ嚴守シテ之ニ違反セサルコトヲ要ス然ルニ若シ之ト反對ニ此ノ信號ヲ無視シ此ノ法規ニ背キ原審判示ノ如ク(一)極度ノ除行ヲ爲シ又ハ(二)何時ニテモ交叉地點ニ於テ停車ノ措置ヲ採ラハ忽チ交通上ノ秩序ハ破壞セラレ進ムヘキモノハ停止シ停止ヲ要スルモノカ進マハ其ノ結果ハ二三重ノ衝擊、追突、又ハ混亂ヲ惹起シ名狀スヘカラサルニ至ラム夫レアルカ故ニ本件ニ於テ上告人ノ採リタル措置ハ正當ニシテ決シテ注意義務ノ違反ニ非ス(四)上告人ノ車首カ南行軌道上ニ接觸シタル時清三郎ノリヤカー附オートバイヲ認メ而シテ清三郎ノ時速ハ上告人ノ時速ノ約二倍ナルヲ以テ衝突地點ヲ中心ニシテ觀察スレハ上告人カ交叉點上ニ在ル南行軌道上ニ接觸

シタル瞬間ノ清三郎ノ所在位置ハ南北線南側停止線ヨリ餘程南方ニ在リ(上告人ノ視察ヨリモ數理的測定カ正確)從テ上告人ノ自動車首カ當ニ南行軌道ヲ通過セントスル利那東西線ノ交通信號ハ進メノ青ヨリ注意ノ橙色ニ變リタルコトハ疑ナキ事實ナルヲ以テ清三郎ノ進路ナル南北線道路ノ其ノ同一瞬間ニ於ケル交通信號ハ止レノ赤ヨリ注意ノ橙ニ變レルコト勿論ナリ而シテ法規(內務省令大阪府令)ノ命スル處ニ據レハ(甲)(一)青ナリシ爲進行ヲ續ケ來リ停止線通過後注意ノ橙ニ變リタル場合ニハ之ヲ其ノ儘通過スヘク(二)之ト反對ニ停止線ニ達セサル先ニ赤ナリシ爲停止線迄進ミテ停止シタル一切ノ車馬其ノ他ノ交通機關ハ其ノ種類ノ何タルヲ問ハス一旦必ス停止線ニ於テ停止スルコトヲ要シ赤ヨリ注意ノ橙ニ變リタル時ト雖斷シテ進行ヲ始ムヘカラス數分時間ノ後更ニ青ニ變リテ後初メテ前進スヘキコトヲ定ム然ルニ本件上告人ノ場合ハ(一)ニ屬シ(二)ニ屬セス故ニ上告人ニ於テ注意義務違反ノ事實ナシ又(乙)優先規定ニ從ヘハ一切ノ交通機關(專屬道路ヲ有シ其ノ上ヲ走ルモノハ別)ハ凡ヘテ交叉路面通行ノ際左手ニ他ノ通行物ヲ認メタル者ハ之ニ優先シテ通行スヘク否ラサルモノハ前者ヲ先行セシムヘキ義務ヲ負擔ス本件ニ於テ清三郎ヲ左手ニ目撃シタル者ハ上告人ナルヲ以テ此ノ點ニ關シ優先通行權ヲ有シタルモノト解ス從テ(五)上告人ハ清三郎ノ死ニ對シ毫モ責任ナク同様乘客二名ニ對スル關係ニ於テモ前掲内容ノ事故ノ必然的結果トシテ負傷シタルモノナレハ之亦上告人ノ關知セサル處トス以上ノ理由ナルヲ以テ原審判決ハ不當ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリ之ヲ以テ

交通信號ト通行人車馬ノ進止 交叉點進行中ニ於ケル交通信號ノ變化ト注意義務
交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ルヘキ注意義務

上告ノ理由ト爲スト謂フニ在レトモ

原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ甲種自動車運轉手ノ免許ヲ受ケ其ノ業務ニ從事中昭和八年八月二十五日早朝乗客五人ヲ乗車セシメタル自動車ヲ運轉シテ大阪市東區上本町ヨリ同市此花區下福島ニ向ヒ折柄ノ豪雨ヲ衝キ同市東五本町二丁目地先市營電車西行軌道道上下東ヨリ西ニ時速約十五哩ニテ進行シ同日午前五時五十分頃同所市電交叉點ニ差蒐リタルトコロ其ノ際同交叉點設備ノ交通信號カ「進メ」ヲ表示シ居タルヨリ其ノ儘進行ヲ續ケタルニ自動車カ交叉點南行軌道上マテ來リタル頃交通信號ハ「注意」ニ變リタル故其ノ時南方ヲ注視シタルトコロ西行軌道ノ南七、八間北行軌道ノ西約一間ノ地點ヲ高見清三郎操縦ノリヤカー付オートバイカ南ヨリ北ニ向ヒ時速二十五哩乃至三十哩ノ速力ヲ以テ疾走シ來ルヲ認メタルヨリ自己ノ進路ト右オートバイノ進路トカ交叉スヘキヲ知リタルカ被告人ハ自己ノ自動車カクオートバイノ前方ヲ通過シ得ヘシト輕信シ徐行停車等ノ措置ヲ採ルコトナク其ノ儘進行ヲ繼續シタルトコロ北行軌道ヲ通過シ了ルニ及ンテハ彼我ノ間隔僅々一間位ト爲リ衝突ノ危險迫ルト見タルヨリ茲ニオートバイヲ避讓スル爲把手ヲ右ニ切りタルモ及ハス自己自動車ノ左横トオートバイト衝突セシメ因テ清三郎ノ頭部及頸部ニ挫創骨折ヲ負ハシメ遂ニ死亡スルニ至ラシメ尙自己ノ乗客三輪喜代治 國田正雄ニ夫々療養日數約十日間ヲ要スル傷害ヲ負ハシメタリト謂フニ在リテ右ノ事實ハ原判決舉示ノ各證據ヲ綜合シ優ニ之ヲ認定スルニ足り記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事

【要旨第一】

實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由存スルコトナシ從テオートバイカ自動車ノ左側ニ衝突シタルコトハ明ナレトモ所論自動車カ衝突ノ危險ナキ地點マテ避讓シタルニ拘ラスオートバイカ之ニ追突シタルモノナリトノ事實ハ原判決ノ認定ニ添ハサルモノト謂フヘク右ニ基キ被告人ニ過失ナシトスル論旨ハ採用スルヲ得ス仍テ進ンテ原判決認定ノ右事實ヲ基礎トシ被告人ニ過失ヲ認メ得ヘキヤ否ヤニ付按スルニ凡ソ道路交叉點ニ於テ夫々停止線ヲ表示アリ定時自動的ニ明滅スル信號燈ノ設備アル場合該地點ヲ通行スル人車馬ハ停止線ニ於テ信號燈ノ「止レ」ノ信號ヲ示スヲ見タル時ハ同線ニ佇立シテ「進メ」ノ信號ヲ待ツヘク次テ「止レ」ノ信號カ「注意」ニ變スルニ及ンテ進行ノ準備ヲ爲シ更ニ「進メ」ノ信號ニ變シタル場合進行ヲ始ムヘキモノト謂フヘク而シテ一旦「進メ」ノ信號ニ依リ停止線ヲ越ヘテ進行ヲ始メタル人車馬ハ之ト交叉スル道路ヲ通行スル者カ「止レ」ノ信號ニ依リ阻止セララルコトヲ期待シ得ヘキカ故ニ其ノ儘普通ノ速力ヲ以テ進行シ得ヘキハ當然ニシテ敢テ此ノ場合何時ニテモ停車シ得ル様最大ノ徐行ヲ爲スカ如キ注意ヲ拂フノ義務ヲ要求セララルコトナク而モ此注意ノ程度ハ進行ノ中途ニ於テ信號カ「注意」ニ變リタリトスルモ渝ルコトナキモノトス蓋シ信號カ「注意」ニ變スルモ交叉セル道路上ノ人車馬ハ依然停止線ニ在リテ進行ヲ始ムルコトナケレハナリ從テ被告人カ「進メ」ノ信號ニ乘シテ其ノ儘交叉點ニ入り其ノ中途信號カ「注意」ニ變シタルニ拘ラス依然其ノ進行ヲ持續シタルハ正當ニシテ斯ル場合一般ノ場合ト異リ特ニ加重ノ注意義務ヲ課セララルコトナシ然

【要旨第二】

交通信號ト通行人車馬ノ進止 交叉點進行中ニ於ケル交通信號ノ變化ト注意義務
交通信號ヲ無視シテ進出セル人車馬ニ對シ探ルヘキ注意義務

【要旨第三】

レトモ凡ソ自動車運轉手ハ如何ナル場合ニ於テモ他トノ衝突ヲ避クルニ付其ノ爲シ得ヘキ最善ノ措置ヲ講スヘキ業務上ノ義務アルモノナレハ交叉セル道路ヲ通行スル者カ「止レ」又ハ「注意」ノ信號ニ拘ラス敢テ停止線ヲ突破シ其ノ狀況ヨリ判斷シテ衝突ノ危険アルコトヲ認識シタル場合ニ於テハ須ク之トノ衝突ヲ未然ニ防止スヘキ措置ニ出ツヘキ業務上ノ義務アルモノト謂ハサルヘカラス之ヲ本件ニ付テ見ルニ被告人カ始メテオートバイノ進行シ來ルヲ認メタルハ被告人ノ市電南行軌道上ニ進ミタル際ニシテ當時オートバイハ「止レ」及「注意」ノ信號ニ拘ラス之ヲ冒シテ停止線ヲ通過シ二十五哩乃至三十哩ノ速力ヲ以テ疾走シ來リタルモノニシテ尙原判決ノ證據説明ヲ參酌スレハ當時オートバイ操縦者ハ頭巾ヲ深ク冠リ居リ毫モ被告人ノ方ヲ見ルコトナク進行シ居タルヲ認メタル事實アルカ故ニ被告人ハ右ノ瞬間ニ於テオートバイカ被告人ノ自動車ニ氣付カス進行シ居リ衝突ノ危険アルコトヲ感知スルコトヲ得ヘキ地位ニ在リシコト明ナルニ拘ラス被告人ハ漫然自己ノ自動車カオートバイノ前方ヲ通過シ得ヘシト輕信シ何等徐行停車等ノ措置ニ出ツルコトナク其ノ儘進行ヲ持續シテ北行軌道ヲ通過シタル後彼我ノ間隔僅ニ一間位ニ迫ルニ及ヒ把手ヲ右ニ切ツテ衝突防止ノ策ヲ講シタルモ時既ニ遅クシテ力及ハス遂ニ兩車ノ衝突ヲ來タシ因テ死傷ヲ醸シタルモノニシテ右衝突ニ至リタルハ固ヨリオートバイ操縦者ニ於テ注意ヲ缺キタルコト其ノ多キニ居ルト雖被告人カ其ノ注意義務ヲ怠リタルコトモ亦其ノ一因タルカ故ニオートバイ操縦者ノ過失ノ故ヲ以テ被告人ノ過失ヲ抹消シ得ヘキニアラサルナ

リ原判決カ交叉點ニ於ケル自動車運轉手ノ注意義務トシテ説明セルトコロハ其ノ措辭稍盡ササルトコロナキニアラサルモ仔細ニ考察スレハ結局敍上ノ趣旨ニ解スヘキモノトス然レハ即原判決カ高見清三郎三輪喜代治國田正雄ノ死傷ヲ以テ被告人ノ業務上ノ義務違反ニ原因スルモノト爲シ被告人ヲ刑法第二百一十一條ニ問擬シタルハ正當ニシテ原判決ニハ被告人ノ注意義務ヲ誤認シタル失當ナク論旨孰レモ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○脅迫被告事件 (昭和九年(レ)第六八四號)

同年七月十九日第一刑事部判決

棄却

【上告人】 被告人 伊藤忠次郎 辯護人 鬼丸義齋

【第一審】 名古屋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

債務辨濟ノ要求ト脅迫罪

○判示事項

債務辨濟ノ要求ト脅迫罪

○判決要旨

配下多數ノ者カ身體ニ危害ヲ加フルコトアルヘキ旨ヲ告知シテ債務ノ辨濟ヲ要求スルカ如キハ一般取引上ノ慣例ノ認容スルトコロニアラスシテ脅迫罪ヲ構成スルモノトス

【參照】刑法第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ

以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五月ニ處ス第二審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ(一)大正三年十一月三日名古屋區裁判所ニ於テ傷害罪ニ依リ懲役三月ニ(二)大正五年四月二十六日同區裁判所ニ於テ横領罪ニ依リ懲役一月ニ(三)大正五年九月二十九日同區裁判所ニ於テ賭博罪ニ依リ罰金四十圓ニ(四)大正七年八月二日名古屋地方裁判所ニ於テ傷害罪ニ依リ懲役三月ニ

(五)大正十一年六月二十九日同地方裁判所ニ於テ横領罪ニ依リ懲役三月ニ(六)大正十四年九月十四日名古屋區裁判所ニ於テ賭博罪ニ依リ罰金百圓ニ(七)昭和五年十月二十五日大審院ニ於テ傷害致死傷害罪ニヨリ懲役二年ニ各處セラレ其ノ當時右各刑ノ執行(罰金刑ニ付テハ完納ス)ヲ受ケ終リタルモノナルトコロ犯意ヲ繼續シテ

第一、昭和八年十月二十日頃名古屋市中區長良町牧田喜作ヨリ同市東區武平町四丁目脇田株式会社ニ對スル金五百七十圓ノ債權ノ取立方ヲ依頼セラレ其ノ頃右脇田株式会社ニ到リ同家二階應接間ニ於テ同店員淺井清一郎ト右債權ノ支拂方ニ付交渉シタル際同人ニ對シ「餘リ冷淡ナ態度ヲセラレルト自分ニモ未タ手下ノ若キモノカ多數アル故身體ニ傷カ付ク様ナ事カアルト困ルカラ話ヲ付ケテ拂ツタラドウカ」ト申向ケ

第二、同年十月三十一日頃同市南區八熊町太田芳郎ヨリ前示脇田株式会社ニ對スル金三百十六圓餘ノ債權ノ取立方ヲ依頼セラレ其ノ頃右脇田商店ニ至リ同家二階應接間ニ於テ前記淺井清一郎ニ右債權ノ支拂方ヲ交渉シ其ノ支拂ヲ拒絕セラレルヤ同人ニ對シ「貴方カ誠意カ無イ場合ニハ若イ者カ澤山居ル故身體位ハ何時テモ貰フカラヨク考慮セラレタシ」ト申向ケ
以テ同人ノ身體ニ害ヲ加フヘキコトヲ表示シテ脅迫シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百二十二條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑

中懲役刑ヲ選擇シ判示(七)ノ前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ則リ右刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五月ニ處ス可ク當審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ハ同法第二十一條ニ依リ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鬼丸義齋上告趣意書第一點原審判決ノ證據理由ヲ見ルニ其ノ第一ノ部分ハ別トシテ二、三ノ二點ニ付テハ單ニ被告人及淺井清一郎ニ對スル檢事ノ聽取書中ニ判示第一及第二ト同趣旨ノ供述記載又ハ其ノ事實ニ照合スル被害顧末ノ供述記載トアルノミニシテ如何ナル時場所如何ナル檢事ノ作製シタル書類ヲ指スモノナリヤヲ示サス又如何ナル内容及如何ナル供述記載ノ點ヲ明記セサル爲結局判決理由ノ記載ナキモ同様ナリ故ニ刑事訴訟法第四百十條第十九號ニ依リ上告理由アルモノトスト謂フニアレトモ

記録ヲ查スルニ被告人ニ對スル檢事ノ聽取書トシテハ昭和九年一月十六日附名古屋區裁判所檢事又平俊一郎ノ被告人ニ對スル聽取書存スルノミニシテ又淺井清一郎ニ對スル檢事ノ聽取書トシテハ同月十二日同檢事ノ淺井清一郎ニ對スル聽取書存スルノミナレハ原判決カ證據ニ引用シタル被告人及淺井清

一郎ニ對スル檢事ノ聽取書トハ右各聽取書ヲ指スモノナルコト自ラ明ナリ而シテ右ノ如キ書類ヲ證據トシテ引用スルニハ判文上其ノ何レノ書類ナルヤヲ知ルニ足ル程度ニ説明スルヲ以テ足り必シモ其ノ作成ノ時場所及作成者ヲ明ニセサルヘカラサルモノニアラサルカ故ニ斯ル説明ヲ爲ササレハト判決理由ノ記載ニ缺クル所アリト做スヲ得ス又原判決ハ其ノ證據ヲ説明スルニ當リ被告人ニ對スル檢事聽取書中ニ判示第一及第二ト同趣旨ノ供述記載アリトシ淺井清一郎ニ對スル檢事聽取書中ニ判示第一及第二事實ニ照應スル被害顧末ノ供述記載アリトシ夫々右ヲ斷罪ノ資料ト爲シタル旨ヲ示セルモノニシテ右各證據ノ内容ハ其ノ前判文ニ記載セル事實ト同趣旨又ハ之ニ照應スト謂フニアレハ右内容ハ該記載ニ照シテ其ノ如何ナルモノナリヤヲ明ニ推知シ得ヘク從テ右聽取書中ノ如何ナル部分カ斷罪ノ資料ニ供セラレタリヤ判文上明白ナレハ此ノ點ニ於テモ原判決ニハ理由ヲ示ササル失當アルコトナシ論旨理由ナキモノトス

第二點被告人ハ判示第一第二共ニ他人ノ委任ヲ受ケ被害者ニ對スル債權者ノ代理トシテ其ノ取立ノ爲交渉ニ行キ權利ヲ主張シ其ノ義務ノ履行ヲ請求シタルモノニシテ即チ權利ノ主張ニ係ルモノナリ而モ被害者ハ容易ニ其ノ債務ヲ履行セサリシ爲多少強キ言葉ヲ用ヒルニアラサレハ到底其ノ履行ヲ爲ス見込ミナク止ムナク權利ノ實收ヲ得ンカ爲ナサレタルモノニシテ一般取引上ノ慣例ト同視スヘキモノニシテ之ヲ以テ脅迫罪ト認メタル原審判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリト疑ハル顯著ナル事由アルモノト

思料セラルル況ンヤ當時被告人ノ用ヒタリトスル言語ハ未タ以テ相手方ヲ畏怖セシムルニ足ル程度ノモノニアラサル事ヲ脅迫ナリト誤認シタル顯著ナル疑アルニ於テオヤト謂フニアレトモ

【要旨】

原判決ノ認ムルトコロニ依レハ被告人ハ牧田喜作及太田芳郎ヨリ夫々同人等ノ脇田株式会社ニ對スル各債權ノ取立方ヲ依頼セサレ昭和八年十月二十日及同月三十一日ノ兩度同店ニ立越シ同店員淺井清一郎ニ對シ其ノ支拂方ヲ交渉シタルカ其ノ際同人ニ對シ「餘リ冷淡ナ態度ヲセラレルト自分ニモ未タ手下ノ若キモノカ多數アル故身體ニ傷カ付ク様ナ事カアルト困ルカラ話ヲ付ケテ拂ツタラトウカ」又ハ「貴方カ誠意カナイ場合ニハ若イ者カ澤山居ル故身體位ハ何時テモ貫フカラヨク考慮セラレタシ」ト申向ケタリト謂フニアリ此ノ如ク配下多數ノ者カ相手方ノ身體ニ危害ヲ加フルコトアルヘキ旨ヲ告知シテ債務ノ辨濟ヲ要求スルカ如キハ假令夫レカ容易ニ債務ヲ履行セサル債務者ニ對シテ爲サレタリトスルモ之ヲ以テ一般取引上ノ慣例ノ認容スルトコロナリト謂フヘカラスシテ脅迫罪ヲ構成スルコト明ナリトス從テ原判決カ右ノ事實ニ基キ被告人ヲ刑法第二百二十二條第一項ノ脅迫罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美關與

○横領被告事件(昭和九年(レ)第六九四號 棄却)

(同年七月十九日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 岩澤計一郎 辯護人 〔太田金次郎 稻本錠之助〕

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

自動車ノ月賦買取契約ト横領罪

○判決要旨

自動車ノ月賦金完済ニ至ル迄ハ其ノ所有權ヲ賣主ニ留保シ其ノ間買主ニ於テ之ヲ占有使用スル特約ニ依ル自動車ノ月賦買取契約ニ於テ買主力月賦金ヲ完済セサルニ先子之ヲ他ニ賣渡擔保ト爲シタ

自動車ノ月賦買取契約ト横領罪

ルトキハ横領罪ヲ構成ス

【参照】 刑法第二百五十二條第一項 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

- 第一、昭和五年二月四日頃東京市日本橋區通二丁目二番地自動車販賣業エンバイヤ自動車商會主柳田諒三トノ間ニ自動車ノ月賦代金完済ニ至ル迄ハ其ノ所有權ヲ賣主タル右柳田諒三ニ留保シ買主タル被告人ニ於テ賃借シテ之ヲ占有使用スル特約ヲ結ヒ所謂月賦買取ノ方法ニ依リ同人ヨリ自動車一臺(一九二九年フォードA型四扉セダン)ヲ代金及月賦手數料合計二千三百五十六圓六十八錢ニテ引取り未タ右月賦金ヲ完済セシテ賃借中同年五月二十六日頃擅ニ之ヲ同市京橋區數寄屋橋際細川清方ニ於テ同人ニ金千百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ横領シ
- 第二、同年二月十四日頃八王子市旭町十七番地株式會社一三六商行ヨリ前示同様ノ特約ヲ爲シタル上自動車一臺(一九二九年フォードA型タクシィキャブ)ヲ月賦ニヨリ代金及月賦手數料合計二千九

百五十三圓三十二錢ニテ引取り未タ右月賦金ヲ完済セシテ之ヲ賃借中同年五月下旬頃擅ニ之ヲ前記細川清方ニ於テ同人ニ金千五百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ横領シ

第三、同年三月十三日頃ヨリ同年六月二十六日頃迄ノ間ニ東京市品川區大井海岸町二千四百九十八番地合資會社大東自動車商會ヨリ前示同様ノ特約ヲ爲シタル上自動車三臺(各一九三〇年型フォード三窓セダン)ヲ月賦ニヨリ代金合計七千六百十二圓九十八錢ニテ引取り來リ未タ右月賦金ヲ完済セシテ之ヲ賃借中同年五月十五日頃ヨリ同年七月十日頃迄ノ間ニ擅ニ之ヲ前記細川清方ニ於テ同人ニ合計金四千百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ各横領シ

第四、同年五月二十六日頃同市麴町區内幸町一丁目六番地日本商會稻岡七右衛門ヨリ前示同様ノ特約ヲ爲シタル上自動車二臺(一九三〇年フォード、スタンダード、セダン型一臺及一九二九年フォードタクシィ、キャブ型一臺)ヲ月賦ニヨリ代金合計五千四百二十圓ニテ引取り未タ右月賦金ヲ完納セシテ之ヲ賃借中同年七月十一日頃擅ニ内一臺(一九三〇年フォード、スタンダード、セダン型)ヲ同市京橋區銀座四丁目三番地當時ノ被告人居宅ニ於テ竹村鈴次ニ金千三百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ同年六月三十日頃擅ニ殘一臺(一九二九年フォード、タクシィ、キャブ型)ヲ前示細川清方ニ於テ同人ニ金九百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ各横領シ

第五、同年七月八日頃同市麴町區有樂町二丁目七番地ノ三中央自動車株式會社トノ間ニ自動車ノ月賦

代金完済ニ至ル迄ハ其ノ所有權ヲ賣主タル右會社ニ留保シ被告人ニ於テ之ヲ無償ニテ借用スル特約ヲ結ヒ前示同様所謂月賦買取ノ方法ニヨリ右會社ヨリ自動車一臺(一九二九年新フォード三窓四扉セダン型)ヲ代金二千三百七圓四十六錢ニテ引取り未タ右月賦金ヲ完済セスシテ之ヲ借用中昭和六年四月頃擅ニ之ヲ同市赤坂區山下東京市電停留場附近城田商會ニ於テ同商會ニ金五百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ横領シ

第六、昭和六年四月二十七日頃同市神田區南乗物町十四番地大洋自動車株式會社ヨリ前記第一同様ノ特約ヲ爲シタル上自動車一臺(一九三一年シボレー、スタンダード、セダン型)ヲ月賦ニヨリ代金二千八百五十五圓六錢ニテ引取り未タ右月賦金ヲ完済セスシテ之ヲ賃借中同年五月中旬頃擅ニ之ヲ前記城田商會ニ於テ同商會ニ金千二百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ横領シ

第七、同年四月頃千葉縣寒川町合資會社千葉モータース商會ヨリ前記第一同様ノ特約ヲ爲シタル上自動車二臺(フォード、セダン二窓型一臺及フォード、セダン四窓型一臺)ヲ月賦ニヨリ代金合計四千七百圓ニテ引取り未タ右月賦金ヲ完済セスシテ之ヲ賃借中同年五月初旬頃擅ニ内一臺(フォードセダン四窓型)ヲ前記城田商會ニ於テ同商會ニ金八百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ同年六月初旬頃擅ニ殘一臺(フォード、セダン二窓型)ヲ東京市淺草區駒形橋際權太重作方ニ於テ同人ニ金八百圓ニテ賣渡擔保トシテ提供シ以テ各之ヲ横領シ

タルモノニシテ敍上被告人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十二條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百四十二條ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人太田金次郎上告趣意書第一點原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アリ原判決理由第一乃至第七ニ依レハ被告人ハエンバイヤ自動車商會主柳田諒三外六名ヨリ自動車ヲ買入レ月賦金完済ニ至ル迄ハ其ノ所有權ヲ賣主ニ留保シ買主タル被告人ニ於テ賃借シ占有使用スル特約ヲ結ヒタリ然ルニ被告人ハ右月賦金ヲ完済セサルウチ右自動車ヲ細川清外數名ニ賣渡擔保ニ提供シテ金員ヲ借受ケ以テ横領シタリト云フニアリ右ニヨレハ被告人對賣主間ノ特約條項アルノ一點ニ基キ月賦完済ニ至ル迄所有權賣主ニ存シ被告人ニ於テ之ヲ利用スルノ權限ナシトシテ該特約條項ノ性質竝法律的意義ヲ吟味セルノ形跡全ク存セス然ルニ今右特約ノ内容ヲ檢討センニ所謂月賦買取ノ方法タル物件ノ引渡ト同時ニ該物件ノ所有權ハ買主ニ移轉スルヲ普通一般ノ事例ト爲スヘク只買主ハ賣主ニ對シ月賦辨済ノ方法ニ依ル代金支拂

ノ義務ヲ負擔スルニ止マルナリ所有權ヲ賣主ニ留保ストナス特約ハ斯ル月賦賣買契約ニ於ケル單ナル例文的條項ニ過キスト解スヘク斯ル例文的條項ヲ契約中ニ插入スルノ事例他ニ類例尠カラス例文タラサル他ニ特別ノ事情ナキ限リコノ條項アルカ故ヲ以テ直チニ所有權カ賣主ニアリトナスハ早計ニ失スヘシ斯ル條項ノ存在ハ對外的何等ノ效果ヲ發スルモノニアラスシテ所有權ハ買主ニアリトシテ公租公課ハモトヨリ一切ノ危險負擔ハ買主ニ歸屬シ買主ハ自己ノ所有物トシテ保管使用シ賣主又之ヲ認メ自己ハ只代金債權者トシテノミ認識スヘシ右契約ノ特約條項ハ單ニ當事者間ニ於ケル月賦金支拂義務ノ履行ヲ確保セントノ心理的強制ノ意義ヲ有スルニ過キストナスヲ最モ當事者ノ意思ニ適合スト解セサルヘカラス賣主ニ使用料請求ノ權利ナキハ勿論萬一該自動車ニシテ事故其ノ他ニヨリ滅失毀損シタル場合ニ於テハ一切ノ責任ハ買主ニ歸シ賣主ハ何等ノ危險ヲ負擔スルコトナカルヘシ之ヲ以テスルモ賣主買主間ニ使用貸借關係アリトナスハ甚シキ擬制ニシテ事實ニ反スヘシ買主ニ於テ之ヲ他ニ擔保トシテ提供スルモ或ハ賣却スルモ月賦金ノ支拂ヲ怠ラサル限リ賣主ニ於テ抗辯スルノ理由ナク何等ノ不都合ヲ生セサルナリ之即チ所有權買主ニアリトノ前提ナルコトヲ裏書スルモノナリ果シテ然ラハ月賦金ノ不履行アリタルトキニ初メテ所有權賣主ニアリトノ主張ヲ許容シ横領罪ノ成立ヲ認ムヘキヤ否代金支拂ノ義務ハ民事請求權タルノミ履行不履行ハ所有權歸屬ノ本質ヲ變更スヘキモノニアラス今若シ斯ル特約ヲ直チニ有效視センカ凡テノ賣主ハ有利ナル地位ヲ利用シテ凡テ代金ノ支拂完了ヲ待チテ初メ

テ物件ノ所有權ヲ買主ニ移轉ストノ特約ノモトニ商取引ヲ爲シ代金支拂ノ不履行アルトキハ直チニ之ヲ横領罪ナリト主張スヘク斯ル事實ハ商取引ノ慣例ト一般社會ノ通念ニ反スルコト甚大ニシテ公序良俗ニ反スル無効ノ行爲タルヲ免レサルヘシ惟フニ本件月賦支拂方法ニヨル自動車ノ賣買ハ一般月賦賣買ト異ルトコトコト買入ト同時ニ物件ノ所有權買主ニ移轉ストナスヲ妥當ト信ス果シテ然ラハ本件ニ於テハ横領罪ノ構成スヘキ餘地存スルコトナシ原判決ハ此ノ間ノ事情ヲ精査セスシテ重大ナル事實ノ誤認ヲ爲シタルモノニシテ破毀セラルヘキモノト思惟スト云フニ在レトモ

【要旨】

被告人ハエンバイヤ自動車商會主柳田諒三外六名トノ間ニ夫々自動車ノ月賦代金完済ニ至ル迄ハ其ノ所有權ヲ賣主ニ留保シ買主タル被告人ニ於テ賃借シテ之ヲ占有使用スル特約ヲ結ヒ所謂月賦買取ノ方法ニ依リ代金等ヲ定メテ自動車ヲ引取り未タ月賦金ヲ完済セサルニ先チ擅ニ之ヲ他ニ賣渡擔保トシテ提供シ以テ之ヲ横領シタルコトハ原判決ノ認定スルトコロニシテ右ノ如キ契約ハ有效ナル一種ノ無名契約ニ屬シ所論ノ如ク商取引ノ慣例又ハ一般社會ノ通念ニ反スルニ非サルノミナラス素ヨリ公序良俗ニ反スル無効ノ行爲ニ非サルナリ所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ノ下ニ本件契約ニ於テハ自動車ノ所有權ハ之カ引渡ト同時ニ買主ニ移轉スルモノニシテ前示特約條項ハ單ナル例文ニ屬シ當事者間ニ月賦金支拂ノ義務ノ履行ヲ確保セントスル心理的強制ノ意義ヲ有スルニ過キサルモノト做シ以テ原審ノ事實認定ヲ非難攻撃スルニ歸シ採用スヘカラス而シテ原判示事實ハ原判決ノ舉示セル各證據ニ

依リテ優ニ之ヲ認ムルニ足リ刑法第二百五十二條第一項同法第五十五條ノ横領罪ニ該當スルコト明ナリ記録ヲ精査スルニ原判決ニ所論ノ點ニ付重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事 樫田忠美關與

○贓物故買被告事件(昭和九年(九)第六七一號 棄却)
(同年七月二十一日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 辻田長造 辯護人 清水嘉市
【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

勞役場留置期間ヲ定ムル方法

○判決要旨

罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムルニハ裁判所ハ單ニ一定ノ日數ヲ以テ右期間ヲ定メ得ルハ勿論一定ノ割合ニ依リ罰金額ヲ日數ニ換算スル方法ヲ以テスルコトヲ得ルモノトス

【參照】 刑法第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
留置期間內罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

○事實

勞役場留置期間ヲ定ムル方法

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月及罰金三百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ百五十日間勞役場ニ留置ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ犯意ヲ繼續シテ昭和八年六月二日ヨリ昭和九年一月十一日ニ至ル迄ノ間前後十七回ニ互リ大阪市東成區鶴橋北ノ町二丁目百七十七番地ノ自宅ニ於テ堤下正一カ其ノ傭其ノ雇ハレ先ナル大阪市東區下味原町八十番地仁科猪三郎方外二箇所ニ於テ竊取シタル豚毛三十八貫餘(價格約三千百八十餘圓)及セルロイド刷子百本(價格約五圓)ヲ其ノ贓物タルノ情ヲ知リナカラ代金合計金千六百三十餘圓ニテ買受ケ以テ贓物ノ故買ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十六條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期及罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月及罰金三百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シ被告人ヲ百五十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人清水嘉市上告趣意書第二點原審裁判所ハ被告人ニ對シ罰金三百圓言渡シ完納ナス事能ハサリシトキハ百五十日勞役場ニ留置スルトノ判決ナリ然レ共原審ノ如クセハ被告人ノ都合ニテ百圓或ハ二百

圓納ムルトモ尙且百五十日間勞役場ニ留置セラレサルヘカラサル不合理ナル結果ト相成ルモノナリ依ツテ完納ナスコト能ハサルトキハ一日ヲ二圓ノ割合ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ストノ判決スヘキモノト思料ス然ルニ原審カ右文言ヲ入レサリシハ法律上不當ノ判決ナリト信スルニ付上告ニ及ヒタル次第ナリ以上ノ如クナルニ付何トツ事實ノ御審理ヲ乞ヒ被告人ニ對シ最モ長キ期間ノ執行猶豫ニテモ可ナルニ付是非共御寛大ナル御判決相願フ次第ナリト云フニ在レトモ

【要旨】

罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムルノ方法ニ付テハ何等規定スルトコロ無キヲ以テ裁判所ハ單ニ一定ノ日數ヲ以テ右期間ヲ定メ得ルハ勿論一定ノ割合ニ依リ罰金額ヲ日數ニ換算シ之ニ依リテ右期間ヲ定メ得ルモノト云フヘク所論ノ如ク必スシモ其ノ後者ノ方法ニ依リ留置期間ヲ定メサルヘカラサルモノニ非ス而シテ右孰レノ場合タルヲ問ハス罰金ノ言渡ヲ受ケタル者若シ其ノ幾分ヲ納ムルトキハ罰金額ト留置日數トノ割合ニ應シ其ノ納ムル金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置スヘク又留置ノ執行中其ノ幾分ヲ納ムルトキハ敍上ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツヘキモノナルコトハ刑法第十八條ノ趣旨トスルところナレハ留置期間ヲ一定ノ日數ヲ以テ定メタル場合ニ罰金ノ言渡ヲ受ケタル者カ其ノ罰金ノ幾分ヲ納メタルトキト雖尙留置期間ノ全部ニ付之ヲ留置スルカ如キ不當ナル結果ヲ生スヘキモノニ非サルヤ明ナリ原判決ニ依レハ本件罰金不完納ノ場合ニ付所論ノ如キ言渡ヲ爲シタルコト明白ナリト雖前敍ノ理由ニ依リ毫モ違法ノ廉ナキノミナラス原判決末尾ニ於テ罰金

三百圓ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間即百五十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノナル旨説示セルヲ以テ原判決ノ勞役場留置期間ニ關スル言渡ハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和九年(レ)第七一〇號
同年八月二日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中島末金 辯護人 鶴澤總明

【第一審】 岐阜區裁判所 【第二審】 岐阜地方裁判所 井上清一郎

○判示事項

判決言渡期日ニ於ケル辯論ノ分離又ハ再開ノ決定ノ效力—審理更新ト辯論ノ分離又ハ再開ノ決定

○判決要旨

- 一 適法ニ開廷サレタル判決言渡期日ニ於テ被告人不出頭ノ儘辯論ノ分離又ハ再開ノ決定ヲ爲スモ違法ニ非ス【要旨第一】
- 二 刑事訴訟法第三百五十三條ニ所謂公判手續ノ更新トハ判決ノ基本トナルヘキ口頭辯論ヲ更新スルコトヲ意味シ辯論ノ分離又ハ再開ノ決定ノ如キ裁判所ノ訴訟指揮ニ關スル裁判ハ其ノ決定手續ヲ更新スヘキモノニ非ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク
同法第三百三十條 被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス
同法第三百六十八條 辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス
同法第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

○事實

原審ハ後顯理由記載ノ如ク判決言渡期日ニ被告人不出頭ノ儘辯論ノ分離及再開ノ決定ヲ宣言シタル上

判決言渡期日ニ於ケル辯論ノ分離又ハ再開ノ決定ノ效力 審理更新ト辯論ノ分離又ハ再開ノ決定

其ノ後ノ公判期日ニ被告人辯護人出頭シ辯論ヲ再開シ判決ヲ爲シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大道寺慶男 井上清一郎上告趣意書第二點刑事訴訟法第三百三十條ニハ「被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ノ外開廷スルコトヲ得ス」トアルニ拘ハラヌ原審ノ昭和九年三月十七日ニ於ケル第二回公判ハ被告人及辯護人何レモ出頭セズシテ開廷シ事件ノ分離辯論再開ヲ決定シ閉廷セリ而シテ此分離再開ノ決定ニ基キ同年四月十九日ノ第三回公判開廷ノ順序トナリシモノナレハ此第二回公判手續ノ無効ハ延テ第三回公判ノ無効ヲ惹起スヘク結局裁判ノ基礎トナリシ公判手續ニ違法ヲ含ミ破毀ヲ免レサルヘシ或ハ右ノ分離再開決定ノ如キハ職權事項ニ屬スルヲ以テ差支ナシトノ反對説アルヘシトスルモ苟クモ開廷ス可カラサル公判ニ於テ決定シタリトスレハ其ノ公判手續ハ全部無効タルヘク無効ノ公判中ニ於ケル決定ヲ職權事項ナリトノ理由ヲ以テ其ノ部分ノミ有效ナリト云フ能ハサルヘシト云フニ在レトモ

記録ニ就キ調査スルニ原審ニ於ケル第一回ノ公判ハ昭和九年三月十日被告人中島末金 西垣甚作ニ對スル市會議員選舉罰則違反被告事件ニ付適法ニ開廷シ公判手續行ハレタル末裁判長ハ辯論ヲ終結シ來

ル三月十七日午前九時判決ノ言渡ヲ爲スト告ケ關係人ニ出頭ヲ命ジテ閉廷シ其ノ第二回ノ公判ハ前記判決言渡期日タル三月十七日ニ開廷セラレタルモ被告人辯護人ハ孰レモ出頭セズ裁判長ハ合議ノ上本件被告人西垣甚作ニ對スル部分ニ付テハ分離ノ上判決言渡期日ヲ變更ス又被告人中島末金ニ對スル部分ニ付テハ辯論ヲ再開ス而シテ右各期日ハ追テ指定スル旨ヲ告ケ閉廷シ又其ノ第三回ノ公判ハ敍上被告人中島末金ノミニ對スル前記被告事件ニ付同年四月十九日開廷審理セラレタルコト各當該公判調書ノ記載ニ照シ明ナリ之ニ從ヘハ所論原審第二回ノ公判期日ハ判決宣告ノ爲ニ開廷サレタルモノニシテ判決宣告ノ期日ニハ被告人ノ出頭ヲ必要トセサルコト刑事訴訟法第三百六十八條ノ精神トスル所ナレハ該公判期日ノ開廷ハ違法ニ非ヌ又所論辯論ノ分離再開ノ決定ノ如キハ其ノ性質訴訟指揮ノ裁判ニ屬シ裁判所職權ヲ以テ爲シ得ヘキ事項ナルカ故ニ必スシモ公判廷ニ於テ宣言スルコトヲ必要トスルモノニ非ヌ從テ適法ニ開廷サレタル判決言渡期日ニ於テ被告人不出頭ノ儘辯論ノ分離又ハ再開ノ決定ヲ宣言シタリトスルモ該決定ヲ目シテ無効ナリト爲スヘカラス然リ而シテ所論原審第三回ノ公判ハ被告人出頭ノ上開廷審理サレタルモノナレハ原審ノ公判手續ニハ所論ノ如キ違法ナキモノトス論旨理由ナシ同第三點刑事訴訟法第三百五十三條ニハ「開廷後引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ」トアリ而シテ原審ニ於ケル第一回公判ハ三月十日第二回公判ハ三月十七日第三回公判ハ四月十九日ニ開廷セラレ第二回公判ト第三回公判トノ間十五日以上ヲ經過セルヲ以テ審理更新ヲ

【要旨第一】

判決言渡期日ニ於ケル辯論ノ分離又ハ再開ノ決定ノ效力 審理更新ト辯論ノ分離又ハ再開ノ決定

爲シタルコトハ第三回公判調書ニ記載セル處ナリ然ルニ原裁判所ハ其ノ更新手續ノ際第一回公判調書記載ノ通り陳述セルコトヲノミ記載シ第二回公判調書ヲ援用シタル記載存セサルヲ以テ從テ第二回公判中ノ分離再開ノ決定ハ更新手續ヲ爲ササル結果トシテ當然失効ニ歸シ此ノ失効セル分離再開ノ決定ヲ基礎トシテ開廷シタル第三回公判手續モ亦全部無効ナルヘク此ノ無効ノ公判手續ニ依リ行ハレタル原審判決ノ不法ナルコト更ニ辯ヲ要セサルヘシト云フニ在レトモ

【要旨第二】

公判手續ノ更新トハ從前爲シタル公判手續ト同一ノ手續ヲ繰返スコトヲ意味スルモノニ非スシテ判決ノ基本ト爲ルヘキ口頭辯論ヲ更ニ新ニ遣リ直スコトヲ意味スルモノニシテ刑事訴訟法第三百五十三條ニ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシト在ル更新ノ意義亦之ニ外ナラサルモノトス然リ而シテ所論辯論ノ分離再開ノ決定ハ前點説明ノ如ク事實審理ノ前提タルヘキ裁判所ノ訴訟指揮ニ關スル裁判ナルカ故ニ苟モ該決定カ有效ニシテ取消サレサル限り所論ノ如ク審理ヲ更新スヘキトキト雖更ニ該決定ヲ繰返スヘキモノニ非ス然レハ原審カ其ノ第三回公判ニ於テ所論決定ヲ更新セサリシハ寧ロ當然ニシテ原審ノ公判手續ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス 檢事平井彦三郎關與

○偽證被告事件

(昭和九年(レ)第七一七號 棄却)
同年八月四日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 佐藤三太郎 辯護人 猪利重 猪股永岡 洪晴義 森岡正 廣義 鹿兒島地方裁判所
【第一審】 川内區裁判所 【第二審】 鹿兒島地方裁判所

○判示事項

偽證ト證憑湮滅罪

○判決要旨

證人カ法律ニ依リ宣誓ヲ爲シタルト否トヲ問ハス判事ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル行爲ハ勿論證人ヲシテ虚偽ノ陳述ヲ爲サシメタ

偽證ト證憑湮滅罪

ル行爲ハ孰レモ刑法第四百條ノ罪ヲ構成セサルモノトス

【参照】 刑法第四百條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處ス但シ被告人ニ對シ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス證憑湮滅ノ點ニ付テハ被告人ヲ無罪トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年六月十二日鹿兒島縣日置郡串木野村下名酒勾ツル方ニ於テ同人ノ娘タミニ對シ母ツルノ殺人被告事件ニ付裁判所テ取調ヲ受ケル際ニハツルカ川内區裁判所檢事局ニ發信シタル「ヒヨキシボサコエイキチ」ト云フ電報ノ原文ハ自分カ書イタト云フテハイカヌ父カ書イタト云ヘ若シ自分カ書イタト云ヘハオ前モ罪ニナルカモ知レヌ又母ノ爲ニモナラヌ旨申向ケタル事實アルニ拘ラス同月三十日同郡市來警察署大原巡查部長派出所ニ於テ鹿兒島地方裁判所川内支部豫審判事ヨリツルニ對スル殺人被告事件ノ證人トシテ訊問ヲ受ケ法定ノ宣誓ヲ爲シタル上證言スルニ當リタミニ對シ前記ノ如キコトヲ申向ケタル事實無キ旨殊更虛偽ノ陳述ヲ爲シ以テ偽證シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十九條ニ該當スルヲ以テ其ノ法定刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處シ尙刑ヲ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アルモノト認ムルヲ以テ同法第二十五條ニ則リ被告人ニ對シ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第三百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

本件公訴事實中被告人カ酒勾タミニ對シ前示ノ如ク申向ケ同人ヲシテ昭和八年六月十四日前記ツル方ニ於テ鹿兒島地方裁判所川内支部豫審判事ヨリ訊問ヲ受ケタル際同判事ニ對シ被告人ノ申聞ケタルトコロト同趣旨ノ供述ヲ爲サシメ以テ證憑ヲ湮滅シタリトノ點ニ付テハ犯罪ノ證明ナキヲ以テ被告人ハ無罪タルヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人猪股洪清 利岡晴樹 重永義榮 森岡庸光 猪股正清上告趣意書第四點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ則チ原判決ハ本件證憑湮滅偽證被告事件ニ付證憑湮滅ノ公訴事實ニ付テハ犯罪ノ證明ナシトシテ被告人ニ對シ無罪ノ判決言渡ヲ爲シ居ルニ拘ラス偽證ノ公訴事實ニ付テハ之ヲ認メテ被告ヲ懲役三月ニ處セルモノナリ然ルニ本件公判請求書ニ於ケル公訴事實

ノ記載ヲ見ルニ「被告人ハ第一、昭和八年六月十二日日置郡串木野村下名八千七百七十五番地酒勾ツル方ニ到リ同人ノ娘タミニ對シ母ツルノ刑事被告事件ニ關シタミカ同月十日同郡市來警察署ニ於テ鹿兒島地方裁判所川内支部檢事局檢事ヨリ取調ヲ受ケタル際同月六日被告人ツルカ川内區裁判所檢事局ニ發信シタル「ヒヨキシボサコエイキチ」ナル旨ノ電報ノ原文ハ自分カ書イタモノニ非スト供述セル旨聞知スルヤタミニ對シ右電報ノ原文ハ自分カ書イタト云フテハイカヌ父カ書イタト云ヘ今度裁判所テ取調ヘヲ受ケタル際ニハ決シテ自分カ書イタトハ云フナ若シソナニ云ヘハオ前サンモ罪ニナリ母ノ爲ニモ爲ラスト申向ケ同人ヲシテ同月十四日前記ツル方ニ於テ鹿兒島地方裁判所川内支部豫審判事ヨリ訊問ヲ受ケタル際同判事ニ對シ其ノ旨ノ供述ヲ爲サシメ以テ證憑ヲ湮滅シ第二、同年六月十二日前記ツル方ニ至リ同人ノ娘タミニ對シ母ツルノ刑事被告事件ニ關シ右電報ノ原文ハ自分カ書イタト云フテハイカヌ父カ書イタト云ヘ今度裁判所テ取調ヲ受ケタル際ニハ決シテ自分カ書イタトハ云フナ若シソナニ云ヘハオ前サンモ罪ニ爲リ母ノ爲ニモ爲ラスト申向ケタル事實アルニ拘ラス同月三十日日置郡市來警察署大原巡查部長派出所ニ於テ鹿兒島地方裁判所川内支部豫審判事ヨリ宣誓ノ上證人トシテ訊問ヲ受ケタル際右事實ハ全然之無キ旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ以テ偽證シ」タリト謂フニ在リテ右第一、第二ノ公訴事實ノ核心ヲ爲スモノハ被告人カタミニ對シ本件電報原文ノ立案者ニ關スル事實ニ付裁判所ニ於テ取調ヲ受ケタル際ニハ眞實ニ反スル供述ヲ爲スヘキ旨ヲ指示シタリヤ否ヤニ在リ然ルニ原判決ハ其

ノ事實理由ニ於テ第一ノ公訴事實即チ「被告人カ酒勾タミニ對シ前示ノ如ク申向ケ同人ヲシテ昭和八年六月十四日前記ツル方ニ於テ鹿兒島地方裁判所川内支部豫審判事ヨリ訊問ヲ受ケタル際同判事ニ對シ被告人ノ申シ聞ケタル所ト同趣旨ノ供述ヲ爲サシメ以テ證憑ヲ湮滅シタリトノ點」ニ付テハ「犯罪ノ證明ナキヲ以テ被告人ハ無罪タルヘキモノトス」ト判示シ以テ右第一公訴事實ヲ排斥シ居レルニ拘ラス第二公訴事實ニ付テハ被告人カタミニ對シ前記ノ如ク「申向ケタル事實アルニ拘ラス」ト爲シテ前記第一公訴事實ニ對スル判斷ト全然相反スル事實ヲ確定シ此ノ事實ヲ前提トシ其ノ後被告人カ豫審判事ニ對シ「右事實ハ全然之無キ旨虛偽ノ陳述」ヲ爲シタリトシテ犯罪ノ成立アリト爲セルモノナリ然レトモ本件事實ノ認定資料タル證據ハ第一、第二ノ公訴事實ニ付全然同一ナルコトハ記錄上明白ナリトス然ルニ其ノ同一ノ證據ヲ案シテ一ヲ否定シ一ヲ肯定シタル原判決ハ寔ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ」第五點原判決ハ理由不備且罪トナラサル事實ニ付刑罰ヲ科シタル違法アリ則チ原判決ハ本件第一公訴事實ニ付テハ犯罪ノ證明ナシトシテ之ヲ否定シ居レルニ拘ラス第二公訴事實ニ付テハ第一公訴事實ト全然同一事實ノ部分ニ付同一證據ヲ案シテ之ヲ肯定シ居ルモノナルコト前記第四點論述ノ如シ而シテ凡ソ證據ノ取捨事實ノ認定ハ事實裁判所ノ專權ニ屬スルモノナルコト論ヲ俟タスト雖苟モ一ノ證據ニ依リテ或事實ヲ否定シタルニ拘ラス同一ノ證據ヲ以テ之ト同一ノ事實ヲ肯定スルカ如キハ異常ノ場合ナレハ宜シク其ノ理

由ニ於テ依據スル所ヲ明確ナラシメサルヘカラス然ルニ此ノ點ニ付何等首肯スルニ足ルヘキ理由ヲ舉示スル所ナカリシ原判決ハ理由不備ノ違法アリト謂ハサルヘカラス加之第一公訴事實ヲ否認シタル當然ノ結果トシテ被告人カタミニ對シ原判決判示ノ如キ事實ヲ「申向ケタル事實無」カリシコトハ確定セラレタルモノトス然ラハ被告人カ「證人トシテ訊問ヲ受ケ法定ノ宣誓ヲ爲シタル上證言スルニ當リタミニ對シ前記ノ如キコトヲ申向ケタル事實ナキ旨」陳述シタルコトハ決シテ「殊更虛偽ノ陳述ヲ爲シ」タルニ非スシテ事實ヲ事實トシテ供述セルニ外ナラサルモノトス然ルニ偽證ノ罪ハ法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ成立スルモノニシテ事實ヲ事實トシテ眞實ヲ述ヘタル場合ハ偽證ノ罪ヲ構成スルコトナキハ多言ヲ要セスシテ明ナレハ本件被告人ノ行爲ハ罪ト成ラサルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十九條ニ該當スルモノト爲セルモノナレハ則チ罪トナラサル事實ニ付刑罰ヲ科シタル違法アリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

【要旨】

他人ノ刑事被告事件ニ付證人カ法律ニ依リ宣誓ヲ爲シタルト否トヲ問ハス判事ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ハ勿論同人ヲシテ右ノ如ク虛偽ノ陳述ヲ爲サシメタル場合ノ如キハ共ニ刑法第四百條ヲ以テ處罰スヘキモノニ非スト解スルヲ相當トス本件ニ付公判請求書ヲ閱スルニ公訴事實ノ第一トシテ之ニ摘示セラレタルトコロハ要スルニ被告人カ酒匂タミニ對シ原判示ノ如キ事項ヲ申向ケ同人ヲシテ昭和八年六月十四日豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル際同判事ニ對シ被告人ノ右申聞ケタルト同趣旨ナル虛偽

ノ供述ヲ爲サシメ證憑ヲ湮滅シタリト云フニ在ルヲ以テ前叙ノ理由ニ依リ右公訴事實自體ニ於テ刑法第四百條所定ノ犯罪ヲ構成セサルコト明白ナリト云ハサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テ右第一ノ公訴事實ニ付犯罪ノ證明ナキ旨説明シタルハ其ノ用語甚タ妥當ヲ缺クモノアリト雖該公訴事實ニ付被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル所以ノモノ蓋シ敍上説示ノ趣旨ニ依リタルモノト解シ得ラレサルニ非ス然ラハ原判決ハ所論ノ如ク被告人カ酒匂タミニ對シ前示事項ヲ申向ケタル事實ニ關スル諸般ノ證據ヲ措信セス從テ同事實ノ證明ヲ缺クモノト爲シタルニ非ルコト明ナルヲ以テ原判決カ右事實ノ存在ヲ其ノ措信セル證據ニ依リテ肯定シ他方ニ於テ右第一ノ公訴事實ニ付無罪ノ言渡ヲ爲シタレハトテ證據ノ取捨判斷事實ノ認定ニ關シ彼此互ニ矛盾背反スルトコロ無キモノト云ハサルヘカラス而シテ原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リテ證明スルニ足り記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ事由ナキノミナラス理由不備ノ點アルコトナシ尙右判示事實ハ刑法第六十九條所定ノ偽證罪ヲ構成スルコト疑ナキヲ以テ被告人ヲ同罪ニ問擬シタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如キ違法存スルコトナク論旨ハ執レモ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 梶田忠美 關與

○贈賄恐喝未遂收賄被告事件 (昭和九年(九)第七四七號 棄却)

(昭和九年八月六日第一刑部判決)

【上告人】 被告人 河原源一 三上英雄

外一名 辯護人 長谷川勇吉

猪俣浩三

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

町會議員ノ職務ニ密接ノ關係アル事項ト贈賄罪ノ成立

○判決要旨

町會議員カ特定ノ町長候補者ヲ當選セシムル爲他ノ議員ヲ訪問シ其ノ目的ヲ達セントスル運動ヲ爲スハ其ノ職務執行ト密接ノ關係アル事項ニシテ之ニ關シ不法ノ利益ヲ供與スルトキハ贈賄罪ヲ構成ス

【参照】 刑法第九十八條第一項 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人河原源一ヲ懲役四月ニ被告人井上安治郎ヲ懲役六月ニ各處ス右各被告人ニ對シ裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人井上安治郎ヨリ金百圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人河原源一ハ昭和六年十二月舊東京府荏原郡馬込町町長野村嘉七ノ任期滿了スルヤ後任町長タラントノ希望ヲ有シ被告人井上安治郎原審相被告人鈴木信行同山口興仁ハ同町町會議員ニシテ右町長ヲ選舉スヘキ職務ヲ有スルモノナリシトコロ

(一) 昭和七年一月二十八、九日頃當時ノ東京府荏原郡馬込町北千東七百四十七番地ナル右鈴木信行方ニ於テ同人ニ對シ同人カ後任町長ヲ選舉スヘキ町會ニ於テ自己ヲ町長ニ當選セシムヘク盡力スルコトノ謝禮トシテ金百圓ヲ手交シ以テ鈴木信行ノ職務ニ關シ賄賂ヲ交付シ

(二) 同年四月十六日當時ノ東京府荏原郡目黒町所在大國屋料理店ニ於テ右山口興仁ニ對シ前記町會ニ於テ同人カ自己ノ町長ニ選出サルコトヲ妨害セサルコトノ謝禮トシテ金五十圓ヲ手交シ以テ山口興仁ノ前記職務ニ關シ賄賂ヲ交付シ

町會議員ノ職務ニ密接ノ關係アル事項ト贈賄罪ノ成立

(三) 原審相被告人青木久次郎ト共謀ノ上同年五月二十七、八日頃當時ノ東京府在原郡馬込町南千東二百八十一番地青木久次郎方ニ於テ被告人井上安治郎ニ對シ前記町會ニ於テ同人カ自己ノ町長ニ選出サルルコトヲ妨害セサルコトノ謝禮トシテ金百圓ヲ手交シ以テ被告人井上安治郎ノ前記職務ニ關シ賄賂ヲ交付シ

第二 被告人井上安治郎ハ

(一) 舊東京府在原郡馬込町町會議員ニシテ昭和六年十二月同町町長野村嘉七ノ任期滿了ノ後任町長ヲ選舉スヘキ職務ヲ有スルモノナリシトコロ昭和七年五月二十七、八日頃前記青木久次郎方ニ於テ同人及被告人河原源一ヨリ被告人井上安治郎カ前記町會ニ於テ被告人河原源一ノ町長ニ選出サルルコトヲ妨害セサルコトノ謝禮トシテ交付セラルルモノナルコトノ情ヲ知リナカラ金百圓ノ交付ヲ受ケ以テ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

(二) 豫テ東京民友新聞大在原支局員ナル原審相被告人河村金之丞同品川正カ昭和六年五月中旬頃同町町役場ニ於テ收入役加藤三郎ノ机抽斗内ニ在リタル前記山口興仁ヨリ同收入役宛同町町長選舉ニ付町會議員買収方ヲ勸誘シタル手紙ヲ入手シタルヲ奇貨トシ右河村及品川ト共謀ノ上加藤三郎ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメンコトヲ企テ被告人井上ニ於テ同年七月初東京市大森區馬込町東二丁目千番地加藤三郎方ニ至リ同人ニ對シ右手紙ノ寫ヲ示シ本物カ或浪人ノ手ニ入り金二百圓位

賈ヒ吳レト申シ新聞記者カ持チ來リタル旨申向ケテ同人ヲ恐喝シ金員ヲ交付セシメントシタルモ同人カ之ヲ拒絕シタル爲其ノ目的ヲ遂ケサリシ

モノニシテ上叙被告人河原源一ノ判示各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人河原源一ノ判示所爲ハ刑法第九十八條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人河原源一ヲ懲役四月ニ處スヘク被告人井上安治郎ノ判示所爲中賄賂收受ノ點ハ同法第九十七條第一項前段ニ恐喝未遂ノ點ハ同法第二百五十條第二百四十九條第一項ニ該當スルトコロ右二罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ恐喝未遂罪ノ刑ニ同法第四十七條但書ノ制限ニ從ヒ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人井上安治郎ヲ懲役六月ニ處スヘク右各被告人ニ對シテハ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ夫々猶豫スヘク被告人井上安治郎ノ收受シタル判示第二ノ(一)ノ金百圓ハ同人ニ於テ之ヲ費消シ沒收スルコト能ハサルモノト認ムルヲ以テ刑法第九十七條第二項後段ニ依リ其ノ額ヲ追徴スキヘモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

町會議員ノ職務ニ密接ノ關係アル事項ト賄賂罪ノ成立

被告人河原源一辯護人三上英雄 長谷川勇吉 告趣意書第二點原判決ハ其ノ第一ノ(一)事實トシテ「被告人河原源一ハ昭和七年一月二十八、九日頃當時ノ東京府荏原郡馬込町北千束七百四十七番地ナル右鈴木信行方ニ於テ同人ニ對シ同人カ後任町長ヲ選舉スヘキ町會ニ於テ自己ヲ町長ニ當選セシムヘク盡力スルコトノ謝禮トシテ金百圓ヲ手交シ以テ鈴木信行ノ職務ニ關シ賄賂ヲ交付シ」ト認定シタリ然ルニ其ノ證據説明ノ部ニ於テ「被告人河原源一ニ對スル強制處分ニ因ル豫審判事ノ訊問調書中同人ノ供述トシテ……自分ハ判示第一ノ(一)記載ノ日時場所ニ於テ判示鈴木信行ニ對シ金百圓ヲ渡シタルカ……其ノ頃鈴木カ自分ノ町長問題ニ付他ノ議員等ヲ訪問シテ車賃等ヲ使ヒ居ルモノト思ヒ居リタル故……自分ハ百圓ヲ追拂フ考ヘニテ同人ニ渡シタル金ナリ云々ノ供述記載」ト説明シアリテ是ニ由レハ被告人源一カ判示金員ヲ鈴木信行ニ交付シタルハ同人ハ判示町長選舉ニ付被告人源一ヲ推薦シ之カ當選ヲ期スル爲町會議員ノ職務外ニ於テ他ノ議員等ヲ訪問盡力スルニ當リ車賃等ヲ要シタル爲之カ辨償ノ意味ニ於テ判示金員ヲ交付シタルモノナリト云フニ歸シ原判決認定ノ如ク鈴木信行ノ職務ニ關シ判示金員ヲ贈賄シタリトノ證據ハ毫モ之ヲ舉示スル所ナシ而シテ町會議員ハ町長ヲ選舉スルノ職務ニ關シ權限ヲ有スルヲ以テ被告人源一ハ町會議員タル鈴木信行ニ自己ヲ町長ニ選舉スヘキコトヲ依頼シ又ハ自己ヲ選舉シタル謝禮トシテ判示金員ヲ交付シタリトセハ贈賄罪ヲ構成スヘキハ勿論ナリト雖モ被告人源一ハ鈴木信行カ町會議員タル職務外ニ被告人源一ヲ町長ニ推薦スヘク盡力奔走シタル車賃其ノ他

ノ實費ヲ辨償スル意味ニ於テ判示金員ヲ交付シタリトセハ同罪ヲ構成スヘキモノニアラス從テ此ノ點ハ本件犯罪ノ成否ニ關スル重要ノ事項ナリト然ラハ原判決ハ此ノ重要ノ事項ニ付事實理由ト證據理由ト相齟齬スル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

町會議員カ町長ヲ選舉スルハ其ノ職務ニ屬シ又特定ノ町長候補者ヲ當選セシムル爲他ノ議員等ヲ訪問シ其ノ目的ヲ達セントスル運動ヲ爲スハ職務執行ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ畢竟職務ニ關スル事項ナルカ故ニ斯カル運動ヲ爲シタルコトニ關シテ不法ノ利益ヲ供與スルトキハ贈賄罪ヲ構成スルコト本院判例ノ趣旨ノ存スルトコロナレハ原判決カ所論證據ニ依リ判示贈賄事實ヲ認定シタルハ不法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○放火被告事件(昭和九年(九)第七八七號 棄却)

【被告人】 被告人 馬場綱吉 辯護人 橋本 潔
【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

障礙未遂ノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

○判決要旨

障礙未遂ナリトノ事實上ノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上刑ノ減免ノ原由タル事實上ノ主張ニ該當セス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ
刑法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年ニ處ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十二年頃以降新川駒吉ヨリ其ノ所有ニ係ル大阪府岸和田市宮本町百八十三番地所在家屋ヲ借受ケ同所ニ於テ妻小梅名義ニテ旅人宿營業ヲ爲シ來リタルトコロ豫テヨリ隣家ナル家主前記新川駒吉夫婦ト快カラス昭和八年八月頃同人等ヨリ右家屋ノ階上全部ノ明渡ヲ迫ラレタル爲僅ニ關東煮商ヲ營ムノ餘儀ナキニ至リ一層右駒吉夫婦ニ對シ含ムトコロアルニ至リタル折柄同年十二月十四日頃ノ夜右駒吉妻ナミヨリ被告人方顧客カ喧騒ナリトテ顧客ノ居合セルニ拘ラス甚シク難詰セラレタルコトアリシカ其ノ後家業漸次振ハサルニ及ヒ右ハナミノ前記所爲ニ基クモノナルヘシト思惟シ憤懣愈々ツノリ同月二十二日夜不圖右駒吉夫婦ノ被告人ニ對スル平素ノ所爲ニ想到スルヤ忿懣ノ餘同夜十一時頃寧ロ被告人方裏手ニ當リ大南利三郎カ現ニ住居ニ使用セル家屋ト一棟ヲ爲シ居レル前記駒吉所有ノ木造瓦葺平家建鐵工場ニ放火シ以テ駒吉夫婦ニ對スル積怨ヲ霽ラサンコトヲ決意シ翌二十三日午前二時頃在合セタル揮發油ヲ携ヘテ前記鐵工場南側出入口ニ立越シ同所附近ニ置キアリタル薪及附近格子窓等ニ右揮發油ヲ振り掛ケタル上此等ヲ放火材料トシ燐寸ヲ以テ之ニ點火シテ放火シ因テ前記工場南側出入口附近ノ鴨居柱等ノ一部格子窓等ヲ燒焦シ以テ他人ノ現ニ住居ニ使用セル家屋ト一棟ヲ爲ス建造物ヲ燒燬シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第百八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇處斷スヘ

キトコロ犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

尙第二審第一回公判ニ於テ辯護人今堀孝人ハ被害ハ極メテ僅少ニシテ其ノ燒燬程度ニテハ未遂ト認定セラルヘキカ社會常識上相當ナラム云々ト述ヘ辯護人金井正夫ハ本件燒燬ノ程度ニテハ未遂ト認定セラルヘキモノナルニヨリ未遂トシテ寛大ナル處分アリ度シト述ヘタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點原審カ自行爲ヲ現ニ人ノ居住スル建物ニ對スル放火既遂トシテ處斷セラレタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノト存候被害者ハ自分放火ノ結果ニヨリテ經濟上厘毫モ失ヒタルコロナキモノニシテ本件記録中被害者カ火災ノ爲十間餘リ要シタル旨供述シタルハ現場ニ設ケタルトタシ柵ニ要シタル金額ニシテ黒化シタル部分ノ修繕ニ用ヒタルモノニハ無之放火ノ結果ハ建物ノ經濟上ノ利用價值又ハ賣買價格ヲ少シモ減少シタルモノニ無之候放火ハ一面財産ニ對スル犯罪ニシテ其ノ既遂トシテ處斷センカ爲ニハ必ス目的タル家屋ノ價值ヲ損傷セサルヘカラサルモノト信セラレ候然ルニ

局所ヲ黒化シタルノミナル本件ニ對シ既遂トシテ處斷セラレタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノト存候ト云フニアレトモ

刑法第八條ニ所謂燒燬トハ犯人ノ點シタル火力媒介物タル燃料ヲ離レ建造物其ノ他ノ物ニ移リ獨立シテ其ノ燃燒力ヲ持續スル事實ヲ指スモノニシテ苟モ斯ル狀態ヲ生シタル以上火力直ニ消止メラレ建造物等ノ經濟上ノ價值ヲ損スルニ至ラサリシ場合ニ於テモ右法條ノ罪ノ既遂トナルモノトス原判決ノ確定シタルトコロニ依レハ被告人ノ放火ノ結果大南利三郎カ現ニ住居ニ使用セル家屋ト一棟ヲ成セル原判示工場南側出入口附近ノ鴨居柱等ノ一部格子窓等ヲ燒焦シタリト謂フニアレハ右カ前記法條ニ所謂建造物ノ燒燬タルコト固ヨリ論ナク該建造物カ右ニ依リ其ノ經濟上ノ價值ヲ損シタリヤ否ヤハ問フトコロニ非ス然レハ原判決ニハ何等所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法存スルコトナク論旨ハ理由ナキモノトス

第二點原審ハ本件放火ノ結果火力ハ其ノ儘放置スルニ於テハ建物ヲ燃盡シ得ル程度ニ達シタルモノナリトシテ既遂ノ法條ヲ適用セラレ候然レトモ放火ハ一面公共ノ靜穩ヲ害スル行爲ニシテ之カ侵害セラレタル時始メテ既遂トシテ取扱フコトヲ得ルモノト存候然ルニ火力カ獨立ノ燃燒ノ域ニ達セハトテ常ニ必ス公共ノ安靜カ侵害セラレタリト云フコト能ハサレハ之ヲ例ヘハ山中ノ一軒家ニ放火シ火力カ獨立燃燒ノ域ニ達シタル際直ニ自ラ消火シタル場合ヲ考フルニヨリ明カナリサレハ單ニ火力カ斯クノ如

キ程度ニ至リタル事ヲ判示シタルノミニテ既遂ノ法條ヲ適用シタルハ審理不盡或ハ理由不備ノ判決ト存候ト謂フニアレトモ

刑法第八條掲記物件ノ燒燬ハ通例公共ノ危險ヲ生スルモノナレハ同條ハ其ノ一般的性質ヲ稽ヘ苟モ是等ノ物件ニ付燒燬ノ事實アレハ具體的ノ場合ニ於テ現實公共ノ危險ヲ生シタルト否トニ拘ラス之ヲ犯罪トシテ處斷スルノ趣旨ナリト謂フヘク從テ火力カ公共ノ危險ヲ生スル程度ニ達シタル場合ニ既遂ト爲ルトスル論旨ハ誤レリ原判決ニハ何等所論ノ如キ擬律ノ錯誤アルコトナク論旨ハ採用スルコトヲ得ス

辯護人橋本潔上告趣意書第二點原判決ハ被告人ヲ放火既遂罪トシテ刑法第八條ニ問擬處斷シタリ然ルニ原院公判調書ヲ閱スルニ被告人ノ辯護人ハ孰レモ本件放火ハ未遂ニシテ既遂ニアラサル旨主張シタル旨記載アリ仍テ原判決ニ於テハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ依リ辯護人ノ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナリトス然ルニ辯護人ノ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ右法條ノ規定ニ違背シ破毀スヘキモノト信スト謂フニアレトモ

【要旨】

刑事訴訟法第三百六十條第二項カ法律上刑ノ減免ノ原由タル事實上ノ主張ニ對シ判決ニ判斷ヲ示スヘキコトヲ 定シタルハ 律上特定ノ事實アレハ必刑ノ減免ヲ爲ササルヘカラサル場合其ノ事實ノ主張アリタルニ對シ之カ判斷ヲ示スヘキコトヲ命シタルモノニシテ刑法第四十三條本文ノ如キ法律上刑ノ

減輕ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メ之カ減輕ヲ爲スト否トヲ裁判所ノ裁量ニ委ネタル場合尙且其ノ主張ニ對スル判斷ヲ掲クヘキコトヲ命シタルニアラサルコトハ本院ノ判例トスルコトコナリ原審公判調書ヲ查スルニ辯護人今堀孝人 金井正夫ハ交々本件燒燬ノ程度ニテハ放火罪ハ未遂ニ了リタルモノト認定セラルヘキモノナル旨主張シタルモノナレハ右ノ主張ハ刑法第四十三條本文ニ依リ刑ノ減輕ヲ爲シ得ヘキ事實ノ存スルコトヲ主張セルモノニシテ右ハ敍上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上刑ノ減免ノ原由タル事實上ノ主張ニ該當セサルモノトス從テ原判決カ右辯護人ノ主張ニ對シ判斷ヲ示ササレハトテ之ヲ目シテ不當ト做スヲ得ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○印紙税法違反被告事件(昭和九年(九)第八〇一號 棄却)

一〇七八 (二六)

【上告人】 被告人 飯田 清平 辯護人 高野 精一
【第一審】 小樽區裁判所 【第二審】 札幌地方裁判所

○判示事項

勤勞所得ノ受取書ト印紙稅

○判決要旨

印紙税法第五條ニ掲クルモノヲ除ク以外ノ受取書ニハ假令勤勞ニ對スル報酬ニセヨ苟モ營業ニ關スルモノナル以上ハ同法所定ノ印紙ヲ貼用セシムヘク之ニ違反スルニ於テハ同法第十一條ノ犯罪ヲ構成ス

【參照】 印紙税法第一條 財産權ノ創設、移轉變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書帳簿及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

同法第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
二十九 受取書 三錢

同法第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
十四 記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
同法第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ證書、帳簿一箇毎ニ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額三圓ニ達セサルトキハ三圓ノ科料ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料三圓ニ處シ右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十年頃ヨリ土地ノ測量設計等ヲ營業トシ居ルモノナルトコロ昭和八年七月七日小樽市稻穗町茨城與八郎別宅ニ於テ豫テ同人ノ依頼ニ依リ土地ノ分割測量及製圖作成ノコトヲ約シ其ノ仕事ノ日當ノ内金三十圓ヲ受領スルニ當リ其ノ受取書一通ヲ作成シ之ヲ右與八郎ニ交付シナカラ之ニ所定ノ收入印紙ヲ貼用セサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ印紙税法第四條第一項第二十九號第五條第十一條但書ニ該當スルヲ以テ被告人ヲ科料三圓ニ處スヘク右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ二日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

勤勞所得ノ受取書ト印紙稅

一〇七九 (二七)

本件上告ハ之ヲ棄却ス

一〇八〇 (一七)

○理 由

辯護人高野精一上告趣意書原審判決ハ印紙税法第四條第一項三十一號同法第十一條ヲ適用シテ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲナシタリ然レトモ抑々本件係争ノ受取書ハ同法第五條第十四號ノ規定ニ基キ所謂營業ニ關セサル受取書ニ該當スルモノナルヲ以テ印紙ヲ貼用スルノ義務ナキモノトス而シテ被告人ハ製圖測量業者ニシテ其ノ業務ノ所得收入ハ所謂勤勞報酬ニシテ辯護士、醫師、產婆等ノ受クル報酬ト實質的ニ見テ何等其ノ間區別アルコトナシ從テ辯護士、醫師、產婆等ノ收入ニ關スル金員ノ受取書ニ印紙ヲ貼用スルノ義務ナキト同時ニ前記製圖測量師ノ業務上ノ收入ニ關シテモ亦同一ノ結論ニ到達セサルヘカラス然ルニ原判決ハ此ノ點ニ關スル被告ノ辯疏ヲ排斥シ營業ニ關スル受取書ナリト認定シタルハ擬律錯誤ノ顯著ナルモノトスシカモ原審判決ハ印紙税法第五條第十四號ノ所謂營業ノ意義ヲ極メテ廣義ニ解釋シテ凡ソ收入ノ淵源トスル目的ヲ以テ爲ス業務行爲ノ總テヲ包括ストナセトモ其ノ失當ナルコト洵ニ明白ナリ何トナレハ營業ニハ廣狹二様ノ意義アリ廣義ノ營業ハ原審判決認定ノ如シト雖モ狹義ノ營業ハ業務ノ内容カ單ナル勤勞ニ止ルモノハ須ク之ヲ除外シ其ノ餘ノ業務ヲ營業ナリト解スヘシ印紙税法第五條第十四號ノ所謂營業ハ固ヨリ狹義ノ營業ニ屬シ勤勞報酬ヲ除外スヘキコト既ニ説明セルカ如シ若シ夫レ原審判決ノ如ク所謂營業ヲ廣義ニ解釋センカ公務員カ公務所ニ對スル俸給手當及旅

費ノ受取書會社員カ會社ニ對スル俸給手當ノ受取書勤勞者カ受領スル勞銀ノ受取書ニ對シテモ亦印紙ヲ貼用セサルヘカラサル極メテ不合理ナル結果ヲ生スルニ至ルヘシ加之本件係争ノ受取書ハ被告カ茨木與八郎ヨリ測量製圖ノ目的ノ爲一日日當幾何トシテ賃金ヲ定メテ雇傭セラレタルモノナルコトハ一件記録ニ徴シ極メテ明瞭ニシテ寸疑ヲ挾ム餘地ナシ果シテ然ラハ孰レノ點ヨリ觀察スルモ之ヲ以テ營業上ノ收入ナリト判定スルカ如キハ不合理モ亦茲ニ至ツテ窮マレリト云フヘシ以上ノ次第ナルヲ以テ原審判決ハ印紙税法第五條第一項第十四號ノ規定ヲ不當ニ適用セスシテ有罪ノ判決ヲナシタルハ其ノ失當ナルコト洵ニ明白ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云フニアレトモ
土地ノ測量製圖ノ如キ仕事モ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ業トスルニ於テハ印紙税法ニ所謂營業ニ外ナラス原判決ノ認メタル事實ハ「被告人ハ大正十年頃ヨリ土地ノ測量設計等ヲ營業トシ居ルモノナルトコロ昭和八年七月七日小樽市稻穂町茨木與八郎別宅ニ於テ豫テ同人ノ依頼ニヨリ土地ノ分割測量及製圖作成ノコトヲ約シ其ノ仕事ノ日當ノ内金三十圓ヲ受領スルニ當リ其ノ受取書一通ヲ作成シ之ヲ右與八郎ニ交付シナカラ之ニ所定ノ收入印紙ヲ貼用セサリシモノナリト云フニ在リテ其ノ舉示セル證據ニ依レハ被告人ハ營利ノ目的ヲ以テ判示仕事ヲ其ノ常業ト爲シ居ルモノニシテ判示受取書ノ作成ハ被告人ノ右業務ニ關スルモノナルコト明ナルヲ以テ判示受取書ハ印紙税法ニ所謂營業ニ關スル受取書ニ該當スルモノトス而シテ印紙税法ヲ案スルニ第一條ニハ財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證

勤勞所得ノ受取書ト印紙税

一〇八一 (一七)

書帳簿及財産権ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘキ旨規定シ又營業ニ關セサル受取書ニ付テハ同法第五條第十四號ニ依リ印紙稅ヲ納ムル要ナキモ苟モ營業ニ關スルモノナル以上右第五條ニ掲クルモノヲ除ク以外ノモノハ假令勤勞ニ對スル報酬ニセヨ印紙稅ヲ納メシムヘキ法意ナリト解スヘキモノトス蓋シ勤勞ニ對スル報酬ニセヨ因テ作成シタル受取書ハ財産權ノ移轉ヲ證明スヘキ證書タルニ外ナラサレハナリ原判決ニ於テ被上被告人カ作成交付シタル受取書ヲ營業ニ關スルモノト認メ之ニ印紙ヲ貼用セサル所爲ニ對シ印紙稅法第十一條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

【要旨】

○上訴權回復請求再抗告事件 (昭和九年(刑)第二二二號 棄却)

【被告人】 (回復請求人) 平田 良衛

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

原審辯護人ヨリ上訴シタルヘシト輕信シタル場合ト上訴權回復ノ請求

○決定要旨

原審辯護人ヨリ上訴シタルヘシト輕信シ被告人自身上訴セスシテ上訴期間ヲ徒過シタル場合ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

【參照】 刑事訴訟法第三百七十九條 原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

同法第三百八十七條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ

上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○事實

抗告ノ要旨摘示ノ通り

原審辯護人ヨリ上訴シタルヘシト輕信シタル場合ト上訴權回復ノ請求

○主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

抗告ノ要旨ハ抗告人ハ治安維持法違反被告事件ニ付昭和九年四月二十三日東京地方裁判所ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處ス但シ未決勾留日數中四百日ヲ本刑ニ算入ストノ判決ヲ受ケタルヲ以テ之ニ對シ直ニ控訴ヲ爲サムトシタルトコロ當時抗告人ハ勾留中ニシテ該判決言渡ヲ受ケタル後日没ニ及ンテ假監ヨリ豊多摩刑務所ヘノ歸途押送車中ニ於テ押送ノ任ニ在リタル看守ニ對シ保釋願ノ手續ヲ問ヒタルニ同看守ハ判決言渡後ニ於テハ控訴狀ヲ提出シタル上ニ非サレハ保釋願ヲ提出スルヲ得ス蓋シ判決ニ服スルナラハ保釋ノ請求ヲ爲スコト無意味ナレハナリト告ケラレタリ依テ法律智識ナキ自分トシテハ尤モ至極ナリト信シタリ故ニ翌日控訴狀提出ノ上保釋ノ請求ヲ爲サムト心組ミ居リタルニ即夜辯護人ヨリ爲サレタル保釋ノ請求許可セラレ釋放セラレタルヲ以テ自分ハ辯護人ヨリ控訴シタルモノト信シ歸宅後モ辯護人ニ對シ何等ノ打合せヲ爲ササリシ次第ニシテ全ク押送ノ任ニ在リタル看守ノ誤レル告知ノ爲遂ニ上訴期間ヲ徒過シタリサレハ他ノ常人ノ言ト異リ被告人トシテハ絶對ニ信スヘキ看守ノ言ヲ信賴シタルモノナレハ之ヲ過失ト謂フヘカラス從テ抗告人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルモノトシテ上訴權回復ノ決定アルヘキハ當然ナルニ拘ラス東京控訴院カ其ノ理由ナシトシテ抗告棄却ノ決

定ヲ爲シタルハ不當ナリト謂フニアリ

仍テ按スルニ保釋ノ請求ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル場合上訴期間中ト雖之ヲ爲スコトヲ得ヘク上訴ノ申立ノ有無ニ拘ラサルモノトス此ノコトタル刑事訴訟法第二百一一條ノ規定ニ徴スルモ推知スルヲ得ヘシ又原審辯護人ハ被告人ノ爲ニ上訴ヲ爲スコトヲ得レトモ必スシモ爲ストハ限ラス故ニ辯護人ヨリ上訴シタルヘシト輕信シ獨立ノ上訴權ヲ有スル被告人自身上訴セス上訴期間ヲ徒過スルカ如キハ其ノ責被告人ニアリ上訴權回復ノ理由トナラサルモノトス記録ニ徴スルニ抗告人ハ治安維持法違反被告事件ニ付昭和九年四月二十三日東京地方裁判所ニ於テ所論ノ如ク有罪ノ判決ヲ受ケタル事實抗告人カ其ノ辯護人ヨリ爲シタル保釋ノ請求ニヨリ右判決言渡ノ即日保釋釋放セラレタル事實竝ニ控訴期間内ニ控訴ノ申立ヲ爲ササリシ事實ハ洵ニ明瞭ナリト雖抗告人カ有罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ上訴申立ノ上ニ非サレハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得ストノ一看守ノ言ヲ信シ更ニ進ンテ辯護人ヨリ爲シタル保釋ノ請求ニ基キ保釋トナリタルカ故ニ辯護人ヨリ控訴申立ヲ爲シタルモノト輕々シク推斷シ判決言渡ノ即日釋放セラレ十分ノ時間ト自由ト有シナカラ辯護人ニ問合セモ爲サス其ノ儘上訴ノ提出期間ヲ徒過シタルモノナレハ前段ノ說明ニ徴シ全ク抗告人ノ過失ニ外ナラサルモノト謂フヘク從テ抗告人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニヨリ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシモノト謂フヲ得ス然ラハ右ト同趣旨ニ出テタル原審決定ハ相當ニシテ之ニ對スル抗告ハ其ノ理由ナシ

【要旨】

原審辯護人ヨリ上訴シタルヘシト輕信シタル場合ト上訴權回復ノ請求

仍テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項後段ニ則リ主文ノ如ク決定ス
檢事松阪廣政關與

○殺人被告事件

(昭和九年(れ)第七五七號
同年八月二十七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 山本宮三郎 辯護人 新開 弘通
【第一審】 安濃津地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

幼兒ト自己殺害ノ囑託及承諾

○判決要旨

自殺ノ何タルカヲ理解スルノ能力ナキ幼兒ハ自己ヲ殺害スルコト
ヲ囑託シ又ハ殺害ヲ承諾スルノ能力ナキモノトス

【参照】 刑法第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受
ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五年ニ處ス押收ニ係ル短刀一口(證
第一號)ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ言渡シタリ

被告人ハ亡山本松藏ノ養子ニシテ昭和二年中其ノ妻ふさト婚姻シ同人トノ間ニ長男公夫(昭和三年
二月十二日生)二男恭二(昭和四年十一月三十日生)長女佳代子(昭和六年十一月十九日生)ヲ擧ケ
尙昭和八年中三男三男(昭和九年一月二日生)ヲモ懐胎セシメタルニ同年舊七月頃ヨリ同年舊八、九
月頃迄ノ間養父亡松藏ノ後妻ナリシ繼母おま(當時四十一歳)ト私通シ同人ヲモ妊娠セシメタルヨリ
之カ處置ニ窮シ同年十二月中妻ふさニ此ノ事ヲ打明ケタル處ふさハ深ク憤リ其ノ實家ナル前掲被
告人肩書居村加藤喜三松方ニ立歸リタルヲ以テ被告人ハ其ノ後自ラ再三喜三松方ニ到リ喜三松及ふ
さニ陳謝シテふさノ歸還ヲ求メ更ニ自己ノ親戚山本俊平 山本吉太郎 田岡楠太郎等ニ依頼シテ喜
三松ニ對シふさノ歸還方ヲ交渉セシメタルモ同人等ハ容易ニ之ニ應セサルノミナラス却テ離婚竝慰
藉料ヲ訴求スヘキカ如キ口吻ヲ漏シタルヨリ被告人ハ深ク前記不倫行爲ヲ恥チ且愛兒ノ將來ヲ思ヒ悞
惱苦慮ノ末遂ニ前記公夫 恭二 佳代子ノ三兒ヲ殺害シタル上自己モ亦自殺セムコトヲ決意シ昭和九年

幼兒ト自己殺害ノ囑託及承諾

一月二十日夜遺書ヲ認メ置キタルモ翌二十一日ニ至リ尙一應妻ふさゑニ面會シ其ノ最後ノ意思ヲ確メ
ンモノト同日午前九時頃前記喜三松方ニふさゑヲ訪レ自己ノ非行ヲ詫ヒ只管歸還ヲ請ヒタルモ其ノ效
無カリシヨリ遂ニ前夜ノ決意ヲ實行セントシ尙當時既ニ出生シふさゑノ傍ニ在リタル三男三男ヲモ共
ニ殺害セント決意シ之ヲ抱キテ前掲被告人肩書居宅ニ立戻リ同日午前十時過頃同家納家二階五疊ノ間
ニ於テ犯意ヲ繼續シ短刀(證第一號)ヲ以テ順次公夫 恭二 佳代子 三男ノ各咽喉部ヲ突刺シ因テ右
四名ヲ夫レ夫レ失血竝空氣栓塞ニ因リ死亡スルニ到ラシメ殺害シ自己モ亦其ノ場ニ於テ自殺セントシ
テ咽喉部ニ右短刀ヲ突刺シタルモ其ノ目的ヲ果ササリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第九十九條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選
擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘク押收ニ係ル短刀一口(證第一號)ハ被告人ノ
所有ニシテ本件犯行ノ用ニ供シタルモノナルカ故ニ同法第十九條第一項第二號第二項ニ基キ之ヲ沒收
スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人新開弘通上告趣意書第三點原判決ハ上告人ノ長男公夫ニ對スル上告人ノ殺害行爲ニ付刑法第百

九十九條普通殺人罪ノ適用ヲ爲セリト雖右被害者ニ對シテハ上告人ハ特ニ上告人ト共ニ死スヘキ旨ヲ
懇諭シ其ノ承諾ヲ得タルノミナラス上告人カ其ノ殺害行爲ニ著手スルニ當リ上告人ハ子ニ對スル情愛
ノ切ナルモノアリ其ノ實行ヲ躊躇シ居タリタルニ被害者公夫ハ上告人ニ對シ「早ク死スヘキ」旨ヲ催
促シタルハ公判調書ニ明ナリ由是觀之上告人ノ當該行爲ハ囑託若クハ承諾殺人罪ヲ構成スルモノト云
ハサルヘカラス然ラハ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認乃至擬律ノ錯誤ニ陥リタルモノト信スト云フニ在
レトモ

原判示ニ依レハ本件被告人ノ犯罪當時公夫ハ僅ニ五年十一月ノ幼兒ニ過キサレコト明白ニシテ未タ自
殺ノ何タルカヲ理解スルノ能力ヲ有セス從テ自己ヲ殺害スルコトヲ囑託シ又ハ殺害ヲ承諾スルノ適格
ナキモノト認ムヘキヲ以テ公夫ニ於テ本件殺害行爲ヲ囑託シ又ハ之ヲ承諾シタルモノトハ到底之ヲ認
ムルヲ得ス此ノ點ニ於テ所論ノ如ク原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル
事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

【要旨】

○詐欺被告事件 (昭和九年(九)第七八六號 棄却)

【上告人】 被告人 柴田 秀福 辯護人 塚崎直義

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

公判請求書ヲ引用シタル證據說明

○判決要旨

證據說明ヲ爲スニ當リ被告人ノ供述内容ヲ示ス爲ニ之ト同一ノ記載アル公判請求書ヲ引用スルハ違法ニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定證據ノ說明並法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和二年頃海賊カ數十年前北海道十勝國狩勝山中ニ埋藏シタル數千萬圓ノ財寶アリトノ風聞ヲ耳ニシ昭和六年頃狩勝山中ニ入り之ヲ探檢シタルモ其ノ埋沒場所ヲモ財寶ヲモ發見スルコト能ハスシテ引揚ケタルモノナル處生活費ニ窮スルノ餘リ世上偶々黃金ニ狂奔スル風潮アルヲ奇貨トシ右風聞カ根據明ナラス財寶ノ實在スルコト確カナラサルニ拘ラス他人ニ對シ之ヲ秘シ恰モ右財寶ノ實在確實ニシテ被告人ハ其ノ所在ヲ知り居ルモノノ如ク裝ヒ之カ發掘事業ヲ爲スニ付資金ヲ出資セラレ度キ旨申許リ因テ他人ヲ欺罔シテ出資金名義ノ下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和八年七月二十四日頃ヨリ二十九日頃迄ノ間ニ數回ニ東京市中野區天神町二十三番地天野武雄方其ノ他ニ於テ同市澁谷區豐分町五番地天草三郎ニ對シ「自分ハ北海道十勝國狩勝山中ニ四、五十年前海賊カ埋メタル四千萬圓位ノ財寶ノ發掘事業ニ從事シ人夫五十人位ヲ入レテ作業ニ從事シ居ルモノナルカ自分ハ埋メタル者ヨリ場所ヲ聞キ探シタル結果政友會代議士森恪カ昭和四年中ニ掘出シタル二箱ノ中一箱ノ空箱カ現在現場ニ残り居ルヲ知り尙河カラ引揚ケル際鎖ノ痕カ尙残り居ルヲ見タル者ナル故絶對ニ間違ヒナシ現在残り居ルハ十七箱ニ入レ約金四千萬圓ナリ埋沒財寶ヲ掘リ出スハ非常ニ利益アルコトナルモ夫レニハ約一萬二千圓ヲ要スル故出資セラレ度シ」ト虛構ノ事實ヲ申告ケ右天草三郎ヲ欺罔シ同人ヲシテ被告人ニ對シ右發掘事業援助資金トシテ金一萬二千圓ヲ出資スルコトヲ約諾セシメ此ノ約ニ基ク出資金トシテ即日同市麴町區永田町料理店幸樂ニ於テ同人所有現金一千圓ヲ次テ同年八月七日天草三郎方ニ於テ同

人所有現金二千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ其ノ後モ殘金九千圓ヲ交付セシムヘク努力シタルモノナ
リ
以上ノ事實ハ

(一) 當審第一回公判調書中裁判長ハ被告人ニ對シ公判請求書記載ノ公訴事實ヲ讀聞ケ此ノ事實ニ
付被告人ハ何カ陳述スルコトアリヤト問ヒタルニ被告人ハ事實ハ其ノ通り相違ナキ旨答ヘタル旨
ノ記載及公判請求書(記録第三九六丁)中公訴事實トシテ「被告人ハ昭和六年頃北海道十勝國狩
勝山中ニ海賊ノ埋沒セル數千萬圓ノ財寶アリトノ風聞ニ基キ之カ探檢ニ赴キタルモ風聞ノ如キ財
寶ノ發見ヲ爲シ得スシテ引揚ケタルモノナル處右風聞ヲ利用シテ金員騙取ヲ企テ昭和八年七月二
十日頃清水治作及高橋武雄等ヲ介シ澁谷區豊分町五番地天草三郎ニ右事業ノ資金ノ調達方ヲ申込
ミ昭和八年七月二十九日及同年八月七日ノ二回ニ前記天草三郎方ニ於テ自己ハ現在北海道十勝國
ニペンツ岳ニ今ヨリ三、四十年前海賊ノ埋沒セル財寶ヲ發掘スヘク人夫約五十人位ヲ使用シテ發
掘事業中ニテ埋沒現場ニハ昭和三年頃故政友會代議士森恪等カ發掘シタル埋沒財寶中ノ空箱現ニ
存置シアリ數千萬圓ノ財寶發掘近キニアルモ目下事業資金ニ窮シ居ルニヨリ最少限度一萬二千圓
ヲ出資セラレ度キ旨天草三郎ヲ申欺キ事業資金名義ノ下ニ内金三千圓ヲ騙取シタルモノナリ」ト
ノ記載

(一)(三)(四)省略

ヲ綜合シテ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍内ニ於テ
被告人ヲ懲役十月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人塚崎直義上告趣意書第一點ハ原判決ハ公判請求書ヲ援用シ「公訴事實トシテ被告人ハ昭和六年
頃北海道十勝國狩勝山中ニ海賊ノ埋沒セル數千萬圓ノ財寶アリトノ風聞ニ基キ之カ探檢ニ趣キタルニ
風聞ノ如キ財寶ノ發見ヲ爲シ得スシテ引揚ケタルモノナル處右風聞ヲ利用シテ金圓騙取ヲ企テ昭和八
年七月二十日頃清水治作及高橋武雄等ヲ介シ澁谷區豊分町五番地天草三郎ニ右事業ノ資金ノ調達方ヲ
申込ミ昭和八年七月二十九日及同年八月七日ノ二回ニ前記天草三郎方ニ於テ自己ハ現在北海道十勝國
ニペンツ岳ニ今ヨリ三、四十年前海賊ノ埋沒セル財寶ヲ發掘スヘク人夫約五十人位ヲ使用シテ發掘事
業中ニテ埋沒現場ニハ昭和三年頃故政友會代議士森恪等カ發掘シタル埋沒財寶中空ノ箱現ニ存置シア
リ數千萬圓ノ財寶發掘近キニアルモ目下事業資金ニ窮シ居ルニヨリ最少限度一萬二千圓ヲ出資セラレ

タキ旨天草三郎ヲ申欺キ事業資金名義ノ下ニ内金三千圓ヲ騙取シタルモノナリトノ記載」ト説明シ之ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ公判請求書ハ檢事ノ意見ヲ記載シタルモノニ係リ刑事訴訟法上證據ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ之ヲ採ツテ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

原判決ヲ閱スルニ原判決ハ原審第一回公判調書中被告人ハ裁判長ヨリ公判請求書記載ノ公訴事實ヲ讀聞ケラレ此ノ事實ニ付何カ陳述スルコトアリヤトノ問ニ對シ事實ハ其ノ公判請求書記載ノ公訴事實ノ通り相違ナキ旨答ヘタル其ノ被告人ノ供述ヲ證據ニ供シタルモノニシテ所論公判請求書記載ノ公訴事實ヲ揭ケタルハ被告人ノ認メタル事實ノ内容ヲ示スカ爲エ外ナラスシテ被告人供述以外ノ證據トシテ實ヲ揭ケタル趣旨ニ非ス然ラハ原判決ニハ所論ノ如キ採證ノ法則ニ違背シタル違法アルモノト謂フヘカラ

ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

【要旨】

○詐欺恐喝私文書偽造行使被告事件(昭和九年(れ)第七九三號 棄却)
(同年八月三十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 小林 俊雄 辯護人 (我妻 菊次)

【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

偽造委任狀行使ニ依ル最高價競買ノ申出ト係判事ニ對スル欺罔行爲

○判決要旨

不動産競賣期日ニ於テ他人名義ノ偽造委任狀ヲ提出行使シテ最高價ノ競買申出ヲ爲シ執達吏ヲ錯誤ニ陥レ其ノ者ヲ最高價競買人ト爲サシムル行爲ハ競落期日ニ於テ右最高價競買人ニ對シ競落許可ノ決定ヲ爲ス係判事ニ對スル欺罔行爲タルモノトス

【參照】 刑法第二百四十六條第二項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ

偽造委任狀行使ニ依ル最高價競買ノ申出ト係判事ニ對スル欺罔行爲

懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同
シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小林俊雄 高橋金太郎ヲ各懲役十月 被告人田中信司ヲ徵役六月ニ處ス各被告人ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中四十日宛ヲ右本刑ニ算入ス被告人田中信司ニ對シテハ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス押收品中仲田鐵次名義ノ委任狀二通(昭和九年地押第五二號ノ三ノ第四十八丁ノ委任狀及同號ノ九中昭和六年十一月十三日附仲田鐵次名義ノ委任狀)ハ孰レモ之ヲ沒收スル旨及訴訟費用ニ關スル裁判ヲ言渡シタリ
被告人佐々木信一及高橋金太郎ハ競賣場ニ出入シ不動産競賣事件ニ關シ競買人ヨリ所謂談合金ヲ收受シ被告人小林俊雄 中村正信及田中信司等ハ不動産競賣事件ニ關シ債務者ヨリ依頼ヲ受ケ競賣手續ノ完結ヲ遅延セシメテ依頼者ノ利益ヲ圖リ居リタルモノナルトコロ

第一 被告人小林俊雄ハ中村正信ト共謀ノ上

(一) 債權者宮川辰雄ヨリ債務者志村カメニ係ル横濱區裁判所昭和六年(丑)第七五號建物競賣事件ニ付右志村ノ委託ニ基キ競賣手續ノ完結ヲ遅延セシメテ以テ其ノ間同人ノ爲其ノ債務ノ支拂ヲ

免レシメンコトヲ企テ同年九月二十二日該競賣事件ノ競賣期日ニ同裁判所内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ仲田鐵次ノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ同人カ被告人中村正信ヲ其ノ代理人トシテ競賣期日ニ出頭シ競賣申立等ヲ爲スヘキコトヲ委任スル旨ノ文言ヲ記載セル右仲田鐵次名義ノ委任狀一通(昭和九年地押第五二號ノ三第四十八丁ノ委任狀)ヲ偽造シ即日之ヲ當該執達吏ニ提出行使シタル上競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ被告人中村ヲ代理人トシテ仲田鐵次名義ヲ以テ競買ノ申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月二十六日仲田鐵次ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和七年三月十日ニ再競賣ヲ公告シテ再競賣手續ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右志村ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得セシメ

(二) 債權者安藤勘太郎ヨリ債務者横田増次郎ニ係ル同裁判所昭和六年(丑)第一一九號土地競賣事件ニ付債務者横田ノ委託ニ基キ競賣手續ノ完結ヲ遅延セシメ其ノ間同人ノ爲其ノ債務ノ支拂ヲ遅延セシメンコトヲ企テ

(イ) 昭和七年七月二日該競賣事件ノ競賣期日ニ同裁判所内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ小林萬之助ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ同人カ被告人小林ヲ代理人トシテ競賣期日ニ出頭シ競買申立等ヲ爲スヘキ旨ノ文言ヲ記載セル右小林萬之助名義ノ委任狀一通ヲ偽造シ即日之ヲ當

該執達吏ニ提出行使シタル上競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ被告人小林ヲ代理人トシテ小林萬之助名義ヲ以テ競買申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月六日小林萬之助ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和八年一月十四日ニ再競賣ヲ公告シテ再競賣ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右横田ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

(ロ) 同年二月八日右事件ノ再競賣期日ニ同裁判所内ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ中村秀雄ノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ同人カ被告人小林俊雄 中村正信ヲ其ノ代理人トシテ競賣期日ニ出頭シ競買申立等ヲ爲スヘキ旨ノ文言ヲ記載セル右中村秀雄名義ノ委任狀一通ヲ偽造シ即日之ヲ當該執達吏ニ提出行使シタル上競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ右中村秀雄名義ヲ以テ競買ノ申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月十三日右中村秀雄ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定ハ確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和八年八月十一日ニ再競賣ヲ公告シテ再競賣ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右横田ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ同人ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

(三) 債權者齊藤金太郎ヨリ債務者鈴木太三郎ニ係ル同裁判所昭和七年(九)第四八〇號建物競賣事件ニ付債務者鈴木ノ委任ニ基キ前同様同人ノ爲債務ノ支拂ヲ遅延セシメントテ企テ昭和八年

四月二十八日該競賣事件ノ再競賣期日ニ同裁判所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ小林萬之助ノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ同人カ渡邊綱吉ヲ其ノ代理人トシテ競買ヲ爲スヘキ旨ノ文言ヲ記載セル右萬之助名義ノ委任狀一通ヲ偽造シ即日之ヲ係執達吏ニ提出行使シタル上競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ右小林萬之助名義ヲ以テ競買ノ申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同年五月三日小林萬之助ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和九年一月十八日再競賣ヲ公告シテ再競賣ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右鈴木ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

(四) 債權者東京建物株式會社ヨリ債務者奥村力松ニ係ル同裁判所昭和六年(九)第八〇號建物競賣事件ニ付右奥村ノ依頼ニ依リ競賣手續ノ完結ヲ遅延セシメ以テ同人ノ爲其ノ債務ノ支拂ヲ遅延セシメントテ企テ同年十一月十四日同事件ノ再競賣期日ニ同裁判所ニ於テ競買代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ被告人中村正信名義ヲ以テ競買ノ申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月十八日被告人中村正信ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和七年五月十二日再競賣ヲ公告シテ再競賣ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右奥村ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法

ノ利益ヲ得シメ

(五) 昭和六年十一月十三日債權者入山時次郎ヨリ債務者日本興業合資會社ニ係ル同裁判所同年
(四) 第三四號建物競賣事件ノ競賣期日ニ同裁判所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ仲田鐵次ノ氏名
ヲ冒署シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ同人カ被告人中村ヲ代理人トシテ競買申立等ヲ爲スハキ文言
ヲ記載セル仲田鐵次名義ノ委任狀一通(同號ノ九中昭和六年十一月十三日附仲田鐵次名義ノ委任
狀)ヲ偽造シ即日之ヲ係執達吏ニ提出行使シ

第二 被告人小林俊雄ハ昭和六年十一月二十六日頃同裁判所競賣場附近ニ於テ債權者白井清次郎債務
者伊藤和吉ノ建物競賣事件ニ關シ右白井カ競買申立ヲ爲サントスルヲ察知シ同人ニ對シ辨當代ヲ交
付スルニ於テハ同人ニ競落セシムルモ若シ該要求ニ應セサレハ競落ノ妨害ヲ爲シ假令同人ニ於テ競
落スルモ競落許可決定ニ對シ抗告等ヲ爲シ競賣手續ノ完結ヲ遅延セシムヘシト申向ケ以テ右要求ニ
應セサレハ同人ニ財産上損害ヲ加フヘキ旨暗示シテ右白井ヲ恐喝シ因テ同日同所ニ於テ同人ヨリ金
二十圓ノ交付ヲ受ケ

第三 被告人高橋金太郎ハ佐々木信一外數名ト共謀ノ上競買人ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメシコトヲ
企テ

(一) 昭和六年十二月十二日頃同區裁判所ニ於テ債權者橫濱復興信用組合債務者山口さんノ建物競
賣カ行ハレタル際木晃方カ山崎まつノ代理人トシテ金二千八百八十圓ニテ競落スルヤ同所ニ於テ
被告人佐々木ハ右晃ニ對シ金一萬圓以上ノ價値アル建物ヲ金二千八百八十圓ノ低價ニテ競落スル
トハ酷々自分達モ該建物ヲ競買スル筈ナリシカ其ノ權利ヲ拋棄シ置キタリ依テ競落金ノ二割五分
ヲ提供スヘシト大聲ニテ申向ケ被告人高橋等ハ其ノ傍ニ在リテ示威シ被告人佐々木ハ右高橋等ヲ
指示シ彼等ハ自分ノ仲間タ若シ要求ニ應セサレハ競落ヲ駄目ニシテ仕舞フト放言シ金員ヲ交付ス
ルニ非サレハ暴力若ハ右競賣手續ノ完結ヲ遅延セシムルコトニ依リ右晃並其ノ場ニ居リタル山崎
まつ等ノ身體財産ニ危害ヲ加フヘキ旨暗示シテ同人等ヲ恐喝シ同所ニ於テ同人等ヨリ金二百八十
八圓ヲ提供スルコトヲ承諾セシメタル上其ノ場ニ於テ内金約二十圓ヲ交付セシメ同月十四日頃橫
濱市中區長者町六丁目九十六番地木方永一郎方ニ於テ殘額約二百六十八圓ノ交付ヲ受ケ

(二) 昭和七年五月六日頃同裁判所内ニ於テ債權者清水正誼債務者西村繁吉ノ建物競賣カ行ハレタ
ル際繁吉ノ父西村末吉カ同所ニ出頭スルヤ被告人佐々木ハ同人ニ對シ競落セシメタルヘキ旨申向
ケ競賣事情ニ精通セサル同人ヲシテ委任狀ニ捺印セシメテ競賣手續ヲ爲シタル上高橋金太郎泉
邦太郎等ト共ニ同市中區千歲町二丁目十一番地ナル右末吉方ニ赴キ右手續ニ對スル報酬ノ約束ナ
キニ拘ラス其ノ報酬トシテ金五十圓ノ提供ヲ迫リ之ヲ拒絕セララルヤ約束ノ金ヲ出セ貴様等ニ祇
メラレテ堪ルカ此ノ位ナ家ハ叩キ壞シテ仕舞フ等ト放言シ被告人高橋モ亦末吉ニ對シ出金ヲ促シ

金員ヲ交付スルニ非サレハ暴力ヲ以テ右末吉ノ身體財産ニ危害ヲ加フヘキ旨暗示シ同人ヲ恐喝シ其ノ場ニ於テ金三十圓ヲ交付セシメ

(三) 昭和八年七月十八日頃同裁判所ニ於テ株式會社越前屋吳服店ノ失權株ノ競賣カ行ハレタル際競買人佐々木浪越兒カ歸宅セント同所廊下ニ出ツルヤ被告人佐々木ハ同人ニ追ヒ迫リ金員授受ノ約束ナキニ拘ラス約束ノ金ヲ出セ金ハ三十圓ニ決ツテ居ルト怒號シ被告人高橋等ハ右浪越兒ノ周圍ヲ取り卷キテ氣勢ヲ示シ要求ニ應セサルニ於テハ暴行ニ依リ同人ノ身體ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シテ同人ヲ恐喝シ因テ同所ニ於テ金十五圓ノ提供ヲ承諾セシメ同日今村清ヲ遣ハシテ同市中區尾上町田村日進堂附近ニ於テ右浪越兒ヨリ金十五圓ノ交付ヲ受ケ

(第四事實省略)

第五 被告人田中信司ハ債權者田口茂ヨリ債務者石田鎌吉ニ係ル同裁判所昭和三年(四)第七號建物競賣事件ニ付右石田ノ委託ニ基キ競賣手續ノ完結ヲ遅延セシメ依テ其ノ間同人ノ爲其ノ債務ノ支拂ヲ遅延セシメントコトヲ企テ

(一) 昭和三年六月二十六日頃右事件ノ競賣期日ニ於テ石田イノカ競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキ事情ヲ知り乍ラ其ノ代理人トシテ石田イノノ名義ヲ以テ虛偽ノ競賣ノ申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月二十九日右石田イノニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定

確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和四年七月二十二日頃ニ再競賣ヲ公告シテ再競賣手續ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右鎌吉ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

(二) 昭和四年八月十九日右事件ノ再競賣期日ニ渡邊兼吉カ前同様競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキコトヲ知り乍ラ其ノ代理人トシテ渡邊兼吉名義ノ虛偽ノ競賣申出ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月二十二日渡邊兼吉ニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメ該決定確定シタルモ固ヨリ競落代金ヲ納付セス當該判事ヲシテ昭和五年五月十三日ニ再競賣ヲ公告シテ再競賣手續ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右鎌吉ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

(三) 昭和六年五月五日右事件ノ再競賣期日ニ渡邊つるカ競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキコトヲ知り乍ラ其ノ代理人トシテ渡邊つる名義ヲ以テ虛偽ノ競賣ノ申立ヲ爲シ同裁判所係判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同年五月八日渡邊つるニ對スル競落許可決定ヲ爲サシメタル上同年五月十三日石田鎌吉名義ヲ以テ横濱地方裁判所ニ抗告ヲ爲シ原決定ヲ取消ス旨ノ決定ヲ受ケ當該判事ヲシテ同年九月二十五日ニ再競賣ヲ公告シテ再競賣手續ヲ爲スノ止ムナキニ至ラシメ其ノ間右鎌吉ヲシテ前記債務ノ履行ヲ免レ以テ同人ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

タルモノニシテ以上被告人小林俊雄ノ私文書偽造行使、詐欺、被告人高橋金太郎ノ恐喝竝被告人田中信司ノ詐欺ノ各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人小林俊雄ノ判示所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第六十條第五十八條第一項第五十五條ニ同行使ノ點ハ刑法第六十條第六十一條第一項第五十九條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ刑法第六十條第二百四十六條第二項第五十五條ニ各該當スルトコロ以上私文書偽造同行使及詐欺ノ間ニハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ尙被告人小林俊雄ノ判示第二ノ恐喝ノ所爲ハ刑法第二百四十九條第一項ニ該當スルトコロ之ト前記詐欺罪トハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ刑法第四十七條第十條ニ則リ犯情重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ各其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人小林俊雄ヲ懲役十月ニ處ス可ク被告人高橋金太郎ノ恐喝ノ所爲ハ刑法第六十條第二百四十九條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人高橋金太郎ヲ懲役十月ニ處スヘク被告人田中信司ノ詐欺ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人田中信司ヲ懲役六月ニ處スヘク尙刑法第二十一條ニヨリ各被告人ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日宛テ其ノ各本刑ニ算入シ被告人田中信司ニ對シテハ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條ニ則リ右裁判確定ノ日ヨリ三年間右被告人ニ對スル刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收品中主文掲記ノ仲田鐵次名義ノ

委任狀二通ハ被告人小林俊雄ノ私文書偽造行使爲ヨリ生シタルモノニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二項ヲ適用シ之ヲ沒收スヘク刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ニ則リ訴訟費用中證人木方晃 植田元太郎 佐々木浪越兒ニ支給シタル分ハ被告人高橋金太郎 佐々木信一ノ連帶負擔トスヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人俊雄辯護人海野普吉上告趣意書第一點原判決ハ理由不備ノ失當アリ證據ニ依ラスシテ事實ヲ確定シタル違法アルモノト信ス原判決ハ被告人小林ニ對スル判示事實理由第一ノ(一)乃至(四)ニ於テ「……競落代金ヲ納付シテ競落スル意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ……同裁判所判事ヲシテ其ノ旨誤信セシメ……競落許可決定ヲ爲サシメ當該判事ヲシテ再競賣ヲ爲スノ已ムナキニ至ラシメ……其ノ間……ヲシテ債務ノ履行ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得シメ」ト判示シ被告人小林ノ判示第一ノ(一)乃至(四)ノ詐欺罪ヲ認定シタリ然レトモ被告人小林カ判示ノ如ク各競賣事件ニ付競賣日期日ニ競賣場ニ於テ偽造シタル委任狀ニ基キ競買ノ申立ヲ爲シ右委任狀ヲ執達吏ニ提出シ其ノ結果所轄區裁判所判事ヨリ競落許可決定ヲ受ケ該決定確定シタルニ拘ラス代金ヲ納入セザリシトスルモ右事

偽造委任狀行使ニ依ル最高價競買ノ申出ト係判事ニ對スル欺罔行爲

實ノミヲ以テハ直ニ係判事ヲ欺罔シ之ヲ錯誤ニ陥入レシメタルモノト斷スルヲ得サルヘシ抑不動産競賣事件ニ付テハ競賣期日ニ於ケル競賣ノ指揮ハ一切係執達吏ニ於テ專行シ所轄區裁判所判事ハ直接之ニ關與セス只係執達吏カ最高價競落人ナリトシテ調書ニ記載シタル者ヲ競落人ト認定シ之ニ競落許可決定ヲ與フルニ過キサルモノナルコトハ競賣法及民事訴訟法上明定スルトコロナリ右ノ如ク不動産競賣期日ニ於ケル競賣手續ノ指揮ハ執達吏ノ專行ニ屬スルヲ以テ本件被告ノ判示ノ如キ行爲アリタリトスルモ這ハ執達吏ヲ欺罔シ之ヲ錯誤ニ陥入レタルモノト謂フヲ得ヘケンモ右行爲ヲ以テ直ニ係判事ヲ欺罔シ之ヲ誤信セシメタルモノト爲シ能ハサルコト言フ俟タサルコロナリ被告ハ原判決ニ於テ明カナル如ク偽造委任狀ヲ係執達吏ニ提出シ競買ノ申立ヲ爲シ又ハ爲サシメタルモノナレハ被欺罔者ハ係執達吏ニシテ係判事ニ非ス只係判事ハ錯誤ニ陥リタル執達吏ノ作成セル競賣調書ニ基キ競落許可ノ決定ヲ與ヘタルニ過キサルモノナレハ被告ノ爲欺罔セラレタルモノト爲シ得サルコト勿論ナリ若シ右ノ如キ場合執達吏ノ錯誤カ係判事ノ決定ニ影響ヲ及スカ故ニ執達吏ノ錯誤カ係判事ノ錯誤ナリト爲ス議論ナキニシモ非サルヘシト雖斯ル場合ハ何故然ク斷スヘキヤニ付首肯スヘキ判示理由ヲ舉示セサルヘカラス然ルニ原判決ハ執達吏ノ錯誤ヲ即係判事ノ錯誤ト誤解シ被告ノ行爲ヲ賭シ係判事ヲ誤信セシメタルモノト爲シタルハ理由不備ノ失當ヲ免レサルモノト信ス次ニ原判決ハ被告ノ判示第一事實ノ詐欺罪ヲ認定スルニ當リ之カ證據トシテ(一)被告人ノ原審公庭ニ於ケル供述(二)原審相被告人中村正

信ノ原審ニ於ケル供述(三)押收ニ係ル仲田鐵次名義ノ委任狀二通ノ存在トヲ引用セリ仍テ是等ノ證據ニ付精査スルニ引用ノ證據中ニ係判事ヲ欺罔シタリト記載更ニ存スルコトナキノミナラス前段論述セル如ク本件ハ係執達吏ヲ欺罔シタルコトアリト雖係判事ヲ欺罔スヘキ理由全然無之キモノナレハ詐欺罪ノ手段タル欺罔行爲ニ依リ係判事ニ於テ錯誤ニ陥リタリト點ニ付テハ全然證據ヲ缺如シ居ルヲ以テ原判決ハ此ノ點ニ於テ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

不動産ノ競賣期日ニ於ケル競賣ノ指揮ハ執達吏ニ於テ專行シ係判事ハ之ニ關與セサルコト洵ニ所論ノ如シト雖係判事ハ競賣期日調書ニ依リ最高價競買人ヲ知り競落期日ニ於テ競落ノ許可又ハ不許可ノ決定ヲ爲ス等相當措置ヲ爲スモノナレハ競賣期日ニ於テ代理資格ヲ詐稱シ執達吏ヲ錯誤ニ陥ラシメ最高價競買人ノ呼上ヲ爲サシムル行爲ハ延テ競落期日ニ於テ係判事ヲシテ最高價競買人ニ付錯誤ニ陥ラシムル行爲ナリト謂フヘク從テ原判決カ競賣期日ニ於テ代理資格ヲ詐リ競買申出ヲ爲シ執達吏ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ行爲アリタルコトヲ認ムヘキ證據ヲ舉示シタル以上競落期日ニ於テ競落許可決定ヲ爲スニ付係判事ヲ錯誤ニ陥ラシメタル判示行爲ニ關スル證據ハ自ラ備レルモノト謂フヘク所論ノ如ク此ノ點ニ關シ證據理由不備ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

偽造委任狀行使ニ依ル最高價競買ノ申出ト係判事ニ對スル欺罔行爲